

琵琶湖博物館 年報

14号 2009年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

ごあいさつ

この春から川那部前館長の後を受けて館長に就任しました、篠原 徹です。どうぞよろしくお願いいたします。現在の博物館をめぐる社会的状況は必ずしも好ましいものではありませんが、琵琶湖博物館が培ってきた今までの経験を生かして、博物館的な学術のさらなる展開を考えていきたいと思えます。この1年を振り返って、この博物館のおこなってきた主なものを列記し、新たな気持ちで次の年度への活力にしたいと考えます。

2009年度には第17回企画展示「骨の記憶ーあなたにきざまれた5億年の時ー」を開催しました。魚類からヒトへの進化がどのように起こっていったのか、それらの進化の痕跡がどのように私たちの体に残されているのかを数多くの骨格を展示して示したもので、入場者数7万人を超え、これまでの企画展の中で2番目に多いものとなりました。この展示には企画段階から「はしかけ」の「ほねほねくらぶ」の助力を受け、またこの関連行事としても「びわたん」の協力を受けたことを記しておきます。

同時開催として行った水族企画展示「バックボーンができるまで!!ー骨で見る魚の進化ー」では、標本や映像も交え、魚類の進化を紹介しました。

期間を限ったギャラリー展示としては、滋賀県防災危機管理局との共同主催により「百年前の大震災ー姉川地震に学ぶその備えー」と題して、昔の地震の様子を示す貴重な写真を中心に行いました。その後県内7カ所で巡回展示を行いました。さらに「古生物の復元ー科学と芸術が会おうところー」を古生物学会と協賛で行いました。

昨年度の「新琵琶湖学入門セミナー」に続いて、「新琵琶湖学専門セミナー」と題した成果公表の一環として、一般向けの講座を12月ー3月の閑散期に行いました。

また各分野の第一人者として活躍中の方々をお招きして特別講演会を毎月1回開催し、好評を博しました。

財政改革プログラム施行のもと、研究面では、科学研究費の申請を奨励してきましたが新規7件採択、継続分を併せ15件となり、今回都道府県立博物館として全国トップクラスとなったことはうれしいニュースです。

職員だけでなく多くのかたがたが、さまざまな場で積極的に琵琶湖博物館を支えてくださっていることに対し、深く感謝申し上げますとともに、今後とも博物館をより良い場に創り上げていくために、積極的なご意見・ご批判を頂きますよう、お願い申し上げます。

2010年10月1日

滋賀県立琵琶湖博物館

館長 篠原 徹

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 寄贈者および提供者	7
(3) 購入資料	8
(4) 水族繁殖生物	8
(5) 資料情報の公開	10
(6) 資料の活用	10
(7) 資料保管	16
(8) 燻蒸・処理	17
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究調査活動	
(1) 総合研究	18
(2) 共同研究	18
(3) 専門研究	18
(4) 公表された主な研究業績	20
(5) 研究助成を受けた研究	23
(6) 新琵琶湖学専門セミナー	24
(7) 琵琶湖博物館特別講演会	25
(8) 特別研究セミナー	26
(9) 研究セミナー	26
(10) 研究員の受け入れ	28
(11) 海外交流活動	28
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	30
(2) 企画展示	31
(3) 水族企画展示	34
(4) ギャラリー展示	35
(5) トピックス展示	38
(6) 集う・使う・創る 新空間	39
(7) ディスカバリールームのイベント	40
展示交流事業	
(1) 展示交流員と話そう	40
4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス事業	
(1) 観察会・見学会等	42
(2) 講座	43
(3) 体験教室	44
(4) 新春よし笛コンサート	45
学校連携事業および体験学習	
(1) 学校団体の受け入れ	45
(2) 教職員等研修	46
(3) 学校団体向け体験学習	47

(4) 一般団体向け体験学習	47
(5) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動	48
(6) 学校サテライト博物館事業	49
(7) ミュージアムスクールの運営	50
(8) 職場体験実習	51
(9) 視察対応	52
(10) 博物館実習	52
国際交流活動	
(1) 「JICA 博物館学集中コース」の実施	53
(2) 海外からの視察・研修	55
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	57
(2) はしかけ制度	58
地域交流活動への支援事業	
(1) 地域活動の支援（博物館内対応）	71
(2) 地域活動の支援（博物館外対応）	72
(3) 博物館ガイダンス	76
(4) 質問コーナー・フロアトーク	76
情報発信活動	
(1) 通信網を利用した館外への情報提供	77
(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス	78
(3) 印刷物	79
II 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	80
(2) 情報システムの整備	80
(3) 来館者アンケート調査結果	80
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	85
(2) 職員	86
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2009年度入館者数）	89
(2) 新聞掲載記録	91
(3) 広告掲載一覧	97
(4) 雑誌等掲載記録	98
(5) テレビ放映・ラジオ放送記録	101
(6) 予算	103
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	104
(2) 企画・計画	104
III 2009年度をふり返って	
1 研究部	105
2 事業部	105
3 総務部	107
IV 博物館利用のご案内	109

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。

以下に2009年度の資料整備状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、植物標本、動物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2009年度末現在で、博物館登録資料は423,244で、収蔵概数は769,598となった。

これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

【収蔵資料のまとめ】

2010年3月現在

	登録資料数	収蔵概数	2009年度登録数	2009年度受入総数
地学	32,916	44,367	306	2,975
植物	84,176	166,037	222	657
動物	102,818	256,822	2,588	6,396
微生物	0	59,119	0	1,233
水族(生体)	20,279	20,279	17,273	17,273
考古	0	1,346箱と334	0	0
歴史	0	203	0	1
民俗	6,719	6,768	0	5
環境	0	45箱と745	0	6
図書	98,028と 2,542タイトル	114,283	2,542と 631タイトル	2,112と 631タイトル
映像	75,766	99,250	0	2,318
合計	423,244	769,598	23,562	33,607

【各分野別の詳細】

地学標本	2009年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	13	0	7	0	1,629	1,636		21,842	29,459
岩石・鉱物	286	0	0	0	196	196		7,854	10,320
堆積物	7	0	0	0	1,000	1,000		2,486	3,367
プレパラート	0	0	0	0	143	143		734	1,221
小 計	306	0	7	0	2,968	2,975		32,916	44,367

植物標本	2009年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	222	0	57	0	600	657	標本受入・登録・ラベル貼付け・収蔵・管理、収蔵庫燻蒸	84,176	165,859
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	222	0	57	0	600	657		84,176	166,037

動物標本	2009年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	675	75	0	0	130	205		1,607	2,261	
内 訳	哺乳類骨格標本	3	0	0	0	2	2		195	196
	哺乳類剥製標本	0	0	0	0	3	3		8	11
	哺乳類(その他)	392	0	0	0	0	0		492	837
	鳥類骨格標本	0	22	0	0	0	22	本剥製標本の提供 1点、館での仮剥製製作 32点	110	202
	鳥類乾燥標本(単卵、レプリカ等含む)	0	53	0	0	2	55		313	526
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		28	28
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		3	3
	爬虫類液浸標本	20	0	0	0	3	3		43	43
	爬虫類(その他)	42	0	0	0	42	42		44	44
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		6	6
	両生類液浸標本	204	0	0	0	64	64		351	351
	両生類(その他)	14	0	0	0	14	14		14	14
魚類（淡水魚類）	1,805	0	0	0	12	12		52,670	82,052	
内 訳	乾燥骨格標本	0	0	0	0	0	2009年度は咽頭歯を含む乾燥骨格標本は登録しなかった	2,848	2,848	
	DNA分析用標本	22	0	0	0	1	水族や学芸員から今年度および今年度以前に提供された標本を100%エタノールでDNA分析標本とし、22件を登録した	3,726	3,726	
	液浸標本	1,783	0	0	0	11	11	前年度までの未登録標本、提供された標本を同定し、1,782件登録した	46,096	75,478
昆虫	1	401	771	0	711	1,883		34,610	146,256	
内 訳	昆虫液浸標本	1	0	0	0	1	新規提供標本を1点受け入れ、登録した	12,495	31,046	
	昆虫乾燥標本	0	401	771	0	710	1,882	村山コレクション整理 3,728件、標本作成 136件	22,115	115,210
貝類	107	211	16	0	114	341	未整理標本および新規採集・提供寄贈標本を整理し、うち107点を登録した	13,931	15,179	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	248	2	0	3,665	3,955	甲殻類他 2,096点の整理（ラベル貼り、封入など）仮データベースへの登録	0	11,074	
小 計	2,588	935	789	0	4,632	6,396		102,818	256,822	

微生物標本	2009年度							累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	0	0	作成・撮影したプレパラートおよびデジタルファイルについては、選定した後に受入予定	0	3,186
微小生物プレパラート	0	48	0	0	0	48		0	79
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,387
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	22,905
珪藻顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	24,064
微小生物顕微鏡写真デジタルファイル	0	1,185	0	0	0	1,185		0	7,476
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	22
小 計	0	1,233	0	0	0	1,233		0	59,119

水族資料 (生体)		2009年度						累 積		
		登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物		15,485	1,369	550	1,844	11,722	15,485		19,114	19,114
内 訳	魚類	15,473	1,357	550	1,844	11,722	15,473		19,069	19,069
	両生類	12	12	0	0	0	12		9	9
	爬虫類	0	0	0	0	0	0		27	27
	鳥類	0	0	0	0	0	0		9	9
無脊椎動物		1,788	713	0	882	193	1,788	1,165	1,165	
内 訳	昆虫類	269	62	0	14	193	269	193	193	
	貝類	967	99	0	868	0	967	865	865	
	甲殻類	552	552	0	0	0	552	107	107	
	環形動物	0	0	0	0	0	0	0	0	
小 計		17,273	2,082	550	2,726	11,915	17,273	20,279	20,279	

考古資料	2009年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
遺跡遺物 (舟、瓦を除く)	0	0		0	1,313箱と320
丸木船	0	0		0	5
瓦	0	0		0	22箱
灯籠	0	0		0	3
貝塚剥ぎ取り資料	0	0		0	6
展示関係 (ガリラヤ湖関係含む)	0	0		0	11箱
小 計	0	0		0	1,346箱と334

歴史資料	2009年度					累 積		
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	小牧家旧蔵資料調書作成整理212点、館蔵歴史資料595点(81件) [絵画12点(11件)、典籍180点(31件)、古文書311点(17件)、絵図74点(19件)、その他19点(4件)]	0	161
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	1	0	0	1		0	35
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	1	0	0	1		0	203

民俗資料	2009年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	5	5		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		2,586	2,587
二次資料(木造船模型)	0	0	0		0	41
小 計	0	5	5		6,719	6,768

環境資料	2009年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0		0	72
生活用具類	0	0	0		0	25
民具類	0	6	6		0	22箱と619
二次資料(レプリカなど)	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0		0	4
小 計	0	6	6		0	45箱と745

図書資料	2009年度				累 積		
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容など	登録資料数	収蔵概数
書籍	3,996	70	1,849	1,919	開架図書9,760冊、雑誌300件の整備、書籍レファレンス、コピーサービス(有料)、蔵書点検48,000点、ニューズレターの整理、図書装備4,000冊	61,556	71,319
文献	193	0	193	193		36,472	42,964
雑誌	631タイトル	58タイトル	573タイトル	631タイトル		2,542タイトル	
小 計	4,189と 631タイトル	70と 58タイトル	2,042と 573タイトル	2,112と 631タイトル		98,028と 2,542タイトル	114,283

映像資料	2009年度						累 積		
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	200	0	0	200	大橋氏フィルム整理、スキャン	75,766	92,461
動画資料	0	2,118	0	0	0	2,118	ニュース番組タイトル録画、DVD(デジタル化)編集作業	0	6,789
小 計	0	2,118	200	0	0	2,318		75,766	99,250

(2) 寄贈者および提供者(水族資料の譲与を含む)

敬称省略(点数)

【地学資料】

化石標本：北川博道(6) 高橋啓一(149) 長澤芳佑(1,480) 橋本秀雄(1)

岩石・鉱物標本：中沢和雄(61) 長澤芳佑(135)

堆積物標本：吉川周作(1,000)

プレパラート標本：南澤 修(143)

【植物標本】

さく葉標本：岐阜県博物館(200) 草加伸吾(57) 西田謙二(200) 村瀬忠義(200)

【動物標本】

哺乳類骨格標本：上田忠男(2)

哺乳類剥製標本：上田忠男(3)

鳥類乾燥標本：上田忠男 (1) 河合雲平 (1)
 魚類 DNA 分析用標本：グライガー (1)
 魚類液浸標本：大西 拓 (1) 澤田知之 (1) 水族飼育管理 (4) 田中雅也 (1) 野嶋宏二 (1)
 松田征也 (3)
 昆虫液浸標本：堀井 裕 (1)
 昆虫乾燥標本：石田未基 (73) 牛島積広 (20) 桐村信行 (771) 佐々木剛 (1) 田窪亮三 (250)
 武田 滋 (206) 出口武洋 (3) 寺田治雄 (10) 中川 優 (131) 西藤秀夫 (1)
 幅野陽介 (1) 脇坂 昇 (13) 渡邊貴彦 (1)
 貝類標本：石田未基 (85) 金尾滋史 (6) 田中政之 (1) 長田智生 (4) 西藤秀夫 (1) 菱田嘉一 (16)
 増田 修 (2) 増田 修・石田未基 (1) 八尋由佳 (13)
 昆虫と貝類以外の無脊椎動物標本 (甲殻類・寄生虫など)：Robert. J. Blakemore (1)
 Andreas Schmidt-Rhaesa (5) 石田未基 (1) 大塚 攻 (1) 河辺裕美子 (1) 田中 實 (1)
 谷口 恵 (3) 中川 優 (1,556) 中園健治 (2,096) 布村 昇 (2)

【水族資料】

脊椎動物 (魚類)：近畿大学 (40) 滋賀県水産試験場 (400) 標津サーモン科学館 (9)
 千歳サケのふるさと館 (30) 姫路市立水族館 (150)

【民俗資料】

生活生業用具：草津市立笠縫東小学校 (1) 竹中 弘 (1) 疋田千代江 (2) 山本甚之祐・有馬殿為次 (1)

【環境資料】

民具類：井上健二郎 (3) 竹中 弘 (1) 疋田千代江 (2)

【図書資料】

書籍：石田志朗 (230) 今森洋輔 (1) 上田 敬 (2) 上野雄規 (1) 金田眞宏 (2) 京都大学 (1)
 桑垣 瑞 (19) 小森崇弘君著書刊行実行委員会 (1) 寒川 旭 (1) 滋賀県退職教職員協議会 (1)
 信楽町郷土史会 (2) 清水大吉郎 (36) 上総掘りを記録する会 (2) 滝川祐子 (4) 田附清子 (1)
 たねや (1) 陳 義雄 (2) 中嶋守治 (1) 中山道守山宿歴史文化保存会 (1) 中西美智子 (1)
 西野麻知子 (1) 橋本初子 (2) 藤岡康弘 (1) ふるさとに学ぶ会 (1) 細川真理子 (1)
 水野敏明 (38) 山下詔康 (5) 吉川周作 (1)

(3) 購入資料

分野	資料名	点数	形態	内容等
歴史資料	「花園院宸記 巻28 (第十八回配本)」	1件 (1点)	古文書 (レプリカ)	

(4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila ssp.</i>	122
モツゴ	<i>Pseudorasbora pumila ssp.</i>	134
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila pumila</i>	260
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	150
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	223
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	156

種 名	学 名	個体数
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	350
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	286
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	455
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	100
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	230
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	232
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	88
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	402
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	8
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	190
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	130
ワタカ	<i>Ischikauia steenackeri</i>	91
ドジョウ科		
アユモドキ	<i>Leptobotia curta</i>	55
スジシマドジョウ小型種琵琶湖型	<i>Cobitis sp. subsp. 4</i>	141
メダカ科		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	200
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	31
ムサシトミヨ	<i>Pungitius sp.</i>	281
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp. BB</i>	220
スズキ科		
オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	35
サケ科		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou subsp.</i>	5,903
外国産魚類		
コイ科		
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis</i>	180
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	150
ローデウス・ファンギ	<i>Rhodeus fangi</i>	100
トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	154
チャイニーズワンラインペンシル	<i>Sarcocheilichthys parva</i>	71
スズキ科		
ケツギョ	<i>Siniperca chuatsi</i>	20
サンフィッシュ科		
ロングイヤーサンフィッシュ	<i>Lepomis megalotis</i>	103
メダカ科		
ランブリクティス・タンガニカヌス	<i>Lamprichthys tanganicus</i>	125
カワスズメ科		
レピディオランプロログス・アテヌアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	196
ネオランプロログス・オケラータス	<i>Neolamprologus ocellatus</i>	37
昆虫類		
タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i>	89
クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	5
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	101

(5) 資料情報の公開

1) データベースの公開

・「爬虫・両生類データベース」の新規公開（2010年2月5日）

今回新規公開できたのは主に琵琶湖博物館水族の飼育管理員として勤務していた関氏が県内各地で収集・寄贈された標本を中心にした489件で、滋賀県内産の、カエル16種、ヘビ8種、カメ3種、トカゲ、イモリ、ヤモリ各1種に外来種、県外国内産のものを含む。学名、和名、通名、都道府県市町村名、採取年月日に標本内容（液浸、骨格標本の別）、標本状態（固定、保存方法）等を掲載したもので滋賀県の爬虫・両生類が網羅されている。

・「民俗資料データベース」の公開点数の追加（2010年2月26日）

2008年度末の民俗資料情報2,555点の公開に続き、2009年度は民俗資料1,500点について、資料名、地方名、採集時地名などの情報を資料写真とともに新たに追加公開した。これらは2009年3月に刊行された琵琶湖博物館資料目録第19号「民俗資料5 生産生業（諸職）ほか」に掲載された資料である。これにより、現在収蔵中の民俗資料の公開はすべて完了した。

(6) 資料の活用

1) 資料の貸出（研究依頼を含む）

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
6	4	善利組足軽倶楽部	大橋宇三郎ギャラリー展写真パネル計35点	善利組足軽倶楽部企画展「懐かしの彦根・昭和写真展」に利用
6	5	京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター)	ギャラリー展示「つかんだ つんだ いつもいた」パネル 計5点	企画展「水のめぐみ！」に展示するため
6	18	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	地学資料（ワニの歯化石・サイの足跡レプリカなど） 計38点	企画展示での展示利用
7	7	滋賀県立安土城考古博物館	唐橋遺跡出土 無紋銀銭・和同開珎など 計8点	第38回企画展「水中考古学の世界ーびわこ湖底の遺跡を掘るー」での展示等のため
7	8	多賀町立博物館	昆虫（スズカオサムシ・オイケヒサゴメツキ）・鳥類（オオタカ・クマタカ・オオアカゲラ） 計5点	企画展「鈴鹿山脈の自然」での列品・展示
7	27	滋賀県埋蔵文化財センター	彦根市松原内湖遺跡準構造船波きり板 計2点	滋賀県埋蔵文化財センターロビー展示「水と人々の暮らし」に展示
8	6	下関市立考古博物館	松原内湖遺跡 笠骨・同 モノクロ紙焼き 計2点	企画展「木の文化 IIー古墳時代の木器ー」での展示
8	7	近江富士花緑公園	昆虫（滋賀県のトンボ全種・セミの抜け殻を調べようなど） 計9点	企画展「カラフルトンボを探しにいこう」展に展示のため
8	17	富川 光(広島大学大学院)	カイアシ類 <i>Megacyclops</i> sp.1 未記載種 1点	左記未記載種の記載論文執筆のため
8	17	富川 光(広島大学大学院)	地下水産ヨコエビ <i>Pseudocrangonyx</i> 計2点	<i>Pseudocrangonyx</i> 属の分類学的再検討のため
8	18	滋賀県農政水産部農村振興課	フナズシ箱入りレプリカ 1点	魚のゆりかご水田の広報・啓発活動の一環としてのPR展示に利用
9	4	富川 光(広島大学大学院)	甲殻類 (<i>Acanthocyclops</i> 属) 計4点	総合研究「分類学」の一環としての分類学的な研究のため
9	17	(財)滋賀県文化財保護協会	松原内湖遺跡出土木製品 計2点	連続講座(上半期)第5回において使用

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
10	8	鳥取県立博物館	地学資料（長鼻目・鳥目・ワニ目などレプリカ型） 計5点	鳥取県立博物館附属山陰海岸学習館の展示リニューアルに係る展示資料作成のため
10	9	滋賀県農政水産部農村振興課	フナズシ皿盛りレプリカ 1点	魚のゆりかご水田の広報・啓発活動の一環としてのPR展示に利用
10	9	草津市立志津南小学校	タライ・オケ・洗濯板 計3点	文化ボランティアフォーラム2009 in 滋賀 における県知事特別講師の授業にて使用
10	15	東近江市能登川博物館	湖魚レプリカ・伝統食レプリカ・DVD「ふなずしの作り方」など 計67点	第86回企画展「東近江の伝統食～美味しいものは故郷にあり～」に使用
10	22	特定非営利活動法人彦根景観フォーラム	大橋宇三郎ギャラリー展写真パネル 計5点	彦根物語'09「うるわしき湖国よ永遠に」～琵琶湖博物館ギャラリー展から～に利用
10	23	布村 昇(富山市科学博物館)	等脚類(Isopoda)の液浸標本 計193点	総合研究「分類学」の一環としての分類学的な研究、学術論文の投稿のため
11	20	滋賀県琵琶湖環境部森林政策課	エビタツベ・フナタツベ 計2点	第50回全国竹の大会滋賀県大会における記念鼎談にて利用
2	13	布村 昇(富山市科学博物館)	等脚類(Isopoda)の液浸標本 計18点	総合研究「分類学」の一環としての分類学的な研究、学術論文の投稿、解剖、顕微鏡による観察とスケッチ
3	3	河瀬直幹(みなくち子どもの森自然館)	ゲンゴロウ科標本・ガムシ科標本 計20点	ゲンゴロウ科・ガムシ科の研究のため
3	4	(財)滋賀県文化財保護協会	松原内湖遺跡縄文土器など 計7点	展覧会「発掘された琵琶湖の文化―特別展 縄文人のアーサー―」への展示
3	6	Andreas Schmidt-Rhaesa (ドイツ、ハンブルク大学動物学博物館)	ハリガネムシ液浸標本 1点	総合研究「分類学」の一環としての分類学的な研究

2) 資料の譲与

【動物】	線虫 <i>Raphidascaris gigi</i>	5点	大阪市立環境科学研究所
【水族】	ヒナモロコ	150点	志摩マリンランド
	ビワヨシノボリ	20点	生物学研究所
	イチモンジタナゴ	200点	大阪水道総合サービス水道記念館
	ムサントミヨ	50点	宮津エネルギー研究所水族館
	ウシモツゴ	30点	岐阜経済大学
	ミヤコタナゴ	341点	大阪府環境農林水産総合研究所水生生物センター
	アユモドキ	3点	大阪府環境農林水産総合研究所水生生物センター
	イチモンジタナゴ	20点	大阪府環境農林水産総合研究所水生生物センター
	ゲンゴロウ	22点	島根県立宍道湖自然館ゴビウス
	オトコタテボシ	2点	三重大学

3) 特別観覧

<映像資料>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
4	3	NHK 大津放送局	水害写真 1点	NHK 大津放送局地上デジタル放送・データ放送に使用	静止画
4	12	産経新聞大津支局	魚類(イチモンジタナゴ) 1点	新聞掲載	静止画
5	8	日本文教出版株式会社	魚類(ピワコオオナマズ) 1点	日本文教出版社刊 平成 23 年度版教科用図書「小学社会 5 年生下」に掲載	静止画
5	8	日本文教出版株式会社	前野コレクション(沖島、朝の棧橋) 1点	日本文教出版社刊 平成 23 年度版教科用図書「小学社会 5 年生下」に掲載	静止画
5	8	(株)誠文堂新光社	魚類(アユ) 1点	書籍「いきものもどき」(仮称)へのアユの写真画像掲載	静止画
5	26	NHK 大津放送局	魚類(ゲンゴロウブナ) 2点	NHK 朗読広場@日野小にて児童に説明するため映写	静止画
5	28	滋賀経済同友会	魚類・鳥類・オイサデ漁・ヨシ原・水草処理など 計11点	生物多様性の取り組みを普及するためのパンフレット作成	静止画
5	28	京都市環境保全活動センター	魚類・貝類・水草 計21点	「水」に関する企画展において、琵琶湖についてのパネル作成に使用	静止画
6	12	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	魚類(ニゴロブナ) 1点	「滋賀の環境 2009」への掲載	静止画
6	25	(財)行方市開発公社	昆虫類(アオイトトンボ他トンボ 32 種) 計32点	霞ヶ浦ふれあいランド水の科学館にてパネル展示、リーフレットに使用	静止画
7	12	草津塾(田中俊雄)	魚類(コイ・カネヒラ・モツゴなど) 計17点	7月19日にBiyoセンターで開催の「自然観察会」(魚をつかんでみよう)での配付資料に掲載	静止画
7	15	(社)日本動物園水族館協会	魚類(アユモドキ・ピワコオオナマズ・ミヤコタナゴ) 計3点	日本動物園水族館協会が行っている種保存活動を紹介する協会HPに掲載するため	静止画
7	24	小学館出版局	丸子船(松井氏建造) 1点	単行本細川護熙「隠れ棲む庭」(仮題)に掲載(2009年10月中旬発行予定)	静止画
8	6	滋賀県広報課	災害写真(姉川地震・伊勢湾台風) 計2点	県広報誌「滋賀プラスワン」平成21年9・10月号への掲載	静止画
8	10	滋賀県教育委員会事務局学校教育課	自然環境・魚類など 計110点	県小学校環境読本「あおいびわ湖」作成のため	静止画
8	15	米原市役所情報政策課	昆虫(ヤヒロミドリトビハムシ) 1点	米原市行政放送伊吹山テレビのこども理科クイズ番組内で使用	静止画
8	15	パナソニック(株)ホームアプライアンス社	魚類(アブラヒガイ・アユ・メダカなど) 計8点	小学生を対象に行う環境学習「廃油キャンドル教室」で使用	静止画
8	27	(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所	魚類(ニゴロブナ) 1点	(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所発行「琵琶湖・水未来」に掲載	静止画
8	28	(株)日経映像名古屋支社	昆虫(オオミノガヤドリバエ) 1点	テレビ愛知特別番組「いのちをつなぐ」の放送に使用	静止画
8	28	滋賀県土木交通部流域治水政策室	災害写真 計21点	滋賀県ホームページに掲載のため	静止画

月	日	貸出先	資料内容	利用目的	備考
9	18	(株)テレビ東京制作	前野コレクション(菅浦の船だまり) 1点	テレビ放送 BS-Japan「日本の原風景紀行」(2009年9月23日21時~22時放送)で使用	静止画
9	18	東近江市史編纂室	愛知川化石林・足跡化石 計8点	『東近江市史 愛東の歴史』ダイジェスト版に掲載	静止画
10	6	滋賀県土木交通部流域治水政策室	災害写真 計5点	滋賀県ホームページに掲載	静止画
10	6	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	水族資料(展示魚類10種) 計10点	びわ湖フローティングスクール「うみのこ」船内にて上映	静止画
10	8	中日新聞大津支局	魚類(イチモンジタナゴ・アユモドキ) 計2点	新聞記事の参考写真として使用	静止画
10	9	読売新聞中部支社	魚類(スナヤツメ・ウナギ・ゼゼラなど) 計8点	名古屋の絶滅危惧種(魚類)の紹介	静止画
10	15	びわこ揚水土地改良区	魚類・昆虫類・貝類など 計48点	子どもたちの環境学習・体験学習の教材資料	静止画
10	15	滋賀県農政水産部水産課	琵琶湖&川の魚ポスター図案 1点	県内の水産業に関連する情報の提供・知識の普及のため	静止画
10	15	滋賀県土木交通部住宅課	映像資料(航空写真(1961年撮影)彦根東部・近江八幡 20点)	大規模盛土造成地箇所抽出資料として使用	静止画
10	18	産経新聞大津支局	魚類(アユモドキ・イチモンジタナゴ・ミヤコタナゴ) 計3点	新聞記事への掲載のため	静止画
10	22	(株)アーテファクトリー	琵琶湖岸ヨシ群落 1点	(株)ベネッセコーポレーション「チャレンジ5年生」2月号に掲載	静止画
10	23	成安造形大学附属近江学研究所	C展示室環境展示「富江家」展示風景 1点	近江学研究所紀要「近江学」第二号への掲載	静止画
11	13	長浜市立西中学校校長 片山 勝	プランクトン(ボルボックス) 1点	東京法令出版発行中学理科副教材 滋賀県版理科資料集のプランクトンのページに掲載	静止画
11	13	滋賀県教育委員会事務局スポーツ健康課	魚類(イサザ・スジエビ) 計2点	滋賀県教育委員会作成「まるごと“おうみ”学校給食献立事例集2」に資料掲載	静止画
11	19	アインズ株式会社	鳥類(カイツブリ)・魚類(イチモンジタナゴ・イタセンパラなど) 計5点	株式会社エフエム滋賀 配布用ノベルティグッズに掲載	静止画
11	20	滋賀県琵琶湖環境部森林政策課	前野コレクション(漁業など) 計16点	第50回全国竹の大会滋賀大会における記念鼎談にて利用	静止画
11	22	高橋満彦(富山大学人間発達科学部)	魚類(ハス) 1点	学会発表用ポスターに掲載(ニュージャーランド水文学会、陸水学会大会)	静止画
11	27	滋賀県農政水産部農村振興課	魚類・両生類・は虫類・昆虫類・貝類 計16点	魚のゆりかご水田の広報・啓発活動の一環としての観察会用の下敷き(子供向け)に掲載	静止画
11	27	立命館大学ボランティアセンターBKC 上柳匡子	前野コレクション(漁業など) 計7点	立命館大学 BKC 内イベント会場に展示	静止画

月	日	貸出先	資料内容	利用目的	備考
11	29	滋賀県防災危機管理局	災害写真(姉川地震災害画像) 計4点	第13回地震・火災フォーラム知事基調講演パワーポイント資料素材として使用	静止画
12	1	(株)ベネッセコーポレーション高校生商品開発部	プランクトン(ビワクンショウモ)・貝類(セタシジミ) 計2点	通信教育教材の特集記事(高1授業チャレンジ特別編 生物I 3月号)で使用	静止画
12	10	化石研究会 高橋啓一	魚類(スポッテッド・ガーなど) 計3点	化石研究会誌42巻3号への掲載	静止画
12	11	山形佳恵	IPM対策関連写真 計2点	IPM(総合有害生物管理)関連論考に掲載	静止画
12	18	中日新聞草津通信部 添田隆典	魚類(ニッポンバラタナゴ) 3点	中日新聞2010年新年特集「中部各県の絶滅種」(仮)に掲載	静止画
12	18	滋賀報知新聞大津本社	魚類(ビワマス) 1点	新年1月1日新春号(知事座談会)に使用	静止画
1	8	滋賀県農政水産部農村振興課	魚類(ナマズ・ドジョウ・ギンブナなど)・藤村コレクション 計7点	「魚のゆりかご水田プロジェクト」パンフレット、ガイドブックに掲載	静止画
1	17	永田映子(介護老人保健施設マカベシルバートピア)	大橋コレクション(磯海岸にて・国鉄彦根駅など) 計4点	回想法による施設利用者の記憶回復の研究に使用	静止画
2	3	株式会社アルバ	魚類(アオウオ) 1点	株式会社教育画劇刊「川ナビブック」1巻32頁に掲載	静止画
2	9	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課	鳥類(カイツブリ) 3点	生息・生育地保護区指定の際の資料として使用	静止画
2	13	山崎川グリーンマップ	魚類(マゴイ) 1点	生物多様性条約COP10関連イベントにて名古屋市山崎川で絶滅した生き物を紹介するため	静止画
2	25	(株)平凡社	魚類(ミナミトミヨ標本) 1点	「日本の生物多様性(仮題)」(監修:環境省自然環境局生物多様性センター)生物多様性条約国第10回会議(COP10)の関連本に掲載	静止画
3	10	柴田いづみ(滋賀県立大学)	大橋コレクション(左儀長まつり) 13点	昔の写真を使ったまちづくり手法の研究	静止画
3	10	柴田いづみ(滋賀県立大学)	大橋コレクション(彦根物語69データなど) 計146点	GISに入れこんだデジタルアーカイブの研究	静止画
3	10	柴田いづみ(滋賀県立大学)	大橋コレクション(左儀長まつり・近江八幡の風物詩など)55点	昔の写真を使ったまちづくり手法の研究	静止画
2	15	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課	魚類・植物・鳥類・昆虫・貝類・その他 計41点	COP10関連事業巡回展示ポスター、および広報用チラシ・ポスター作成	静止画
3	26	山内貴弘(岡崎市立矢作中学校)	魚類(オオクチバス・タモロコなど) 計5点	岡崎市環境学習プログラムの子供が学ぶワークシート集へ利用	静止画

<館内閲覧・撮影>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	23	東京大学史料編纂所 長 加藤友康	東寺文書（重要文化財指定分 107 通、 同指定外分 62 通） 計 169 点	史料編纂所における研究・編纂 の参照とするほか、図書室にお いて利用者の研究目的の閲覧に 供するため
6	10	(株)伊関商会	富江家に展示されている郵便受け 1 点	社史調査のため
6	12	大阪府環境農林水産 総合研究所	水族（魚類生体・レプリカ） 計 20 点	研究所における水辺環境保全に 関する意識啓発、研究成果普及 を目的とするインターネットペ ージに掲載
7	24	横地 隆	昆虫乾燥標本 <i>Euthalia insulae uraiana</i> タイプ標本 計 3 点	研究（著述目的）のため
8	5	須藤 護	県内農耕具（スキ、クワ、ジョレン、カ ラスキなど） 約 140 点	滋賀県における農耕具の指標を 作成するため
9	15	東京大学史料編纂所 長 加藤友康	東寺文書（重要文化財指定分 2 通、同 指定外分 62 通） 計 64 点	史料編纂所における研究・編纂 の参照とするほか、図書室にお いて、利用者の研究目的の閲覧 に供するため
10	15	杉林久美子	野良着・モンペ 計 3 点	修士論文作成のため
10	29	木村啓章	松原内湖遺跡出土資料「報告書 I」図 一括	卒論作成のための調査
10	30	浅井歴史民俗資料館	富江家イモの貯蔵の床下収納写真 1 点	浅井歴史民俗資料館内七りん館 において農家の暮らしぶりを紹 介するため
11	14	杉本一美	細見新補近江国大絵図堅田浮御堂満月 寺板・近江国大絵図 計 2 点	地域誌編纂のため
12	25	佐原雄二(弘前大学)	カイツブリ 1 点	採餌行動の観察・研究
12	25	船田智史（樟蔭中学 校・樟蔭高等学校）	魚類（オオクチバス・ブルーギル・在 来魚） 計 3 点	パソコン部の活動においてコン クール作品を製作するため
1	13	鈴木克彦	松原内湖遺跡出土筥状木製品 計 2 点	調査
2	26	藤井伸二（人間環境大 学）	桑島正二植物コレクション・村瀬忠義 植物コレクション 計約 200 点	研究
3	26	NHK 制作局青少年・教 育番組部	滋賀県管下近江国六郡物産図説－滋賀 郡・栗太郡 1 点	NHK 教育「見えるぞ！ニッポン」 で利用

4) 資料の活用状況の公開

収集された資料は、琵琶湖博物館内だけでなく、県内外の博物館など他機関へも貸し出され、展示されている。他機関の展示への貸出状況についてはインターネットページにて順次公開しており、2008 年度までに、歴史資料、水族資料、環境資料の 3 分野の公開を行った。2009 年度には、これに映像資料の貸出状況を追加し、計 4 分野 6 件の資料の貸出状況の公開を行った。

5) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。2009 年度は、琵琶湖博物館の資料を活用した下記の論文が公表された。

- ・八尋克郎・岸井 尚 (2009) 滋賀県のコメツキムシ類の記録. ねじればね (日本甲虫学会発行), 125: 4-12.
利用した資料: 動物標本 (滋賀県産コメツキムシ類標本. 33 種が県内初記録)

- ・八尋克郎 (2009) 滋賀県のゴミムシ相 (コウチュウ目: オサムシ科). 日本生物地理学会会報, 64:111-121.
利用した資料: 動物資料 (ゴミムシ類。63 種が県内新記録、4 種が滋賀県固有種)
- ・長澤和也 (2009) 日本産魚類に寄生するチョウ属エラオ類の目録 (1900～2009 年). 日本生物地理学会会報, 64:135-148.
利用した資料: 動物資料 (日本産チョウ属。2 種が新記録)

(7) 資料保管

整理された資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防かび対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理や定期的な清掃とトラップ調査など、総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。

2009 年度は、害虫の基準値は達成したが、収蔵庫空間においてカビが発生したため、付着菌調査報告会を企画・実施し、効果的な防カビ対策の検討を行った。また、特別収蔵庫前廊下、低温・冷凍収蔵庫でアルコール処理を行うとともに、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。さらに、収蔵庫地下の基礎部分に広く溜まった水の一部を、業者による排水口穿孔工事により排水した。害虫に関しては、トラックヤード周辺の清掃実施や、大型シャッター下部への隙間テープの貼り付けなどにより、侵入を防ぐ処置を行った。収蔵環境のモニタリングとしては、低経費の収蔵環境整備のため、きめ細かな空気環境の把握を行うための温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握、精度の調整なども行った。

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・時間ごとに計測し、全データを保存。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫の清掃: 月 1 回原則として第 1 金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃: 当番で割り振られた範囲を週 1 回実施
特別清掃	年 7 回の特別清掃の実施
生物環境調査	<p>年 3 回の生物環境調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009 年 6 月 19 日～7 月 3 日 昆虫トラップ調査 239 カ所 (設置・回収・分析) ・2009 年 10 月 30 日～11 月 13 日 昆虫トラップ調査 243 カ所 (設置・回収・分析) ・2010 年 2 月 12 日～26 日 昆虫トラップ調査 235 カ所 (設置・回収・分析) <p>全館での空中真菌調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009 年 7 月 6 日 空中真菌調査 61 カ所 ・2009 年 11 月 13 日 空中真菌調査 6 カ所 ・2010 年 3 月 3 日 空中真菌調査 61 カ所 <p>付着菌調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009 年 11 月 12・17 日 付着菌調査 7 カ所 ・2009 年 12 月 11 日 付着菌調査報告会 <p>*当館の IPM 基準値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫: 非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種 (チャタテムシ) の個体数 (捕獲指数) が1 ・空中菌: 空気衝突法により採取した菌を7日間培養させた場合のコロニー数が20

(8) 燻蒸・処理

琵琶湖博物館では、資料を安全に長期間保管し活用していくために、収集した資料や活用後の資料については収蔵庫への搬入の前に、燻蒸庫での燻蒸を随時行っている。琵琶湖博物館には、大型・小型の2台の燻蒸庫がある。大型燻蒸庫では、ヨウ化メチル製剤(アイオガード)の生産中止にともない、酸化エチレン(エキヒュームS)へ燻蒸剤の変更工事を実施した。今後の大型燻蒸庫では、エキヒュームSと炭酸ガスを併用して燻蒸処理を行っていく。小型燻蒸庫では、炭酸ガスによる処理を行っている。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2009年度は、小規模な液化炭酸ガス製剤(ブンガノン)を用いた殺虫処理を研究棟と収蔵庫空間において実施した。加えて、展示室での害虫の大量発生予防を目的として、害虫被害を受けやすい藁製の展示資料を中心に、酸化エチレン製剤(エキヒュームS)を用いたテント燻蒸を実施した。

○大型燻蒸庫燻蒸	実施回数：4回 (エキヒュームS 2回、炭酸ガス 2回)
○小型燻蒸庫燻蒸	実施回数：5回
○冷凍処理 随時	
○脱酸素処理 随時	
○収蔵庫空間と研究棟での殺虫処理	実施回数：1回
○害虫の大量発生予防のためのテント燻蒸	実施回数：1回

2 研究を進めて活かせる博物館

研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であれば有るほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2009年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。また、それ以外の専門研究については、研究部代表者会議において審査を実施した。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の2件であった。

- ・琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学
代表者：マーク・ジョセフ・グライガー，研究期間：2006～2010年度
- ・湖に隣接する水田地帯の特性の解明－ニゴロブナを媒体として－
代表者：前畑政善，研究期間：2007～2011年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。

- ・カワウ営巣林における森林衰退－回復過程の解明：異地性流入モデル構築のための調査方法の検討
代表者：亀田佳代子，研究期間：2007～2009年度
- ・日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究
代表者：高橋啓一，研究期間：2007～2010年度
- ・琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立
代表者：里口保文，研究期間：2008～2010年度
- ・琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析
代表者：井内美郎，研究期間：2008～2010年度
- ・琵琶湖北西地域安曇川河床の化石林の古植生復元とその年代
代表者：山川千代美，研究期間：2009～2010年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとの間に区別している。

<申請専門研究>

- ・湖と山をめぐる考古学（用田政晴）
- ・日本中世における内水面の環境史研究－その環境と生業－（橋本道範）

< 専門研究 >

環境史研究担当

- ・ コイ科魚類の咽頭歯に関する研究 咽頭歯モノグラフの作製 (中島経夫)
- ・ 奥山コレクションの整理と古生物学的意義付け (高橋啓一)
- ・ 後期鮮新世の湿地林におけるメタセコイアとスイショウの関係 (山川千代美)
- ・ 安曇川周辺地域の古琵琶湖層群の層序と年代 (里口保文)
- ・ 遺跡の立地環境解析 (宮本真二)
- ・ 近代軍事・徴税制度の成立と間取り図 (老 文子)

生態系研究担当

- ・ 水田地帯、内湖の魚類の生態 (前畑政善)
- ・ 鯉脚類、鰈脚類および等脚類 (甲殻類) の分類学、形態学および個体発生学に関する研究 (マーク・ジョセフ・グライガー)
- ・ 農村地域の生物多様性保全について (碓 登志之)
- ・ 博物館収蔵水族資料の遺伝的多様性保持に関する研究 (松田征也)
- ・ 琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究 (桑原雅之)
- ・ 琵琶湖およびその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究 (八尋克郎)
- ・ 鳥類による異地性流入が陸域の生態系に与える影響の検討 (亀田佳代子)
- ・ 農村における地域環境問題についての環境社会学的研究 (牧野厚史)
- ・ 新規研究課題の探索ならびに南湖の沈水植物のモニタリング (芳賀裕樹)
- ・ 河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの構築に関する研究 (臼井 学)
- ・ 複層林内での樹下植栽木の単木防除方法の成長比較 (西村知記)
- ・ 森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求 (草加伸吾)
- ・ 魚類・貝類の保全に関する基礎的研究 (中井克樹)
- ・ 琵琶湖地域の湿原で珪藻群落の分布を規定する環境要因の検討 (大塚泰介)
- ・ 水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究 (柘永一宏)
- ・ 日本の「半陸生」カイミジンコについての調査について (ロビン・ジェームス・スミス)
- ・ ニゴロブナ水田育成種苗の流下後の行動 (磯田能年)
- ・ 集水域における自然利用と生活とのかかわりに関する環境社会学的研究 (楊 平)

博物館学研究担当

- ・ 琵琶湖集水域における人や生き物の活動の映像記録 (写真撮影、録音など) に関する研究ならびに博物館的表現・伝達方法・利用に関する研究 (秋山廣光)
- ・ 学校版「地域だれでも・どこでも博物館」への一試行とその考察 (大依久人)
- ・ 共生藻類をもつ絨毛虫 *Didinium* sp. の形態および生態について (楠岡 泰)
- ・ 地球物理学を手がかりとする博物館学の展開 (戸田 孝)
- ・ イバラモのシュート成長と雌雄株の動態について (芦谷美奈子)
- ・ 「昔のくらし」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義 (中藤容子)
- ・ 回転実験室を利用した体験学習プログラムの開発 (飯住達也)

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
鳥越 皓之	早稲田大学人間科学学術院 教授
藤井 譲治	京都大学大学院文学研究科 教授
宮崎 信之	東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター 教授
竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設長 教授
三田村 緒佐武	滋賀県立大学環境科学部環境生態学科 教授
篠原 徹	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 理事
西川 朗	滋賀県教育委員会事務局学校教育課 指導主事
川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
阪口 榮	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(4) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/kenkyu/>) に掲載した。

<原著論文>

宮本真二 (2009) LATE PLEISTOCENE SEDIMENTARY ENVIRONMENT OF THE "HOMEB SILTS" DEPOSITS, ALONG THE MIDDLE KUISEB RIVER IN THE NAMIB DESERT, NAMIBIA (ナミブ砂漠、クイセブ川中流域における堆積環境の変遷). African Study Monograph, 40 : 1-16.

宮本真二 (2009) Late Pleistocene Sedimentary Environment of the "Homeb Silts" deposit, along the middle Kuiseb River in the Namib desert, Namibia (ナミブ砂漠、クイセブ川中流域における「ホメブシルト」の堆積環境の変遷). African Study Monograph, 40 : 51-66.

橋本道範 (2009) 「環境史」研究の可能性について－佐野静代氏の業績の検討から－. 歴史科学, 196 : 42-52.

中島経夫 (2009) コイ科魚類の咽頭歯と考古学－フナやコイを対象とする縄文・弥生時代の淡水漁撈. 考古学研究, 56 (1) : 56-66.

牧野厚史・楊平 (2009) 東アジア湖沼の環境問題と住民－日本と中国における湖畔の村の環境問題－. 日中社会学会, 2 : 56-74.

高橋かつ江・大塚泰介・池本良子・田崎和江 (2009) 蓼科湖の湖底堆積物の垂直分布と水質モニタリング結果との対応およびそれ以前の水環境の推定. 日本水処理生物学会誌, 45 (2) : 75-82.

Ohtsuka, T., Kato, S., Asai, K. and Watanabe, T. (2009) Checklist and illustrations of diatoms in Laguna de Bay, Philippines, with reference to water quality. Diatom, 25 : 134-147.

廣田昌昭・大塚泰介 (2009) 鳥取県千代川の礫付着珪藻. Diatom, 25 : 52-72.

Kihara, Y., Sahashi, Y., Arita, S. and Ohtsuka, T. (2009) Diatoms of Yamakado Moor in Shiga Prefecture, Japan. Diatom, 25 : 91-105.

大塚泰介 (2009) DAIPo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) が指標するものは明らかになったか. Diatom, 25 : 8-14.

Yamazaki, M., Ohtsuka, T., Kusuoka, Y., Maehata, M., Obayashi, H., Imai, K., Shibahara, F. and Kimura, M. (2010) The impact of nigorobuna (crucian carp) larvae/fry stocking and rice-straw application on the community structure of aquatic organisms in Japanese rice fields. Fisheries Sciences, 76 (2), 日本水産学会 : 207-217.

- Smith, R. J. and Janz, H. (2009) Recent ostracods of the superfamilies Cytheroidea and Darwinuloidea (Crustacea) from Lake Biwa, a Japanese ancient lake. *Species Diversity*, 14 : 217-241.
- Matzke-Karasch, R., Smith, R. J., Symonova, R., Miller, C. G. and Tafforeau, P. (2009) Sexual intercourse involving giant sperm in Cretaceous ostracode. *Science*, 324 : 1535.
- Boxshall, G. A., Danielopol, D. L., Smith, R. J. and Tabacaru, I. (2010) A Critique of biramous interpretations of the crustacean antennule, *Crustaceana*, 83 : 153-167
- Tanaka, G., Smith, R. J., Siveter, D. J. and Parker, A. R. (2009) Three-dimensionally preserved decapod larval compound eyes from the Cretaceous Santana Formation of Brazil. *Zoological Science*, 26 : 846-850.
- 八尋克郎 (2009) 滋賀県のゴミムシ相. *日本生物地理学会会報*, 64 : 111-121.
- 高橋啓一 (2010) ナウマンゾウ産状の再検討. *化石研究会会誌特別号* : 4.
- Natsumeda, T., Tsuruta, T., Kameda, K. and Iguchi, K. (2010) Winter Feeding of the Common Cormorant (*Phalacrocorax carbo hanedae*) in a Temperate River System in Japan. *Journal of Freshwater Ecology*, 25 (1) : 41-48.
- R. J. Blakemore, E. K. Kupriyanove, M. J. Grygier (2010) Neotypification of *Drawida hattamimizu* Hatai, 1930 (annelida, Oligochaeta, Megadrili, Moniligastridae) as a model link in MtDNA (COI) sequences to an earthworm type, with a response to the 'Can of worms' theory of cryptic species. *Zookeys*, 41 : 1-129.
- 里口保文 (2010) 忠類ナウマンゾウ発掘地点の堆積環境とその変化, *化石研究会会誌特別号*, 4 : 47-51.
- 山川千代美 (2010) 北海道忠類晩成のナウマンゾウ化石山地から産出した大型植物化石. *化石研究会会誌特別号*, 4 : 63-69.

<専門分野の著述>

- 宮本真二 (2009) LATE PLEISTOCENE SEDIMENTARY ENVIRONMENT OF THE "HOMESILTS" DEPOSITS, ALONG THE MIDDLE KUISEB RIVER IN THE NAMIB DESERT, NAMIBIA (ナミブ砂漠, クイセブ川中流域沿いのホメブ・シルトの後期更新世の堆積環境). Existing permit to conduct research 2008 and Research Report in 2008, Ministry of Environment and Tourism of Namibia.
- 宮本真二 (2009) ヒマラヤの斜面崩壊. *News Letter North East* : 1.
- 宮本真二 (2009) いったい、高所には、いつから人が定着しはじめたのか. *Highlanders*, 5 : 2-3.
- 宮本真二・小野映介・河角龍典・松田順一郎 (2009) 人文地理学会 第118回歴史地理研究部会 報告要旨. *人文地理*, 61 (6).
- 楊平 (2009) 水域的共同利用と管理-太湖と琵琶湖流域村落の個案研究-. 第2届中国環境社会学会論文集, 528-553.
- 八尋克郎 (2009) 「新訂原色昆虫大図鑑第II巻(甲虫編)」におけるオサムシ科の和名・学名の変更. *地表性甲虫談話会会報*, 9 : 1-6.
- 八尋克郎 (2009) イチゴを加害するゴミムシ類2種の生態的知見. *地表性甲虫談話会会報*, 9 : 6-7.
- 八尋克郎・岸井 尚 (2009) 滋賀県のコメツキムシ類の記録. *日本甲虫学会*, 125 : 4-12.
- 八尋克郎 (2009) オサムシ科の分類. *昆虫と自然*, 44 (13) : 29-33.
- 林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2009) 長崎県壱岐市の芦辺層群八幡累層から産出した鮮新世の甲虫化石. *甲虫ニュース*, 168 : 11-12.
- 戸田 孝ほか17名 (2009) 学校と科学系博物館等との連携による教員支援. 平成20年度科学技術振興調整費調査研究報告書, 国立教育政策研究所 : 187-244.

- International Commission on Zoological Nomenclature, Grygier, M. J. (2009) OPINION2227 (Case3375) Fidia Baly, 1863 and Lypestes Baly, 1863 (Insecta, Coleoptera) : usage not conserved and priority maintained for Fidia Motschulsky, 1860. Bulletin of Zoological Nomenclature, 66 (2) : 198-200.
- Poore, G. C. B. and Grygier, M. J. (2009) Australian Faunal Directory. Ascothoracida. Australian Biological Resources Study, <http://environment.gov.au/biodiversity/abrs/online-resources/fauna/afd/taxa/ASCOTHORACIDA> International Commission on Zoological Nomenclature (Mark J. Grygier) . OPINION 2232 (Case3384) . Cornwallius tabatai Tokumaga, 1939 (currently Paleoparadoxia tabatai; Mammalia, Desmostylia) : proposed designation of a neotype not accepted. (その一部) . Bulletin of Zoological Nomenclature, 66 (3) : 295-296.
- Grygier, M. (115 編) および Grygier, M. and Boxshall, G. (26 編) . Ctenosculidae. In: World Ascothoracida Database. (ほか 114 編) および Dendrogastrida In: World Ascothoracida Database. (ほか 25 編) (2009) . World Register of Marine Species (WoRMS) ,
<http://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=173728>
<http://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=103948>
- Grygier, M. J., Kusuoka, Y., Foissner, W., Shimano, S., Ji, D., Urabe, M. Smith, R. J., Janz, H., Inoue, E., Kobayashi, T. and Nishino, M. (2009) Potential endemics among protostomes, helminthes, and crustaceans in Lake Biwa, Japan. Review-Hydrobiological Institute Ohrid, 42 (1) : 28-29.
- International Commission on Zoological Nomenclature (Grygier, M. J.) (2009) OPINION2235 (Case3434) . (その一部), Scleropauropus Silvestri, 1902 (Myriopoda, Pauropoda) : usage conserved, Bulletin of Zoological Nomenclature, 66 (4) : 365-366.
- International Commission on Zoological Nomenclature (Grygier, M. J.) (2009) OPINION2234 (Case3416) . (その一部), Murex rostratus Olivi, 1792 (currently Fusinus rostratus Mollusca, (Gastropoda) : Specific name conserved, Bulletin of Zoological Nomenclature, 66 (4) : 362-364.
- International Commission on Zoological Nomenclature (Grygier, M. J.) (2009) OPINION2233 (Case3417) . (その一部), Malmgrenia McIntosh, 1874 (Annelida, Polychaeta, POLYNOIDAE) : usage conserved, Bulletin of Zoological Nomenclature, 66 (4) : 360-361.
- 牧野厚史 (2009) 人の暮らしと密着する湧き水. 日本自然保護協会, 510 : 4.
- 牧野厚史 (2009) 半栽培から住民参加へー琵琶湖のヨシをめぐる住民活動からー. 昭和堂 : 227-247.
- 紀平肇・松田征也・内山りゅう (2009) 琵琶湖・淀川産の淡水貝類, 日本産淡水貝類図鑑① (改訂版). ピーシーズ : 160.
- 松田征也 (2009) ニッポンバラタナゴ. 文部科学時報 : 1606.
- 松田征也 (2010) 君がいるから、僕がいる！水の中の切るに切れない関係. Pop lead, Vol22, (株) エヌエフ : 23.
- 用田政晴 (2009) 湖と山をめぐる考古学. サンライズ出版 : 448p.
- 橋本道範 (2010) 寺辺殺生禁断試論—宗教的戒律のつくる景観. 内山純蔵ほか編, 東アジア内海文化圏の景観誌と環境, 第1巻 水辺の多様性, 昭和堂 : 145-169.
- 橋本道範 (2010) 日本中世の魚介類消費研究と一五世紀の山科家. 琵琶湖博物館研究調査報告書, 第25号 日本中世魚介類消費の研究—一五世紀山科家の日記から : 7-16.
- 老 文字 (2010) 愛東の桶風呂. 東近江市史愛東の歴史, 第3巻 本文編 近代 現代 民俗 地理, 3 : 499.

(5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものをあげた。

中島経夫

- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化－景観の形成史」プロジェクトメンバー（2005～2011年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 A）海外「河姆渡文化研究の再構築－余姚田螺山遺跡の学際的総合調査－」研究分担者（2006～2009年度）

用田政晴

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究代表者（2008～2011年度）

松田征也

- ・(社) 日本動物園水族館協会「平成 20 年度 環境省生息外保全モデル事業」研究代表者（2008～2009年度）

亀田佳代子

- ・National Science Foundation(NSF), Research Coordination Networks in Biological Sciences (RCN)「Seapre:Seabird Island and Introduced Predators:Impacts of Presence and Eradication on Island Function」研究分担者（2007～2009年度）

中井克樹

- ・財団法人ダム水源地環境整備センターWEC 応用生態研究助成「ダム貯水池における水位操作と人工産卵床を利用した特定外来魚の生息抑制に関する研究」研究代表者（2007～2009年度）

橋本道範

- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化－景観の形成史」プロジェクトメンバー（2005～2011年度）

大塚泰介

- ・財団法人醗酵研究所「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明－有用微生物の探索と応用」研究分担者（2007～2009年度）

牧野厚史

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」研究分担者（2006～2009年度）

宮本真二

- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化－景観の形成史－」プロジェクトメンバー（2005～2011年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」研究分担者（2006～2009年度）
- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「人間の生老病死と高所環境－3大「高地文明」における医学生理・生態・文化適応－」研究分担者（2005～2011年度）

高橋啓一

- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「日本列島における人間－自然相互関係の歴史的・文化的検討」プロジェクトメンバー（2006～2010年度）

老 文子

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究分担者（2008～2011年度）

辻川智代

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究分担者（2008～2011年度）

<研究調査業務受託>

亀田佳代子

- ・独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所平成21年度 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」（2007～2009年度）

中井克樹

- ・独立行政法人水産総合研究センター 平成21年度 健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来魚抑制管理技術開発」（2007～2009年度）

(6) 新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』

琵琶湖博物館で「世界古代湖会議」を開催してから10年余がたち、また開館5周年記念として、『湖と人間』というテーマで一般の方を対象に入門セミナーを実施してから、早くも7年の年月がたっている。この間、琵琶湖、社会情勢、ならびに私たちの生活や価値観にもいくつかの変化の兆候がみられ、琵琶湖の自然、歴史、人々の暮らしなどに関する新たな知見も蓄積されている。昨年度は12月～3月に「新琵琶湖学入門セミナー」を開催したところだが、今年度は、昨年とほぼ同時期にさらに内容を深めた「新琵琶湖学専門セミナー」を開催した。

今回の新琵琶湖学専門セミナーでは、当館学芸員を中心に、県内の研究機関や博物館等のご協力を得て、それぞれの演者が琵琶湖とその流域の自然、歴史、人びとの暮らし等について最新の研究成果をわかりやすく解説した。各回ともに多くの参加者があり、延べ約419名の参加者があった。最終日には受講生と講師との交流会を開催した。

	テーマ	開催日	タイトル	講師	参加者数
第1回	開校 琵琶湖のおいたち	12月5日 (土)	ごあいさつ	川那部浩哉	39名
			火山灰からみた琵琶湖の生い立ち	里口保文（専門学芸員）	
第2回	琵琶湖流域の生き物 (1)	12月12日 (土)	DNAで探る琵琶湖地域のオサムシ類の系統進化	八尋克郎（専門学芸員）	35名
			北半球の多様な水辺に生息するアシナガバエの進化	榎永一宏（主任学芸員）	
第3回	琵琶湖流域の生き物 (2)	1月9日 (土)	琵琶湖地域の魚類寄生虫	Grygier, M. J.（総括学芸員）	30名
			カイミジンコからみえること	Smith, R. J.（主任学芸員）	
第4回	琵琶湖流域の生き物 (3)	1月23日 (土)	琵琶湖地域の珪藻類の多様性	大塚泰介（主任学芸員）	31名
			繊毛虫類の不思議	楠岡 泰（主任学芸員）	
第5回	琵琶湖流域の生き物 (4)	1月31日 (日)	琵琶湖のヨシー倍数性と遺伝的多様性からみえることー	金子有子（琵琶湖環境科学研究センター専門研究員）	32名
			琵琶湖の水草とその長期変遷	浜端悦治（滋賀県立大学准教授）	

	テーマ	開催日	タイトル	講師	参加者数
第6回	琵琶湖の遺跡	2月6日 (土)	琵琶湖湖底遺跡の謎	横田洋三 (滋賀県文化財保護協会副主幹)	39名
			遺跡の立地条件を探る	宮本真二 (主任学芸員)	
第7回	琵琶湖流域の生き物 (5)	2月13日 (土)	琵琶湖の水生植物の研究史とこれから	芦谷美奈子 (主任学芸員)	43名
			琵琶湖の底生動物の現状とそ の変化	西野麻知子 (琵琶湖環境科学センター 総合解析部門長)	
第8回	琵琶湖の水や利用	2月27日 (土)	循環型の暮らし方 ー桶風呂の文化史ー	老 文子 (主任学芸員)	37名
			中世琵琶湖の殺生禁断	橋本道範 (主任学芸員)	
第9回	琵琶湖地域の歴史	3月6日 (土)	知将石田三成と松原内湖の佐和山城	太田浩司 (長浜城歴史博物館副参事)	88名
			東山道の観音寺城から琵琶湖の安土城へ	伊庭 功 (滋賀県教育委員会文化財保護課副主幹)	
第10回	琵琶湖地域の考古学	3月13日 (土)	コイ・フナを利用した文化を探る	中島経夫 (上席総括学芸員)	45名
			琵琶湖をめぐる古墳と古墳群	用田政晴 (研究部長)	

(7) 琵琶湖博物館特別講演会

2009年4月より「琵琶湖博物館特別講演会」を開催した。この講演会では、様々な分野の第一人者として活躍されている方々を琵琶湖博物館にお招きし、専門的な内容をわかりやすくお話しいただいた。

2009年4月18日(土) 参加者160名

地震を知って震災に備える

尾池和夫 (京都大学名誉教授・前総長、国際高等研究所長)

2009年5月16日(土) 参加者160名

信ずる宗教、感ずる宗教

山折哲雄 (国際日本文化研究センター名誉教授・元所長)

2009年6月20日(土) 参加者145名

琵琶湖生態系の原動力ー植物プランクトンの世界ー

中西正己 (京都大学・総合地球環境学研究所名誉教授)

2009年7月19日(日) 参加者200名

古代近江の渡来文化

上田正昭 (京都大学名誉教授、京都府・市文化財審議会元会長)

2009年8月22日(土) 参加者140名

近江の森林を考える

只木良也 (国民森林会議会長、名古屋大学名誉教授)

2009年9月22日(火・祝) 参加者187名

日本語はどのような言語かー誤解の裏側ー

川端善明 (京都大学名誉教授)

2009年10月17日(土) 参加者88名

戦後日本の公害・環境政策を見直す

宮本憲一 (大阪市立大学・滋賀大学名誉教授、滋賀大学元学長)

2009年11月21日(土) 参加者144名

花鳥画と生態系

上村淳之 (芸術院会員、京都芸術大学名誉教授・元副学長)

- 2009年12月19日(土) 参加者90名
琵琶湖をめぐる文化的景観 西川幸治(京都大学名誉教授、滋賀県立大学名誉教授・元学長)
- 2010年1月16日(土) 参加者103名
文学のなかの湖—ドイツ詩人が描いた百年前の<琵琶湖八景>に触れながら—
池田浩士(京都大学名誉教授・京都精華大学客員教授)
- 2010年2月20日(土) 参加者100名
高齢社会における心と体の健康—サクセスフル・エージングをめぐって—
井村裕夫(京都大学名誉教授・元総長、先端医療振興財団理事長)
- 2010年3月20日(土) 参加者180名
琵琶湖の魚は、古来どう食べられてきたか 川那部浩哉(琵琶湖博物館館長、京都大学名誉教授)

(8) 特別研究セミナー

- 第54回【中止】 2009年9月2日(水) 14:00~16:00 琵琶湖博物館 セミナー室
講演：何舜平(Dr. He Shunping)(中国科学院水生生物研究所研究員)
テーマ：New progress on the phylogeny of Cyprinidae based on the molecular dataset (分子データに基づくコイ科魚類の系統分類における新たな進展)
- 第55回 2009年9月16日(水) 14:00~16:00 琵琶湖博物館 セミナー室
テーマ：「琵琶湖と中国の湖沼の対話へ向けて」
1. 特別講演：朱偉(Dr. Zhu Wei)(中国河海大学環境工程学院 副院長)
「中国太湖における富栄養化と生態復元」
2. 話題提供：辻村茂男 (滋賀県立琵琶湖環境科学研究センター)
「琵琶湖におけるアオコ発生の変遷」
- 第56回 2009年10月21日(水) 15:30~16:45 琵琶湖博物館 セミナー室
講演：Dr. Tomislav Karanovic (ドイツハンブルク大学動物学研究所・博物館客員研究員/オーストラリアアタスマニア大学動物学科・名誉研究員)
テーマ：Zoogeography of Australian Subterranean Copepods (Crustacea); contradiction of monophyly in large continental blocks (「オーストラリアにおける地下水性カイアシ類の動物地理学」 大型大陸塊における単系統仮説の矛盾)

(9) 研究セミナー

毎月第3金曜日 13:15~15:15 に、以下の研究セミナーを開催した。

- 第1回 2009年4月17日(金) 参加者31名
Grygier, Mark Joseph 世界の専門家として、私あての研究依頼：囊胸類および吸口類の例
里口保文 琵琶湖の成立と水位変動：これからの研究にむけて
牧野厚史 カワウを飼い慣らす—「半家畜」の視点から見た鳥獣被害問題—
- 第2回 2009年5月15日(金) 参加者26名
榊永一宏 北半球に隔離分布するナガレアシナガバエの生物地理
Smith, Robin James 白亜紀と現代のキプリス上科(カイミジンコ)のシンクロトロン放射光分析
大西 拓 石垣島で同所的に生息するハナサキガエル2種(両生綱、アカガエル科)における活動性の季節変異と移動について
- 第3回 2009年6月19日(金) 参加者27名
秋山廣光 写真回想~博物館における映像資料の収集と利用についての可能性~

中藤容子 「昔くらし体験」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義（1）

第4回 2009年7月17日（金） 参加者25名

山川千代美・南澤 修・松本みどり・百原 新

古琵琶湖層群畑層から産出した大型植物化石からみた古環境

草加伸吾 大雨流出解析からみた森林の流域診断の試み

桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・高橋洋・来見誠二

ビワマス河川残留型個体群存在の可能性

第5回 2009年8月21日（金） 参加者24名

用田政晴 古墳とは何かー近江における古墳研究の前提ー

植田文雄 「前方後方墳」出現社会の研究

橋本道範 琵琶湖の寺辺殺生禁断試論ー宗教的戒律のつくる景観ー

第6回 2009年9月18日（金） 参加者23名

楠岡 泰 原生生物に固有種は存在しうるのか？：Apocarchesium rosettum の生活史から考える

高橋啓一 古琵琶湖層群から発見された脊椎動物化石の意義と課題

老 文子 滋賀県の民家における入浴形態の変遷

第7回 2009年10月16日（金） 参加者25名

楊 平 水田をめぐる環境利用と景観

大塚泰介・山崎真嗣・西村洋子・楠岡 泰

水田に魚を放すと、生物どうしの関係が見えてくる

水野敏明 琵琶湖流域の水田地帯における魚類分布とニゴロブナー水路選択の環境要因からー

第8回 2009年11月20日（金） 参加者30名

松田征也 ハリヨの生息域外保存について

戸田 孝 博学連携の最近の動きの中で

第9回 2009年12月18日（金） 参加者29名

中尾博行 うおの会による産卵調査ー琵琶湖の魚類保全に向けて

鈴木隆仁 琵琶湖周辺の水田で得られた腹毛動物

天野一葉 外来鳥類ソウシチョウと在来鳥類群集との関係

第10回 2010年1月15日（金） 参加者31名

前畑政善・大塚泰介・水野敏明・金尾滋史

水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性

鈴木誉士 琵琶湖産フナ類各種の繁殖場所について

芳賀裕樹 博物館のユニバーサルデザインとは何か？ ～理解のための整理の試み～

第11回 2010年2月19日（金） 参加者22名

中島経夫 咽頭歯からわかること

八尋克郎 同定依頼があったイチゴに被害をおよぼすゴミムシ類

臼井 学・井上太樹・横川昌史・森 小夜子・野間直彦

河道内の伐採竹における維持管理モデルの検討

第12回 2010年3月19日（金） 参加者24名

大依久人 琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携について～学習プログラムの開発～

碓登志之 野洲市における魚のゆりかご水田の構造特性と地域活動について

西村知記 複層林内に植栽した苗木の成長比較～設置する単木防除資材によって成長差は現れるか

(10) 研究員の受け入れ

- ・植田文雄 2008年1月10日～2013年3月31日
テーマ：琵琶湖地域における内水面漁業の史的研究－考古資料と民俗資料の比較検討を中心に－
- ・水野敏明 2008年3月1日～2010年2月28日
テーマ：市民参加による魚類分布情報を指標とした淡水生態系の統合的なリスク評価
- ・中井大介 2008年5月1日～2010年4月31日
テーマ：河川における珪藻群落と水質の関係
- ・大西 拓 2008年6月1日～2009年5月31日
テーマ：カエル類における近縁種共存機構の解明について
- ・鈴木誉士 2008年7月1日～2011年3月31日
テーマ：琵琶湖産フナ属魚類仔稚魚期の遺伝的構造の解析とそれを利用した産卵集団構造の推定
- ・黒岩啓子 2008年8月16日～2010年3月31日
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びについて：もの、情報、人との相互関係に関する研究
- ・北村美香 2008年1月4日～2010年1月3日、2010年1月13日～2011年1月12日
テーマ：利用者から見た、日本のミュージアム活用についての研究
- ・野嶋宏二 2008年4月1日～2010年3月31日
テーマ：骨の形態に基づく谷下産化石フナと現生日本列島産フナの分類と系統
- ・天野一葉 2008年4月1日～2010年3月31日
テーマ：水鳥の生息環境と湿地管理
- ・布谷知夫 2009年4月1日～2014年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・中尾博行 2008年4月1日～2010年3月31日
テーマ：琵琶湖岸域における魚類の産卵特性の比較生態学的研究
- ・鈴木隆仁 2009年4月6日～2010年3月31日
テーマ：琵琶湖およびその周辺地域における淡水腹毛動物の分布調査
- ・中野正俊 2009年5月1日～2012年3月31日
テーマ：児童生徒の理科離れに対応した理科・環境学習モデルの構築と評価
- ・閻美芳 2010年1月15日～2011年1月14日
テーマ：水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案
- ・柏尾珠紀 2010年2月20日～2011年2月19日
テーマ：琵琶湖周辺部農漁村におけるジェンダーの社会学的考察

(11) 海外交流活動

1) 研究に関する国際用務

川那部浩哉

2009年9月5日～9月17日、マケドニア国オーフリド、世界古代湖会議出席

2009年11月1日～11月10日、中華人民共和国湖北省武漢市・江蘇省無錫市、世界湖沼会議出席および太湖周辺の調査

中島経夫

2009年10月15日～10月22日、中華人民共和国北京市、中国社会科学院考古学研究所、資料調査
牧野厚史

2009年11月1日～11月10日、中華人民共和国湖北省武漢市・江蘇省無錫市、世界湖沼会議出席および太湖周辺の調査

び太湖周辺の調査

宮本真二

2009年6月26日～7月1日, ネパール, 現地調査

2009年8月2日～8月17日, バングラデシュ, 現地調査

2009年9月8日～9月24日, インド共和国, 現地調査

2009年11月17日～11月26日, ミャンマー, 現地調査

2009年12月8日～12月24日, インド・ネパール, 現地調査

楊 平

2009年4月24日～5月3日, 中華人民共和国江蘇省南京市, 河海大学, 中国環境社会学会での発表

2009年7月10日～7月24日, 中華人民共和国江蘇省南京市・江蘇省無錫市 (太湖周辺), 水田環境の
利用実態についての現地調査

2009年10月31日～11月10日, 中華人民共和国湖北省武漢市・江蘇省無錫市, 世界湖沼会議出席お
よび太湖周辺の調査

2010年1月12日～1月22日, 中華人民共和国, 上海・江蘇省用直鎮・江蘇省宜興市 (太湖周辺), 水
田環境の利用実態についての現地調査

2010年2月9日～2月23日, 中華人民共和国, 太湖周辺, 水田環境の利用実態についての現地調査

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

主に滋賀県で活動している化石採集家による、古琵琶湖層群の様々な時代の化石標本を展示。標本や採集についての想いを伝える展示に更新した（2010年1月3日更新）

2) B 展示室

- ・収蔵資料展示

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第6回（齊藤・橋本 2009年4月28日～5月24日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第7回（齊藤・橋本 2009年5月26日～6月21日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第8回「企画展示関連企画 骨の記録」（齊藤・橋本 2009年7月14日～10月18日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第9回「企画展示関連企画 骨の記録」（齊藤・橋本 2009年10月20日～11月15日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第10回（齊藤・橋本 2009年11月17日～12月20日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第11回（齊藤・橋本 2009年12月22日～2010年1月24日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第12回（齊藤・橋本 2010年1月26日～2月28日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第13回（齊藤・橋本 2010年3月2日～3月28日）

「収蔵庫をのぞいてみよう!」第14回（齊藤・橋本 2010年3月30日～5月9日）

3) C 展示室

- ・くらしとむすびついた自然

里山

キノコの種名板を設置（草加・石田・松田）

- ・生き物コレクション

河川の魚類貝類

河川の貝類を実物標本に展示替え（松田）

湿地生植物 1

引き出しに、植物標本を新規設置（草加・石田・松田）

昆虫類 1

チョウに関する資料新規設置（八尋）

湿地生植物 2

引き出しに、水草のアクリル包埋標本新規設置（松田・石田）

烏丸半島を歩いてみると

現在の烏丸半島の写真に更新（スミス）

烏丸半島を歩いてみると

植物の実を新規設置（石田・松田）

烏丸半島を歩いてみると

烏丸半島で観察できる鳥類・花の新規設置（松田）

4) 水族展示室

- ・特になし

5) 屋外展示

- ・特になし

6) ディスカバリールーム (芦谷、山田、藤岡)

- ・「音の部屋」の展示
 - アフリカの楽器 (2009年4月1日～12月20日)
 - 日本の楽器 (2009年12月22日～2010年3月31日)
- ・「おばあちゃんの台所」の展示
 - こどもの日 (2009年4月23日～5月6日)
 - 七夕 (2009年6月12日～7月7日)
 - お正月 (2010年1月3日～1月15日)
 - 節分 (2010年2月2日～2月3日)
 - ひなまつり (2010年2月23日～3月3日)
- ・生物の展示：カウンターにて
 - ヤゴ (2009年4月1日～5月19日)
 - イモリの子ども (2009年4月1日～2010年3月31日)
 - ヤマムシ (2009年4月29日～5月31日)
 - カイコ (2009年5月27日～7月15日)
 - カブトムシとクワガタ (2009年6月4日～6月24日)
 - アルビノのアマガエル (2009年6月24日～11月9日)
 - タマムシ (2009年7月7日～7月15日)
 - メダカ (2009年11月18日～2010年3月31日)

(2) 企画展示

第17回企画展示「骨の記憶—あなたにきざまれた五億年の時—」

1) 概要

期間：2009年7月18日(土)～11月23日(月・祝)

場所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料：大人200円(160円) 高校生・大学生160円(120円) 小・中学生100円(80円)

(カッコ内は20人以上の団体料金)

観覧者数：70,530人

展示担当スタッフ：

展示制作：高橋啓一(琵琶湖博物館/主任)、西村知記(琵琶湖博物館/副主任)、
里口保文(琵琶湖博物館2008年度展示グループ担当)、谷川真紀(琵琶湖博物館)
山中裕子(琵琶湖博物館はしかけ)
黒岩啓子(琵琶湖博物館特別研究員/Learning Innovation Network)
森永紗江子(琵琶湖博物館はしかけ)

受付・展示室：貝増千賀子、前田良夫、久保由美子、白井弘子、浅田貴子、大橋正敏

展示施工：株式会社日展

標本輸送：日本通運株式会社大津支店

展示協力：岡村喜明(栗東市)、影山幾男(日本歯科大学)、川田伸一郎(国立科学博物館)、
木谷良平(豊橋総合動植物公園)、小寺春人(鶴見大学)、笹川一郎(日本歯科大学)、
伊達仁美(京都造形芸術大学)、徳川広和(古生物復元模型作家)、
安井謙介(豊橋市自然史博物館)、松井想依(小松市)、松井真彩子(小松市)、
(株)林原生物化学研究所類人猿研究センター、京都造形芸術大学、国立科学博物館、
豊橋市自然史博物館、豊橋総合動植物公園、日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第一講座

琵琶湖博物館「はしかけ」グループ『ほねほねくらぶ』会員：

大橋正敏、小澤郁乃、小澤桂介、小澤菜月、後藤美由紀、後藤和弥、斉藤真琴、斉藤真由美、菅原和博、永野麻也子、西山佳奈、日田みか、日田琥珀、人見幸恵、人見竜樹、藤野美由紀、藤野未音、藤野あぐり、星野賢史、松田七星、山本真彩子、若林裕子

2) 内容

この企画展示では、魚類からヒトへの進化はどのように起こっていったのか、その進化のおもかげがどのように私たちの体に残されているのかを、ヒトや様々な動物の骨や歯を通して概観することを目的とした。このため、ヒトおよび動物の骨格約 200 点を展示した。また、琵琶湖博物館で活動を行っている“はしかけ”グループである「ほねほねくらぶ」紹介や作品を展示し、骨を扱う楽しさを知ってもらうために、企画段階から「ほねほねくらぶ」に参加してもらい、展示制作も主体的にやった。さらに、この企画展示開催中に展示見学補助ツールの博物館学的な研究も行うことを目指し、文部科学省科学研究費補助金の研究テーマとして展示を理解するために補助ツールの開発を行った。

3) 展示項目

- A プロローグ：「骨に関する素朴な疑問」プレ展示やディスカバリールームで集めた来館者のもつ骨に関する素朴な疑問を受付から入口付近の床面に骨の形のシールに書きこんだ。
- B あなたが5億年前から受けつぐもの：5億年以上前に作られた骨格の形式やそこから進化した骨を私たちの体が持っていることに気付かせる。

- 【展示項目】
- ・貯蔵庫としての骨
 - ・頭の骨の進化
 - ・由来の異なる骨たち
 - ・利用されたエラ穴
 - ・対になっている手足
 - ・3億5千万年前に決まった5本指

- C 骨をよく知る：骨格の基本的知識について説明し、展示を理解する手助けとする。

- 【展示項目】
- ・骨の役割
 - ・骨の形と構造
 - ・骨の種類

- D あなたが哺乳類である証し：哺乳類が持つ共通の特徴を示し、ヒトも哺乳類の一員であることを確認する。

- 【展示項目】
- ・骨の成長
 - ・耳に取り込まれた顎の骨
 - ・口の中の天井
 - ・まだある哺乳類の特徴

- E ヒトらしさを探る：ヒトは大型のサル類であるにも関わらず、サルとは外見上も異なる独特の形態をもっている。その形態の特徴はどこにあるのか、なぜそうなったのかを理解させる。

- 【展示項目】
- ・ヒトらしさを生んだ二本足での歩行
 - ・頭の下にある穴
 - ・S字に曲がる背骨
 - ・扁平な胸、自由度の高い腕
 - ・魅力的なウエストライン
 - ・長い足
 - ・土ふまずの誕生

F 歯の進化：歯は機能と関連した形をもっている。機能と形態の関係性を様々な動物の歯で説明する。

- 【展示項目】
- ・頭骨をみる
 - ・歯をみる

G 骨のパレード：様々な動物の組み立て骨格をならべ、ヒトの特徴を明らかにする。

H 骨を楽しむ：琵琶湖博物館「はしかけ」グループである「ほねほねくらぶ」の活動紹介、作品展示を通じて、骨の楽しみ方を紹介する。

- 【展示項目】
- ・ほねほねくらぶ紹介
 - ・骨格標本展示
 - ・来館者参加展示

I エピローグ：骨から見て、ヒトとはどのような動物なのかを示す。

4) 関連事業

①ワークショップ（はしかけグループ「びわたん」）

- ・ほね骨☆しかけ絵本づくり

開催日：7月25日（土）・8月11日（火）

内容：企画展で骨のスケッチ等を行い、簡単なオリジナル仕掛け絵本を作成した。

- ・骨ほね調査隊～あたまの骨～

開催日：7月25日（土）・8月11日（火）

内容：ハカセのお話や本物の骨に触れ、紙粘土で頭の骨模型作りを行った。

②ディスカバリールーム関連企画（ディスカバリールーム）

- ・ボーンおどり♪骨をくみたてよう

期間：7月18日（土）～9月27日（日）の土・日・祝日

実施場所：ディスカバリールームのカウンター

内容：「骨」を観察してほねパズルを作製した。

③B 展示室関連企画（橋本・齊藤）

- ・「骨の記録」（B展示 収蔵資料展示）

期間1：7月14日（火）～10月18日（日）

内容：江戸時代の後半、近江の国で発見され、龍骨といわれたトウヨウゾウの化石。そのときの記録を、本館の収蔵物で紹介した。

期間2：10月20日（火）～11月15日（日）

内容：龍と信じ込まれたトウヨウゾウの化石に関連して、ゾウにまつわる江戸時代の記録を紹介した



骨のパレードコーナー



ワークショップ☆しかけ絵本づくり

(3) 水族企画展示

第22回水族企画展示「バックボーンができるまで!! 一骨で見る魚の進化」

1) 概要

期間：2009年7月18日(土)～9月6日(日)
場所：琵琶湖博物館 水族企画展示室
観覧者数：約59,500人(電子カウンターによる)
主催：滋賀県立琵琶湖博物館
担当者：主担当者；桑原雅之
副担当者；磯田能年

2) 内容・特徴

現在、魚類は深海から高山を流れる河川まで、きわめて多くの種類が様々な環境に適応して生息している。しかも、その多くは魚類の中でも最も進化しているとされる硬骨魚で占められている。琵琶湖に生息する約80種類の魚類も、ほとんどが硬骨魚である。

これらの魚類は、約4億年前の古生代デボン紀に現れて繁栄し、現在まで進化し続けている。さらにさかのぼってシルル紀やオルドビス紀には、無顎類と呼ばれる顎のない生き物が出現し、カンブリア紀にはピカイアなどに代表される原索動物が出現した。これらの生物は、脊索から脊椎骨を持つことで運動能力を向上させ、さらに顎を持つことで捕食能力を向上させてきた。これらのことは、現在の脊椎動物全体の基礎となるものである。これらの脊椎動物の祖先種の多くは絶滅しているが、ナメクジウオやヤツメウナギなど現在でも生き残っているものがある。

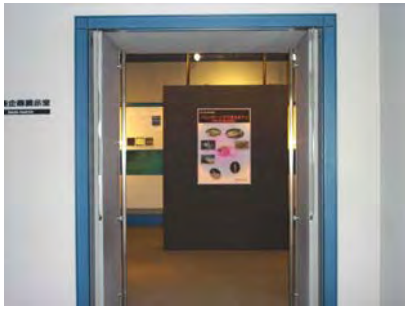
今回の水族企画展示では、標本や映像も交えこれら魚類の進化を紹介することで、来館者に私たちの遠い祖先である魚類への理解を深めていただくことを目的として開催した。併せて、脊椎動物よりも先に出現し、現在も繁栄を続けている外骨格を持った生き物についても紹介した。

3) 展示内容

展示生物：スナヤツメ、ハイギョ(プロトブテルス・エチオピクス)、
淡水エイ(ポルカドットスティングレイ)、ポリプテルス・オルナティピンニス、
フナ類、グラスキャットフィッシュ、グラスフィッシュ、プレコストムス、
カワムツ、カマツカ、
アメリカザリガニ、カブトムシ、ヒラタクワガタ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、
展示標本：液浸標本(ヒガシナメクジウオ)、透明化標本(カワムツ、カマツカ)、
骨格標本(コイ、ナマズ、イワトコナマズ、ビワコオオナマズ)
展示動画：シーラカンス、コイの三枚おろし

4) 協力機関

須磨海浜水族園：肺魚、淡水エイ借用
鳥羽水族館：シーラカンス動画、静止画借用
名古屋大学博物館：ヒガシナメクジウオ液浸標本借用
豊橋市自然史博物館：シーラカンス化石標本写真借用



展示室入口風景



骨格標本の展示

(4) ギャラリー展示

1) 百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～

①概要

名称の冠：姉川地震発災 100 年メモリアル事業、「国際惑星地球年日本」・「地質の日」参加事業、「国際博物館の日」記念事業

期間：2009 年 4 月 25 日（土）～6 月 7 日（日）

ただし、5 月 20 日午後～5 月 26 日（火）は新型インフルエンザのため臨時休館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料：無料

観覧者数：受付業務を行う者がいないため、不明

主催：琵琶湖博物館・滋賀県防災危機管理局

後援：産業技術総合研究所地質調査総合センター、彦根地方气象台、湖南広域消防局

協賛：イオンモール草津

担当：里口保文

②内容：

2009 年は、滋賀県北部であった大規模な地震である姉川地震（1909 年）がおこってから 100 年目にあたる。その間には、近畿地区でも大規模な災害をおこす地震があったが、滋賀県を中心とする地震はおこっていない。姉川地震から 100 年がたち、人々の記憶からそのような災害があったことが忘れられようとしているが、私たちが暮らす日本の風景は、地震を起こす地球の動きによっても形作られてきたという側面をもち、長い年月でみれば、頻繁に地震が起きていると言える。

この展示では、100 年前におきた姉川地震について、当時の災害写真をもりこみながら解説し、日本の地震がどうやっておきているかなどの自然科学的な解説と、現在の地震防災の取り組みを紹介した。また、それに関連したイベントも行った。なお、展示の作成については、滋賀県防災危機管理局の地震防災担当者、産業技術研究所地質センターの小松原 琢氏、堀川晴央氏、寒川 旭氏の三名の研究者と共同で行った。

③展示物：

展示室前でモニターによる映像を流したほか、展示室内では、3 つのコーナーに分けて、以下のような展示を行った。

「企画展示室前」

- ・防災関連映像「日本の地震災害」（DVD：借用）を連続放映

「姉川地震を振り返る」

- ・災害記録写真（一部は現在の写真添付）、53 点（琵琶湖博物館所蔵写真よりパネル製作）
- ・姉川地震の解説パネル 19 点（当時の報告書などを元に製作）
- ・被災当時の調査報告等出版物 4 件（滋賀県立図書館、彦根地方气象台より借用）

「科学的に地震を知る」

- ・地震の科学説明パネル 19 点（パネル製作）、協力研究者の原稿を元に作成
- ・1/20 万 シームレス地質図（近畿地方・北陸・東海地方）、産業技術総合研究所より提供
- ・琵琶湖西岸断層帯（饗庭野断層）活断層はぎ取り標本、高島市教育委員会所蔵を借用
- ・琵琶湖西岸断層帯説明模型、滋賀県庁所蔵を借用

「防災へのとりくみ」

- ・防災の取り組み解説パネル 10 点（パネル製作）、防災危機管理局・彦根地方気象台の原稿を元に作成
- ・滋賀県の防災の取り組みパネル、18 点、滋賀県庁所蔵
- ・企業による防災グッズ、13 件
- ・湖南広域消防局関連物品、3 件（4/25～5/6 のみ）
- ・全国の自治体発行 防災関連出版物

④取材等

テレビ：17 件、新聞 4 件

⑤関連イベント

- ・キャッフィーによる展示アピール
日時：4 月 25 日（土）、29 日（水）10 時～16 時、場所：企画展示室前、アトリウムにて
- ・起震車による地震の揺れ体験
期間：4 月 29 日（水）～5 月 6 日（水）、場所：一般来観者駐車場奥
- ・湖南広域消防局の消防車両の展示
日時：4 月 29 日（水）10 時～16 時、場所：一般来観者駐車場奥
- ・滋賀県防災ヘリコプター『淡海』による模擬訓練
日時：4 月 29 日（水）、10 時と 15 時の二回、場所：一般来観者駐車場隣の芝生広場にて
- ・高島災害支援ボランティアネットワーク「なまず」による紙芝居・人形劇
日時：5 月 6 日（水）午後（2 回講演）、場所：企画展示室前
- ・研究者による展示解説
日時：5 月 10 日（日）2 回講演、講師：産業技術総合研究所 小松原 琢 氏
- ・関連講演会『琵琶湖に地震がやってくる？』
日時：5 月 17 日（日）2 回講演、講師：寒川 旭 氏（産業技術総合研究所）
- ・気象台の人による展示解説
日時：5 月 31 日（日）2 回講演、講師：真砂 氏、有本 氏（彦根地方気象台防災業務課）

⑥関連事業

- ・平成 21 年度市町長防災危機管理ラボ in 滋賀
日時：6 月 1 日（月：休館日）、午後
主催：滋賀県防災危機管理局
場所：琵琶湖博物館ホール（および企画展示の観覧）
内容：市町長への防災研修等。防災危機管理局の担当のため詳細は省略する

⑦関連展示等

姉川地震から 100 年目という事もあり、姉川地震に関係が深い湖北地域、地震の危惧がある湖西地域などで、この展示を巡回してはどうかとの考えから、県内の関係団体へ実施を呼びかけた。また、琵琶湖博物館での展示期間中に、この展示の一部を使用して展示ができないか、といった問い合わせにより、実施する協議をした団体などがあつた。これにより、県内の各所で展示の協力を行った。

- ・長浜市尊勝寺町自治会
主催：長浜市尊勝寺町自治会、協力：琵琶湖博物館

月日：2009年7月26日（日）

場所：長浜市尊勝寺町

・関西地震防災研究会

「湖国の地震防災を考える 百年前の姉川地震が語るもの」シンポジウムの関連展示として行われた。

主催：関西地震防災研究会、共催：滋賀県立大学、京都大学

後援：滋賀県、長浜市、湖北町、虎姫町、日本自然災害学会、（協力：滋賀県土地家屋調査士会）

月日：2009年8月8日（土）

場所：長浜文化芸術会館 大ホール

・虎姫町

「メモリアル100TORAHIME ～姉川地震百年～」の姉川地震学習コーナーとして展示。8月14日は姉川地震が起こった日。

主催：虎姫町、共催：東京工業大学都市地震工学センター、関西ライフライン研究会

協力：（独）防災科学技術研究所地震防災フロンティア研究センター、滋賀県など

月日：2009年8月14日（金）

場所：虎姫町 生きがいセンター

・長浜市

主催：長浜市

共催：琵琶湖博物館・滋賀県防災危機管理局

期間：2009年8月17日～8月30日

場所：西友長浜楽市店（長浜市八幡東町9-1）

・イオンモール草津

主催：イオンモール草津

共催：琵琶湖博物館・滋賀県防災危機管理局

期間：2009年9月9日～9月23日

場所：イオンモール草津 イオンホール（草津市新浜町300番地）

・高島市

主催：高島市

共催：琵琶湖博物館・滋賀県防災危機管理局

期間：2009年11月21日（土）～2009年12月6日（日）

場所：高島市安曇川町（高島市役所ロビー）

2) 古生物の復元－科学と芸術が会うところ－

①概要

期間：2010年1月3日（日）～1月31日（日）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料：無料

休館：1月12日、18日～22日、25日（11日祝日は開館）

展示協力者：小田 隆氏、徳川広和氏、谷本正浩氏

共催：日本古生物学会

担当：高橋啓一、山川千代美

②展示主旨：

恐竜や古代ゾウをはじめ動物化石は、発見するだけで話題になる一方で、部分的な化石からは種類を決めるにも難しい資料ともいえる。近年、科学的な研究成果に基づいて、様々な動物の形態や生態を復元しよう

とする研究が進められている。

今回、2010年1月に日本古生物学会が琵琶湖博物館で開かれるにあたり、古生物の研究成果が絵画や模型を通して復元される世界を紹介した。

③内容

展示会では、古生物の復元画や復元模型の制作で活躍されている小田 隆氏、徳川広和氏、谷本正浩氏の3名の作品を中心に、恐竜や古代ゾウなどの復元画と復元模型の約24点を展示した。また、展示会場内で学会のポスター発表が行われ、最先端の研究と展示物の両方を同時に見る機会が提示できた画期的なギャラリー展示となった。



(5) トピックス展示

1) アトリウム

○トピック展示「トラ・虎・タイガー!?!」

期間：2010年1月3日(日)～2月7日(日)

場所：琵琶湖博物館アトリウム

料金：無料

展示責任者：松田征也

展示関係者：高橋和征・齊藤慶一・石田末基・瀬川也寸子・八尋克郎・橋本道範・秋山廣光・
亀田佳代子・中井克樹

内容：2010年の干支「トラ」にちなみ、当館が所蔵する昆虫標本・古文書・鳥類標本・貝類標本・
植物写真・魚類写真等を展示した。

2) B展示室

○「琵琶湖博物館保管東寺文書 重要文化財指定記念トピック展示

移(うつ)ろう大地を把握するー自然のリズムと中世の人々ー

期間：2009年6月23日(火)～7月12日(日)

担当者：橋本道範・齊藤慶一

内容・特徴：重要文化財に指定された東寺文書を活用し、水域と陸域とが不定期的に推移する水辺において、その変化がどのようにして把握されていたのかについての研究成果を紹介した。

3) 水族展示

水族展示室内のふれあい体験室前に設置した小型展示水槽をつかって、生まれたばかりの稚魚や話題性のある魚など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

- ・「日本最長のミミズ “ハッタミミズ” (松田 2009年3月24日～4月12日)
- ・「イサザ (桑原 2009年4月21日～5月10日)
- ・「ムサシトミヨの稚魚 (松田 2009年6月2日～6月21日)

- ・「イチモンジタナゴの稚魚」 (松田 2009年6月23日～7月12日)
- ・「天然記念物“イタセンパラ”の稚魚」 (松田 2009年7月14日～8月2日)
- ・「スジシマドジョウ小型種琵琶湖型の幼魚」 (松田 2009年8月4日～9月6日)
- ・「天然記念物“アユモドキ”の幼魚」 (松田 2009年9月11日～10月4日)
- ・「オヤニラミの幼魚」 (松田 2009年10月6日～11月1日)
- ・「産卵期を迎えたカネヒラ」 (松田 2009年11月3日～11月29日)
- ・「ビワマスの卵が孵化しました」 (桑原 2009年12月15日～2010年2月28日)
- ・「イサザ」 (桑原 2010年3月30日～5月9日)

(6) 集う・使う・創る 新空間

2009年度は14件の利用があった。

期間	タイトル	主催者
4月1日～5月10日	淡海の川づくりフォーラムー流域活動報告	滋賀県土木交通部 流域治水政策室
6月2日～6月19日	「気候変動との闘いと世界の湖沼保全」世界環境デー協賛展示	ILEC/UNEP
6月21日～6月28日	「温故写新」はしかけ活動紹介展 ～2年間の活動を振り返って～	びわこ博物館はしかけグループ「温故写真」
6月30日～7月24日	みんなが楽しかった！「近畿子どもの水辺交流会」	滋賀県土木交通部河港課
7月25日～8月30日	木から生まれた溪魚たち フィッシュクラフト展 II	福永和明
8月31日～9月27日	淡海森林クラブ10周年記念行事“森づくりのお手伝い”	淡海森林クラブ
10月11日～11月1日	神秘の鍾乳洞 河内の風穴 ミニ写真展	映像集団 VINZ
11月8日～11月23日	「身近な森林(もり)の再発見！」里山デジカメ選手権受賞作品展	近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
11月28日～12月6日	まるエコ DAY	まるエコ DAY 実行委員会
12月8日～1月11日	竹との戦い！～ふるさとの川をみんなで守ろう!!	滋賀県土木交通部河港課
1月13日～1月31日	平成21年度第2回水道パネル展「いのちの源『水』知っていますか？水道のこと」	滋賀県企業庁
2月2日～2月21日	第3回 淡海の川づくりフォーラムー川と水辺に関わる団体の活動報告	滋賀県土木交通部 流域治水政策室
2月23日～3月16日	みんなで学ぼう・広めよう・つなげよう！ぼくらのビオトープ	滋賀県土木交通部河港課
3月20日～5月9日	水石席飾り(鉱物・化石展2010「湖国の大地に夢を掘る」連動企画)	湖国もぐらの会

(7) ディスカバリールームのイベント

1) 展示関連イベント

○カウンター

「ぼくの・わたしのどこでも博物館 ～のぞいてビックリ☆どんな世界??」

(2009年4月4日～6月28日の土日祝) 参加者513名

「こどもの日企画：ふしぎ！！ズボンボってなあに？～むかしのオモチャをやってみよう！」

(2009年4月25日～5月6日) 参加者1,017名

「企画展関連イベント：ボーンおどり♪～骨をくみたてようー」

(2009年7月18日～9月27日) 参加者554名

「おちゃめなカボチャ2009～ディスカバリールーム☆秋の実りイベント」

(2009年10月3日～10月25日) 参加者106名

「いつでも どこでも だれとでも～むかしのあそび☆やってみよう！！」

(2010年1月8日～3月31日)

「特別プログラム：ブンブンごまをつくろう！」

(2010年2月13日、14日、27日、28日) 参加者198名

「特別プログラム：石の虫をつくろう！」

(2010年3月13日、14日、27日、28日) 参加者175名

○おばあちゃんの台所

「特別プログラム：お手玉をつくろう！」

(2010年1月13日、24日) 参加者35名

○他館

キッズプラザ大阪『夏の企画展「7つのとびら」特別プログラム：ヨシぶえをつくろう！～びわこのヨシがやってきた～』 (2009年8月20日)

展示交流事業

(1) 展示交流員と話そう

展示交流員は、琵琶湖博物館の案内だけではなく、展示を通して来館者と交流し、来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっている。展示交流員は、普段から展示室での交流を行っているが、さらなる交流業務の充実をはかるため、昨年度に引き続き、「展示交流員と話そう」を実施した。

本事業を実施するに際しては、展示交流員が各自でテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行った。

本事業は、普段の交流から「きっかけ」をつかみ、できるだけ自然なスタイルで臨めるよう努力した。展示交流員は各自のテーマに沿って、展示だけの交流ではなく、資料に触ってもらう・自作の資料を見ってもらう等、来館者の興味を引き出す工夫も行った。

詳細は以下のとおりである。

1. 実施期間：2009年12月1日（火）～2010年2月28日（日）

(期間内で各自のシフトにより実施)

2. 実施人数：展示交流員 24名

3. 実施回数：「通常業務の延長線上に各々のテーマがある」という主旨のもとに実施した為、回数・人数等は確認せず

「展示交流員と話そう」実施内容

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
A	池畑慎吾	顕微鏡を覗いてみよう	自然史研究室
	立本奈穂	どれが水晶？	コレクションギャラリー
	斉藤文子	化石ハントの楽しみ	コレクションギャラリー
	柳原徳子	地球 46億年の長さ！	コレクションギャラリー
B	井出範子	琵琶湖疏水をゆく	治水・利水への取り組み
	田中 綾	湖底遺跡と栗津貝塚	栗津貝塚
	岩見 勉	輸送の主役 丸子船	丸子船
	木村美枝	山王祭	丸子船
C	芦田弘美	人にも生きものにもやさしい田んぼ	くらしとむすびついた自然
	奥村恵子	富江家で回想法	富江家
	今泉美保	かわやのコイはなぜここに？	農村のくらし
	愛須美由起	冬のびわ湖のプランクトンを見てみませんか	プランクトンコーナー
	本田幸子	みみず	水をはぐくむ森林
	前川桂子	琵琶湖にすむプランクトン	プランクトンコーナー
	木下睦司	水辺の風景 琵琶湖から大阪湾まで	空からみた琵琶湖
	川島千紗	岩礁から沖合にすむ魚たち	トンネル水槽が上から見えるコーナー
	齋藤滋子	富江家 桶風呂	富江家
水族	森 智美	オオサンショウウオ	川に上流の生き物
	増馬由佳	ネオランプロログス・モーリーの稚魚について	タンガニーカ湖水槽
	杉本和子	ユリカモメとカイツブリ	水辺の鳥
	林 克子	水辺の鳥	水辺の鳥
	中江美知子	カイツブリ	水辺の鳥
	弓削宣子	カイツブリとユリカモメ	水辺の鳥
ディスカバリー ルーム	北田昌子	マイマイカブリの紙フィギュアをたのしもう	ディスカバリールーム

5 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス事業

(1) 観察会・見学会等

2009年度は、博物館内や県内とその周辺で行う博物館観察会等15件の事業を企画した。しかし、新型インフルエンザと荒天の影響により、2件中止せざるを得なくなり、13件の実施となった。ただ、他団体と協働できた観察会・見学会は12件(92%)となり、協働率については昨年度より増加した。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

	開催日		曜日	事業名	定員 (人数)	参加者 (人数)	共催関係
	月	日					
1	5	23	土	初夏の里山を歩こう	30	中止	カワセミ自然の会、里山の会（後援：甲賀市教育委員会）
2	6	20	土	不耕起の田んぼで生き物観察	30	62	朽木いきものふれあいの里
3	7	4	土	希望が丘自然観察会（昆虫）	30	31	(財)滋賀県文化振興事業団 〈滋賀県希望が丘文化公園〉
4	7	25	土	希望が丘自然観察会（植物）	30	10	(財)滋賀県文化振興事業団 〈滋賀県希望が丘文化公園〉
5	7	25	土	漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう	20	10	朝日漁業協同組合
6	8	2	日	甲賀地域 里山の虫たんけんー身近な夏の虫たちー	30	中止	みなくち子どもの森自然館 (後援：甲賀市教育委員会)
7	8	20	木	野外での地層の見方講座	20	3	みなくち子どもの森自然館 (後援：甲賀市教育委員会)
8	9	13	日	魚採りを楽しもう	30	49	はしかけうおの会 (後援：甲賀市教育委員会)
9	9	20	日	アユの産卵用人工河川を見てみませんか	20	12	(財)水産振興協会・水産課
10	9	26	土	甲賀地域 里山の虫たんけんーアカトンボやバッタたちー	30	13	みなくち子どもの森自然館 (後援：甲賀市教育委員会)
11	10	4	日	化石の観察会	30	25	湖国もぐらの会
12	10	24	土	古い民家のおけ風呂を見にいこう	15	22	肥田町郷づくり委員会
13	10	25	日	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	20	16	百瀬漁協、滋賀県漁連高島事業場
14	12	20	日	からすま半島の水鳥を観察してみよう	30	33	日本野鳥の会滋賀支部・びわたん
15	3	28	日	川虫探検	30	15	



野外での地層の見方



魚採りを楽しもう

(2) 講座

講座は、研究部が主体となって実施する講座(研究部の講座)、学芸員が専門テーマについて解説する講座(入門・専門講座)、教員や地域の指導者等を対象とした講座(指導者向け講座)、子どもたちを対象に行う夏休み自由研究講座等に区分できる。2009 度で開催した講座の実績を以下に記した。

1) 入門・専門講座

2009年度は、以下に示した3件の事業を実施した。

回	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者数	講 師
1	回転実験室で水槽実験を！	8月4日	火	15	25	戸田 孝
2	新琵琶湖学専門セミナー 『湖と人間』	12月6日～3月7日	土	各回 70	のべ 419	
3	琵琶湖博物館特別講演会	4月18日～3月20日	土	各回 200	のべ 1,697	

○回転実験室で水槽実験を！

本館C展示室の回転実験室で、準備に時間を要するため日常の展示室運営では実施できない、水槽を使った実験を行った。具体的には、水槽中央の排水口にできる渦が必ず実験室の回転の向きになることを確かめる実験と、水槽に牛乳などを垂らすとカーテン状になる実験(テラー柱の実験)を行った。

○新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』

詳細は研究調査活動(6)新琵琶湖学専門セミナー(p.24)の項を参照

○琵琶湖博物館特別講演会

詳細は研究調査活動(7)琵琶湖博物館特別講演会(p.25)の項を参照

2) 指導者向け講座(担当:大依久人、飯住達也)

2009年度は指導者のための博物館活用講座を3件開催した。

開催日	内 容	受講者数	担当者	共催・後援
8月6日	生き物飼い方講座 ・ザリガニの飼い方 ・外来生物 ・魚を飼う時の水そうの設営	21名	前畑・秋山 中井・桑原 大依・飯住	滋賀県総合教育センター
11月12日	骨を知る ・コイの咽頭歯標本作成 ・企画展示「骨の記憶」解説	17名	高橋 大依・飯住	滋賀県総合教育センター
11月19日	昔の暮らしから学ぶ ・講義および館内展示解説	16名	中藤 大依・飯住	滋賀県総合教育センター



生き物飼い方講座

3) 夏休み自由研究講座 (担当：上田康之・宮本真二)

子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない7月下旬に自由研究のテーマの決め方や研究の進め方、標本の作り方などについて指導する「夏休み自由研究講座」を開催した。本年度は初回から数えて8回目となった。本講座の日程、参加者数、講師等は下表のとおり、地学・化石コース、昆虫コースで定員を上回る多数の応募があった。

開催日	コース名	定員	参加数	会場	講師
7月26日(日) 10:00~15:00	昆虫	各コース 30名	30	実習室	八尋、梶永、高橋和、 (武田)、(南)
	植物		29	セミナー室	草加
	地学・化石		25	実習室	高橋・里口・(服部)

※ () 内は外部講師



地学・化石コース



昆虫コース

(3) 体験教室

2009年度も、昨年同様に里山体験教室を開催した。

○里山体験教室 (担当：西村知記・碓登志之)

「里山」という言葉は知っているが、行ったこと触れたことがない。子どものころに行ったきり久しく行ったことがない。このような里山初心者の方々に、里山へ訪れるきっかけを提供するために、里山体験教室を実施している。季節の連続性、時間の流れを感じるために、春夏秋冬の四季を通じて年4回実施し、人里の外側に広がる田畑、草はら、林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林1箇所にとまらず、各回周辺を歩いて、里山の魅力を探している。

春は、植物観察の「ビンゴクイズ」をしながら、春の息吹を感じ里山を歩いた。また伐採された丸太を伐り、ノコギリの使い方を学んだり、落ち葉かきをして里山体験したり、里山の会による山菜の天ぷらに舌鼓を打った。

夏は、生き物が一番活発に動き輝く季節であるが、お寺の水路で、タモ網を使って、ヤゴなどの水生昆虫も採集し、22種類の生き物を発見した。また里山の林の中で「簡易ハンモック」づくりに挑戦し、ハンモックから見た里山林の光景を感じてもらった。

秋は、里山の命が「実」を結ぶ季節である。今回は「里山の料理人」として腕をふるってもらうこととして、家族・グループごとにいろいろな色の葉や木の実を集めてお弁当に詰め、盛りつけやおしながきを書いてお弁当を完成させ、発表し合った。また、里山を維持していく上で欠かせない手入れ作業「柴刈り」・「落ち葉あつめ」を実施し、その柴や落ち葉を利用して新しい「カブトムシのゆりかご」をつくり、カブトムシの到来を願った。

冬は、里山の会の企画・運営によるヨシ原の「うさぎ追い」やノコギリによる薪づくり、安全なたき火の仕方とその火を利用した「燻製づくり」などを体験した。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月19日	春の里山歩き	43	西村、裕、楠岡
2	7月19日	夏のフェアブル式虫さがし	60	西村、楠岡
3	10月18日	秋の実りビンゴ	25	西村、裕、楠岡
4	1月17日	冬の里山とたき火	47	西村、裕、楠岡



観察会のビンゴクイズ



カブトムシのゆりかご



燻製づくり

(4) 新春よし笛コンサート

開催日：2010年1月24日（日）14時00分～16時00分

会場：琵琶湖博物館ホール

演奏：「守山琵琶湖よし笛アンサンブル」 & 「ほっとらいん」

参加者：300名

担当：八尋

内容：琵琶湖のヨシの重要性を改めて知っていただくことを目的に新春よし笛コンサートを開催した。琵琶湖博物館名誉学芸員 布谷知夫によるヨシの話し、様々な楽器を組みあわせて壮大なアンサンブルを聴かせてくれる「守山琵琶湖よし笛アンサンブル」、そしてよし笛演奏の第一人者といわれている「ほっとらいん」が奏でる素朴でやさしい音色を聴いていただいた。演奏曲は、越天楽、冬景色、冬の夜、アメイジング・グレイス、ロンドンデリー・エア、ジュピター、モルダウ、ふるさと、琵琶湖周航の歌などであった。参加者は300名と大盛況であった。

学校連携事業および体験学習

(1) 学校団体の受け入れ（担当：大依久人、飯住達也、上田康之、上西智之、今榮誓子、長澤京子）

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。今年度は新型インフルエンザによる校外学習の中止が相次ぎ、入館児童生徒数は前年度比8%減となった。

充実した見学になるよう、下見や電話での引率者との打ち合わせの中で博物館の利活用について説明している。

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H20年度	今年度	増減	H20年度	今年度	増減
県内	小学校	181	171	-10	13,371	12,272	-1,099
	中学校	36	26	-10	2,856	2,431	-425
	高等学校	26	26	0	1,476	1,432	-44
	特別支援学校	29	20	-9	540	343	-197
	大学など	6	5	-1	696	368	-328
	合計	278	248	-30	18,939	16,846	-2,093

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H20年度	今年度	増減	H20年度	今年度	増減
県外	小学校	359	319	-40	30,828	28,954	-1,874
	中学校	117	108	-9	16,170	15,741	-429
	高等学校	42	34	-8	5,265	3,455	-1,810
	特別支援学校	14	26	12	331	750	419
	大学など	29	33	4	1,706	1,706	0
	合計	561	520	-41	54,300	50,606	-3,694
総合計		839	768	-71	73,239	67,452	-5,787

(2) 教職員等研修 (担当：大依久人、飯住達也)

博物館が主催した講座、館外への出前講座、県総合教育センターなどと連携した講座、各地の教育委員会や教育研究所からの依頼を受けた研修講座など多岐にわたった。結果として、786名の受講があった。受講者である教員や地域で活躍する環境保全リーダーの求めるものを把握し、学芸職員一人一人の専門性を活かしながら講座を引き続き実施していきたい。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
6月4日	木	初任者研修	75	滋賀県総合教育センター
6月9日	火	初任者研修	75	滋賀県総合教育センター
6月26日	金	理科実習助手講座	12	滋賀県総合教育センター
7月31日	金	自然調査ゼミナール研修	15	滋賀県中学校理科部会
8月4日	火	理科教育講座(甲賀市)	24	滋賀県総合教育センター
8月4日	火	日野町教職員夏季研修講座	35	日野町教育委員会
8月7日	金	授業力向上理科実験講座	15	伊丹市総合教育センター
8月10日	月	草津市教育研究会理科部会現地研修会	10	草津市教育研究会
8月11日	火	環境教育研究協議会	254	滋賀県教育委員会
8月17日	月	教職員研修「こうか学びの研修(理科講座)」	30	甲賀市教育委員会
8月18日	火	10年経験者研修(甲賀市)	6	滋賀県総合教育センター
9月2日	水	企画者のための環境学習体験講座	29	環境学習支援センター
10月14日	水	滋賀県高等学校教育研究会家庭部会南地区研究協議会	10	滋賀県高等学校教育研究会家庭部会
10月30日	金	京都府私立中学高等学校理科研究会	10	京都府理科研修会
11月5日	木	都道府県指定都市教育センター所長協議会初等理科部会	31	滋賀県総合教育センター
11月21日	土	滋賀の教師塾	151	滋賀県教育委員会
2月5日	金	教員研修会	4	吉野郡科学教育研究会
合計			786	



初任者研修

(3) 学校団体向け体験学習（担当：大依久人、飯住達也、上田康之、上西智之、今榮誓子、長澤京子）

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った見学への対応のほか、各種体験学習、フローティングスクール等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

また、展示見学学習を支援する「サポートシート（22種類）」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。

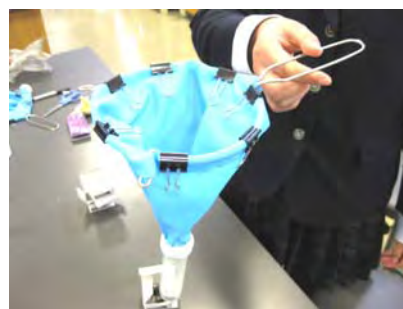
校種	主な活動内容
小学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等)、よし笛作り、化石のレプリカ、プランクトン採集と観察、昔のくらし体験（石臼、脱穀、手押しポンプ）、琵琶湖の富栄養化問題、魚の採集（釣り）と解剖、質問対応
中学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等)、よし笛作り、化石のレプリカ、水質検査、プランクトンの採集と観察、頭骨模型作り、わら細工、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、野外観察（ヨシ群落）、野外植物観察、水の汚れの測定、貝の観察、火山灰の観察、大地のつくり、学芸員の仕事体験、質問対応
高等学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示について等)、プランクトンの採集と観察、簡易プランクトンネットの作製、魚の採集（釣り）と解剖、水質調査、湖岸調査（地形、植生他）、昆虫の生態観察、火山灰の観察、野外植物観察、大地のつくり、展示利用学習、課題研究、質問対応

体験学習実施数

校種	県内		県外		合計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	28	2,134	27	2,312	55	4,446
中学校	20	2,557	11	1,286	31	3,843
高等学校	14	473	9	697	23	1,170
特別支援学校	1	9	1	3	2	12
合計	63	5,173	48	4,298	111	9,471



よし笛作り



簡易プランクトンネットの作製

(4) 一般団体向け体験学習（担当：大依久人、飯住達也、上田康之、上西智之、今榮誓子、長澤京子）

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域連携のあり方を探るため、子ども会やスポーツ少年団、障害者団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
18 団体 (880 名)	講義 (琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物)、ヨシ笛づくり、化石レプリカ作り、外来魚調理、プランクトンの採集と観察、魚の解剖、昔の暮らし体験 等



化石のレプリカ作り

(5) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊 (体験学習の日)」の活動 (担当: 大依久人、飯住達也)

当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための体験活動を、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらうよう、保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能にした。基本的には、第2・第4土曜日の午後1時より受付、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。新型インフルエンザの影響による臨時休館で中止になった回もあったが、参加者からは各回大変好評であった。年間428名の参加者があり、プログラムの内容上、定員オーバーで参加をお断りするものもあった。

回	月 日	内 容	参加者数
1	4月11日	春の草花でしおりをつくろう	14
2	4月25日	春の草花でしおりをつくろう	24
3	5月9日	屋外展示たんけん～春の野草みつけ～	19
4	5月23日	屋外展示たんけん～春の野草みつけ～	中止
5	6月13日	プラばら プランクトンのばらばらまんが	19
6	6月27日	プラばら プランクトンのばらばらまんが	12
7	9月12日	光とかげで写真をとろう ～水の中の植物編～	20
8	9月26日	光とかげで写真をとろう ～水の中の植物編～	13
9	10月10日	色まんだらをつくろう	36
10	10月24日	色まんだらをつくろう	24
11	11月14日	木の実で遊ぼう	26
12	11月28日	木の実で遊ぼう	21
13	12月12日	水鳥を観察しよう…色とりどりの冬鳥たち…	23
14	1月9日	展示室ですごろくをしよう	40
15	1月23日	展示室ですごろくをしよう	50
16	2月13日	昔の暮らしを体験しよう	22
17	2月27日	昔の暮らしを体験しよう	23
18	3月13日	土壌動物の模型をつくろう	17
19	3月27日	土壌動物の模型をつくろう	25
		合 計	428



光とかがいで写真を撮とろう



土壌動物の模型をつくろう

(6) 学校サテライト博物館事業 (担当：大依久人、飯住達也、松田征也)

2007年度から始まった本事業では、次のことを目的に進められている。

1. 博物館機能の地域化
2. 学校余裕教室の有効活用
3. 標本、資料や展示物のリユース
4. 実物提示による学習の充実
5. 学校教員への研修機会提供
6. 地域住民への生涯学習機会提供
7. 児童や地域住民による学習発表の場の提供 (琵琶湖博物館での発表を含む)

これらは、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具現化する方向と一致している。本年度は、昨年度からつづく甲賀市立佐山小学校での事業展開の継続に加え、湖北町立朝日小学校から高島市立青柳小学校への移設を行った。ただし、博物館側から提案しても、学校側にその活動を受け入れる時間的・人的な余裕が無くなっている。昨今の教育課題の多様化・複雑化に加え、2011年度より完全実施される新しい学習指導要領への移行などさまざまな要因が挙げられるとともに、少人数学習や外国語学習の導入により、小学校での余裕教室を準備していただくことも困難になっている。このような現状を踏まえ、本事業を「学校」だけに限定することなく、地域の公民館など「学校以外の公共の施設」にも展開していくことを検討する必要がある。



プランクトン観察学習 (湖北町立朝日小学校)



展示見学のようす (高島市立青柳小学校)



教員研修会
(甲賀市立佐山小学校)

(7) ミュージアムスクールの運営 (担当: 大依久人、飯住達也)

立命館守山中学校および滋賀県立石部高等学校の2校を受け入れた。

立命館守山中学校

1年生163名が参加し、13回にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、グループ別課題研究に取り組んだ。課題研究では個々のグループに学芸員がアドバイスを与え、学習の成果を発表会で交流した。

①2009年6月20日(土)

- ・9:40~10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(飯住):ホール
- ・10:45~11:45 常設展示見学

②2009年7月11日(土)

- ・9:40~10:40 講義「琵琶湖の水質とその調査法」(芳賀):ホール
- ・10:45~11:45 常設展示見学→自分が興味を持ったテーマや調べてみたい疑問点をワークシートに抽出

③2009年9月5日(土)

- ・体験学習「化石レプリカ作り よし笛作り プランクトン観察」(交流担当):実習室
- ・常設展示および企画展示(「骨の記憶—あなたにきざまれた五億年の時—」)見学

④2009年9月26日(土)

- ・9:40~10:40 講義「民家の歴史とその調査方法」(老):ホール
- ・10:45~11:45 講義「滋賀県の化石と地層およびその調査法」(里口):ホール

⑤2009年10月24日(土)

- ・9:40~10:40 講義「滋賀県の鳥とその調査法」(亀田):ホール
- ・10:45~11:45 講義「外来魚問題とその調査法」(中井):ホール

■10月末までを目安に…調べ学習の班決定→班ごとのテーマ、担当教員決定→担当学芸員調整

⑥2009年11月14日(土)

- ・9:40~10:40 講義「問題解決へのアプローチの方法」(高橋):ホール
- ・10:45~11:45 班ごとのテーマに合わせて展示見学

■各班の担当教員…11月21日までに担当学芸員と打ち合わせ

⑦2009年11月21日(土):学校で行う

- ・班での調べ学習 学校図書室での資料検索 学芸員への質問事項抽出
- ・各班の担当教員…12月11日までに担当学芸員に必要な資料・準備物など連絡

⑧2009年12月12日(土):博物館で行う(学芸員対応)

- ・班での調べ学習(質問事項に対する指導・助言・展示見学):セミナー室他

⑨2009年12月19日(土):学校で行う

- ・班での調べ学習 学校図書室での資料検索 学芸員への質問事項抽出
- ・各班の担当教員…1月8日までに担当学芸員に必要な資料・準備物など連絡

⑩2010年1月9日(土):博物館で行う(学芸員対応)

- ・班での調べ学習(質問事項に対する指導・助言・展示見学):セミナー室他

⑪2010年1月30日(土):学校で行う

- ・班での発表準備

⑫2010年2月6日(土)

- ・発表学習リハーサル(立命館守山中学校メディアホール)

⑬2010年2月13日(土)

- ・琵琶湖学習発表会(立命館守山中学校メディアホール) 審査・講評(松田、戸田、飯住)



立命館守山中学校講義



立命館守山中学校班別課題研究

滋賀県立石部高等学校

3年生7名が参加し、5日間にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、個別課題研究に取り組んだ。

①2009年7月21日(火)

- ・9:30～10:45 博物館のつくられ方(用田)
- ・11:00～12:00 展示見学
- ・12:30～13:50 琵琶湖の生い立ち(里口)
- ・14:00～15:30 生活と水の関わり(碓)

②2009年7月22日(水)

- ・9:30～12:00 沿岸域の観察(芳賀)
- ・12:30～15:30 プランクトンの観察(大塚)

③2009年7月23日(木)

- ・9:30～15:30 外来魚の解剖・調理(秋山)

④2009年7月27日(月)

- ・9:30～15:30 課題研究(秋山・芳賀・里口)

④2009年7月28日(火)

- ・9:30～15:30 課題研究(秋山・芳賀・里口)

(8) 職場体験実習(担当:大依久人、飯住達也)

草津市立新堂中学校2年生の職場体験実習を受け入れた。(新型インフルエンザによる学年閉鎖のため、2日目午後より打ちきり)

学校名	月日	受入人数	内容
草津市立新堂中学校	11月9～13日	3	学芸員研究体験・水族調餌給餌作業見学・体験学習教材準備・展示室清掃等



水槽掃除の様子

(9) 視察対応（担当：大依久人、飯住達也）

2009 年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計 8 件 28 名であった。

月 日	研 修	人数
9 月 21 日	千葉県教育庁	1
10 月 9 日	JICA	11
10 月 22 日	上海市教育代表団	6
11 月 21 日	宮崎大学附属中学校	1
12 月 17 日	みのかも文化の森	1
2 月 4 日	東京ガス環境エネルギー館	6
2 月 19 日	千葉中央博物館	1
3 月 10 日	学習院大学	1

(10) 博物館実習（期間：8 月 1 日（土）～8 月 8 日（土）；ただし 3 日は休み）

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内 8 大学、15 名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それにもとづく交流、資料整備、展示などの活動について、講義および実習を行った。交流事業の体験では、中学生を対象とした自然調査ゼミナールへ実習スタッフとして参加したり、展示作業の体験として 1 週間を通してグループでディスカバリーボックスの計画および試作品の製作を行い、最終日にプランの発表を行った。発表会では博物館職員との意見交換も行われた。なお、実習の延長希望者はいなかった。

実習の日程および内容

月日(曜日)	内容(午前)	内容(午後)
8 月 1 日(土)	<ul style="list-style-type: none">全体オリエンテーション講義「琵琶湖博物館の概要」講義「琵琶湖博物館の研究活動」	<ul style="list-style-type: none">講義「常設展示室の概要」実習「常設展示室の見学」実習「ディスカバリーボックスの製作ガイダンス」実習「ディスカバリールームの見学」
8 月 2 日(日)	<ul style="list-style-type: none">実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」	<ul style="list-style-type: none">講義「UD とはなにか」講義・実習「博物館の UD を考える」
8 月 3 日(月)	＜休 み＞	
8 月 4 日(火)	<ul style="list-style-type: none">講義「博物館の資料整理」資料保存の DVD 視聴講義「琵琶湖博物館の資料の保存・管理の状況」講義「琵琶湖博物館の資料データベース」講義、見学「琵琶湖博物館の水族」	<ul style="list-style-type: none">実習「資料整備実習」
8 月 5 日(水)	<ul style="list-style-type: none">講義「交流事業の概要」講義「自然調査ゼミナールのガイダンス」実習「自然調査ゼミナール」にスタッフとして参加	
8 月 6 日(木)	<ul style="list-style-type: none">講義「企画調整課の概要」講義「琵琶湖博物館の広報戦略」講義「琵琶湖博物館の電子情報」	<ul style="list-style-type: none">実習「博物館への質問と回答作り」
8 月 7 日(金)	<ul style="list-style-type: none">実習「ディスカバリーボックスの作成」	
8 月 8 日(土)	<ul style="list-style-type: none">実習「ディスカバリーボックス・プレゼンテーション準備」	<ul style="list-style-type: none">実習成果発表会修了式

実習生：8 大学，15 名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
成安造形大学	5	京都文教大学	1
近畿大学	3	滋賀県立大学	1
京都教育大学	2	広島大学	1
大阪芸術大学	1	龍谷大学	1
		合 計	15

国際交流活動

(1) 「JICA 博物館学集中コース」の実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館と共に、「博物館学集中コース」を実施した。国立民族学博物館が事務局を持ち、琵琶湖博物館は運営委員 2 名を出して、全体の運営にかかわると共に、6 カ国 10 名の研修員を受け入れた。

なお、この JICA の研修は当初 10 年間にわたり国立民族学博物館が「博物館技術コース」として行ってきたもので、琵琶湖博物館も研修員を受け入れて協力してきたが、2004 年度から名称と研修内容を変更し、琵琶湖博物館が共催して行っているものである。

1) 研修員

- AVAGYAN Ani（アルメニア国立博物館）
- SIHOTANG Vera Budi Lestari（インドネシア・自然と人の生活博物館）
- ROYYANI Mohammad Fathi（インドネシア・自然と人の生活博物館）
- DABABNEH Rasha Nabeel Tawfiq（ヨルダン・こども博物館）
- YASIN Motasem Abdelkarim Mahmoud（ヨルダン・こども博物館）
- CHOGDON Natsagnyam（モンゴル・イーデンズー博物館）
- BOLOOJ Ulziibayar（モンゴル演劇博物館）
- LA ROSA DUCATO Maria Ines（ペルー・文化管理協会）
- HIDALGO MINAYA Neydo Edgar（ペルー・電気博物館）
- KANOKMONGKOL Nitaya（タイ・国王即位 50 周年記念国立博物館）

2) スケジュール

- 2009 年 9 月 1 日 来日
- 9 月 14 日 開講式（国立民族学博物館）
- 9 月 15 日 カントリーレポート（琵琶湖博物館）
- 12 月 11 日 閉講式
- 12 月 12 日 帰国

琵琶湖博物館での研修

- 10 月 8 日 琵琶湖博物館の概要および設立経緯（楠岡）
展示見学（スミス、楠岡）
- 10 月 9 日 展示の計画および作製（乃村工藝社 鮫島）
企画展示の計画および作製（高橋）
交流事業の考え方（桑原）

- 学校との連携（飯住、大依）
- 10月10日 フィールドレポーターおよびはしかけとの話し合い（楠岡、スミス）
体験学習プログラム見学および体験（飯住、大依、楠岡）
琵琶湖博物館スタッフとの交流
- 10月11日 地域の子どもたちと環境調査（楠岡、スミス）
子どもたちとの意見交換（楠岡、スミス）
- 10月12日 休
- 10月13日 博物館と研究（用田）
情報の利用とそのための施設（戸田）
ディスカバリールームの考え方と運営（芦谷、山田）
各国博物館における教育プログラム（JICA 研修員）
- 10月14日 地域博物館の運営（布谷）
展示評価（黒岩）
展示評価の実践（黒岩、布谷、楠岡、スミス）
資料整理と利用（中藤）
琵琶湖博物館の学芸員とのディスカッション

3) 個別研修

選択の個別研修には、研修員 10 名のうち、8 名が琵琶湖博物館で研修した。

個別研修期間 11月8日～12日

参加研修員

- AVAGYAN Ani（アルメニア）
- SIHOTANG Vera Budi Lestari（インドネシア）
- ROYYANI Mohammad Fathi（インドネシア）
- DABABNEH Rasha Nabeel Tawfiq（ヨルダン）
- YASIN Motasem Abdelkarim Mahmoud（ヨルダン）
- BOLOOJ Ulziibayar（モンゴル）
- HIDALGO MINAYA Neydo Edgar（ペルー）
- KANOKMONGKOL Nitaya（タイ）

研修内容（テーマ・地域と博物館）

- 11月8日 はしかけ登録講座の見学（楠岡、スミス）
はしかけ里山の会の活動見学（楠岡、スミス）
- 11月9日 博物館と地域の交流（布谷）
プランクトンの模型作り（楠岡、スミス）
- 11月10日 MIHO MUSEUM 見学（楠岡、スミス）
滋賀県立陶芸の森見学（楠岡、スミス）
- 11月11日 高校生体験学習（プランクトン）の見学（楠岡）
高校生体験学習（魚の解剖）の見学（磯田、楠岡）
- 11月12日 研修員による体験学習デモンストレーション
インターナショナルコーナーの案作り（芦谷、山田、藤岡、楠岡）
琵琶湖博物館学芸員とのディスカッション

(2) 海外からの視察・研修

月	日	団体名	依頼者	人数	担当
4	7	アメリカ合衆国ウェストバージニア州 国際ロータリー第 2650 地区受入研修生	近江八幡ロータリークラブ	11	中井
4	9	ドイツ連邦共和国バイエルン州 アウグスブルク・シュヴァーベン独日協会代表団	滋賀県商工観光労働部国際課	9	グライガー
4	14	フィリピン共和国 ラグナ湖開発公社研修団	国際湖沼環境委員会	9	楠岡・小島
4	24	フィリピン共和国 ラグナ湖開発公社研修団	国際湖沼環境委員会	9	楠岡
4	24	中華人民共和国湖南省 益陽医学高等専科学校一行	滋賀県商工観光労働部国際課	12	中井
5	15	アメリカ合衆国カリフォルニア州 スタンフォード大学 大学生講義受講	スタンフォード日本センター	25	スミス
5	21	インド共和国 高校生訪日団	(財)日本国際協力センター	20	楠岡
6	10	JICA 集団研修「持続的増養殖開発コース」(ベナン、ブルキナファソ、ギニア、マラウィ、セネガル)	(株)国際水産技術開発	6	松田
6	11	インド共和国 高校生訪日団	(財)日本国際協力センター	20	楠岡
7	2	JICA 集団研修「環境中の有害汚染物質対策コース」(アルジェリア、エルサルバドル、フィリピン)	(財)地球環境センター	3	中井
7	3	アメリカ合衆国ミシガン州 ミシガン州立大学連合日本センター学生研修	ミシガン州立大学連合日本センター	3	グライガー
7	16	大韓民国 ガンヤング中学校英才クラス日本研修	(社)びわこビジターズビューロー	39	中井
7	23	大韓民国 (株)産業公害研究所 馬先朱氏視察	光ツアー(株)	2	戸田
7	29	中華人民共和国 中国環境科学学会 (CSES) 視察	(財)国際湖沼環境委員会	3	中井
8	4	アメリカ合衆国ミシガン州 スペリオール湖大学 Ashley Moerke 氏見学	滋賀県立大学環境科学部	2	楠岡
8	11	大韓民国 市民環境研究所 パク・チャングン所長一行視察	ベスト・ケイ・ジェイ(株)	4	中井
8	20	中華人民共和国 昆明理工大学学生・教員研修	京都大学国際交流センター	16	スミス
9	1	JICA 研修「水辺を中心とした自然体験型環境教育研修」(ブラジル、コスタリカ、アルゼンチン、グアテマラ)	環境レイカーズ	10	楠岡
9	17	ベトナム社会主義共和国 ベトナム高校生訪日団見学	(財)日本国際協力センター	22	楠岡
10	6	JICA 研修「閉鎖性海域の水環境管理コース」(コートジボワール、メキシコ)	(財)国際エメックスセンター	9	中井
10	13	(株)デンソー「DENSO YOUTH for EARTH Action ~新・地球人プロジェクト」学習	ホールアース研究所	40	楠岡・中井
10	15	タイ王国 カセート大学学生・教員研修	京都大学国際交流センター	25	スミス
10	18	21 世紀東アジア青少年大交流計画 ブルネイ訪日団第 1 陣見学	(財)日本国際協力センター	33	グライガー 大塚
10	27	アメリカ合衆国オレゴン州 オレゴン州立大学 Stanley V. Gregory 教授一行視察	(財)土木研究所自然共生研究センター	4	中井

月	日	団体名	依頼者	人数	担当
11	11	大韓民国 (株)文化都市経営研究所「国立ウルンド生態研究及び教育センター設置基本計画樹立研究」における機関調査	(株)文化都市経営研究所	4	中井
11	15	明治大学大学院文化研究科臨床人間学専攻教育学コース大学院生取材	明治大学大学院	1	中井
11	18	JICA 研修「産業廃水処理技術コース」(中華人民共和国、エチオピア、インド、ジャマイカ、ベトナム)	(財)北九州国際技術協力協会	7	中井
11	26	JICA 国際技術研修「生活排水対策コース」(コロンビア、インドネシア、イラク、モーリシャス、フィリピン)	(財)北九州国際技術協力協会	9	中井
12	5	第19回 International Hydrological Programme 研修コース現地見学会	京都大学防災研究所	22	スミス
12	23	カナダ国ブリティッシュコロンビア州 カピラノ大学生物学科 Malcom Fitz-Earle 教授一行視察	仏教大学文学部人文学科	3	中井
2	3	フィリピン共和国フィリピン大学等環境専門家視察	横浜国立大学大学院	10	中井
3	4	JICA 研修「環境をテーマとした博物館建設のための視察」(中華人民共和国)	京エコロジーセンター	8	布谷 中井
3	23	中華人民共和国 海南大学海洋学院陳院長一行	滋賀県立大学環境科学部	4	中井

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは県内を中心に身近な生き物や生活に関する情報を定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中でいかしていくとともに、情報のやりとりを通して博物館とレポーター同士をつなぐ制度である。登録者数は現在 137 名である。

活動としては、博物館とフィールドレポーターが相談してテーマを設定し、年数回行うアンケート型調査と、自由な内容で身近な情報を随時報告する自由交流型調査の 2 種類を実施している。調査の結果はフィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」にまとめられ、フィールドレポーター交流会でも発表される。調査に先駆けての勉強会や観察会も実施している。

2009 年度は、自由交流型調査では、夏に比良の打見山で「アカトンボのふる里さがし」を実施し、「タンポポ分布調査」にも参加した。アンケート型調査では、6 月から 12 月にかけて「テントウムシを調べましょう」、冬期から 2 月末にかけて「近江ことば いまむかし」を行った。2 件のアンケート型調査を広報したところ、一部新聞に掲載され、「近江ことば いまむかし」調査は NHK おうみ発 610 で報告を行うなど、広く関心を呼んだ。

その他の活動としては、フィールドレポーターのニュースレター「フィールドレポーター掲示板」を 4 回（通巻 55-58 号）発行し、調査報告書「フィールドレポーターだより」を 2 回発行した。

また、アンケートの調査のテーマごとにレポーターが博物館の会場にあつまり、資料の展示や専門家の講演を交えて自由に意見を交換するため、各調査についての交流会は、2010 年 5 月に開催する予定である。

フィールドレポーター同士や地域との交流を一層図るため、新聞やテレビ出演の協力、年に一回調査報告会の実施のほか、「アカトンボのふる里さがし」調査のマーキング予備調査や 2010 年 3 月に博物館アトリウムで開催された「はしかけ・フィールドレポーター活動発表会」や「びわこまるエコデー」にも出展し、フィールドレポーター活動の紹介を積極的に行った。

フィールドレポーターの調査内容

内 容	実施期間	報告(件)
1) テントウムシを調べましょう	5 月～12 月	115 件
2) 近江ことば いまむかし	冬頃～2 月	取りまとめ中
3) アカトンボのふる里さがし	夏頃	現場調査
4) 自由型調査(フィールドレポーター掲示板)	通年	



あかとんぼのふる里さがし



取材風景



JICA 研修生との交流

フィールドレポーターの活動記録

月 日	曜	内 容
4月11日	土	定例会：アンケート調査について協議
4月18日	土	定例会：掲示版印刷、発送準備
5月16日	土	定例会：調査推進の検討
5月23日	土	定例会：アンケート調査の再検討
6月13日	土	定例会：掲示版印刷・発送作業、テントウムシ調査説明
6月20日	土	定例会：調査推進の検討
7月4日	土	定例会：掲示版印刷・準備
7月18日	土	定例会：掲示版印刷
8月1日	土	「アカトンボのふる里さがし」参加案内の印刷と発送
8月23日	土	定例会：トンボ調査の実施に関する準備
9月5日	土	定例会：トンボ調査会の検討、近江ことば調査方法等の検討
9月26日	土	定例会：掲示版の印刷と発送
10月10日	土	定例会：近江ことば調査の方向性の検討、JICA 交流と館内活動
10月24日	土	定例会：びわこまるエコデー参加の企画、近江ことば調査票の検討
11月7日	土	定例会：近江ことば調査の検討
11月21日	土	定例会：近江ことば調査の再検討、カイク観察
12月5日	土	定例会：近江ことば調査票作成について
12月19日	土	定例会：調査票の印刷、発送作業
1月16日	土	定例会：来年度調査目標の確認、資料提供
2月6日	土	定例会：近江ことば調査の中間報告、次回掲示版発行の検討
2月20日	土	定例会：掲示版の発送、作業
3月20日	土	だよりの印刷作業、交流会開催の検討

(2) はしかけ制度

はしかけ制度は、展示の見学や交流イベントへの参加など、いわゆる受け身的な博物館の利用にとどまらず、博物館の事業や活動にさまざまな形で自主的にかかわりたいとする人たちに対し、そのきっかけの場、さらには新しい活動を発想・展開するための環境を提供するための参加型制度で、2000年8月に設置された。

はしかけ制度のもとでの活動は、年度単位で登録・更新の手続きを経たはしかけ会員が、個別のテーマを持つはしかけグループの活動に参加する形で主として行われる。はしかけグループの活動は多岐にわたり、活動の場所や対象を博物館内やその周辺におくグループもあれば、県内の各地域へも活動範囲を広げているグループもある。このようにして、はしかけ会員には、琵琶湖博物館の中長期基本計画に掲げられている「地域だれでも・どこでも博物館」の実現に向けて、博物館と地域あるいは地域に住む人たちとの間の、文字通り「はしかけ」としての役割も期待されている。

はしかけ制度は、参加者の側が自主的に企画・提案を行い、博物館とともに活動を具体化していく形へと移行していくことが望まれる。はしかけグループやはしかけ会員が核となり、各地で新たな活動が生まれ、すでに活動しているグループと連携をとりながら、博物館と連携した活動のネットワークが広がっていく方向へと発展していくことが、はしかけ制度の将来的な目標のひとつであり、「地域だれでも・どこでも博物館」構想を実現するひとつの有効な手段となりうるものとする。

はしかけ会員になるうえでの受講が必修である登録講座を例年とおり7月、11月、3月の3回実施した。2009年度の新規登録者は、60名にのぼり、会員数は前年度とほぼ同数の371名であった。活動グループ数は

試行活動を行っていた「からすま通信局」が正式活動を開始し、一つ増加して16となった。登録講座開催日にあわせ、はしかけ交流会、はしかけ発表会を開催し、会員同士の親睦をはかるとともに、新しく会員になったはしかけさんに活動グループの紹介を行った。また、活動を一時中断された会員が再活動を開始しやすい制度にするために、規約の改定を行ったり、年間計画の調整のために担当者会議を新たに実施した。

	開催日	会 場	講 師	参加者数
第1回	7月5日(日)	琵琶湖博物館セミナー室等	全体進行：中島・宮本、各グループの説明は、世話人やはしかけ会員による	17人
第2回	11月8日(日)			11人
第3回	3月7日(日)			33人

各グループの活動

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：芦谷美奈子、藤岡千裕、山田陽子 会員数：4名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 「ザ！ディスカバはしかけ」は2005年度の秋に発足した団体である。これまでは個人ごとの活動が中心となり、イラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修を中心に活動した。そして、展示室のイベントで他のはしかけさんにも協力していただき、今後の目標でもある“ディスカバリーをもっと楽しくするイベント”にも挑戦できた。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
5月18日	人形劇場「パペットの女の子」修繕	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
12月12日	ザ！ディスカバはしかけ交流会	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
1月13・24日	「お手玉をつくろう！」おばあちゃんの台所にて お手玉製作の指導	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
2月28日	「ブンブンごまをつくろう！」製作の補助	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
3月14日	「石の虫をつくろう！」製作の補助	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
通年	BOX「妖怪双六(仮名)」BOX 作成中	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)

○近江昔くらし倶楽部

担当：中藤容子 会員数：15名

[設立の趣旨] 常設展示「農村のくらし」など近江の伝統的な暮らしぶりから学ぶ“小地域循環的な暮らし”を、実際に屋外展示の森・田畑・工房の中で実験的に創造していくことを目標に、ボランティアな力をあわせて屋外展示空間を積極的に活用し創造する取り組みを行っていくため、2009年1月、グループ名を変更して刷新することとなった。

[活動の概要] 年間を通じ、「工房田んぼの作業・行事」への協力と屋外展示、生活実験工房を拠点とする昔くらし体験の活動を行っている。平成21年度は、草津養護学校や渋川小学校などの連携授業を行ったり、おうみ未来塾10期生の「おうみこっとな夢つむぎ」に協力したり、滋賀の食事文化研究会や木考塾などの関連団体との共同例会を開くなど、平成20年度に引き続き、外部との連携に広がりを見せた。

「近江昔くらし倶楽部（旧展示室を楽しくする会）」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月4～6日	昔くらし合宿・2009夏 in 黒田京北	黒田基幹集落センター
4月21・22・23日	工房を楽しもう！（畑の種まきなど）	生活実験工房
4月25日	作ってみよう・滋賀の味（第1回） 富江家展示見学&里芋のおはぎ作り	展示室・生活実験工房
5月9日	昔くらし探検・研究会（講演会『森と湖を結ぶ「菜園家族」』（愛荘町文化協会主催）	ハーティーセンター秦荘（愛荘町）
5月12・13日	工房を楽しもう！ （茶つみ・製茶、里芋・こんにゃく芋の植え付け）	生活実験工房
5月20日	お蔵探検	彦根市石寺、西川家
5月30日	作ってみよう・滋賀の味（第2回） 玉ねぎの酒粕づけなど初夏の料理	生活実験工房
6月7日	住まいの小学校（第1回） 話題提供：木村敏氏「Mさんの家」	生活実験工房
6月20日	工房を楽しもう！ （廃油で虫除けキャンドルづくり）	生活実験工房
7月25日	作ってみよう・滋賀の味（第3回）夏野菜の寒天寄せなど。「四季・遊牧」（後編）上映会	生活実験工房
8月5日	工房を楽しもう！ （ヨシ笛づくり、「遊牧・四季」（前編）上映会）	生活実験工房
8月8日	昔くらし探検・研究会 （第2回限界集落サミット in 大君ヶ畑）	大君ヶ畑 体育館（多賀町）
8月20～23日	昔くらし合宿・2009夏 in 黒田京北	黒田基幹集落センター
8月30日	住まいの小学校（第2回） 話題提供：近州左官 小林隆男氏、川村勝美氏	生活実験工房
9月8日	昔くらし探検・研究会（里山研究庵 Nomad 訪問）	里山研究庵 Nomad（多賀町）
9月12日	昔くらし探検・研究会 （木工を楽しむ会、端材工房訪問）	生活実験工房
9月29日	草木染め体験（草津養護学校中学部）	草津養護学校
10月25日	住まいの小学校（第3回） 話題提供：鈴木有氏「わが家の住まいと暮らしーエコロジー住宅で地震に備えるー」	琵琶湖博物館セミナー室
11月10日	綿からの糸紡ぎ体験（草津養護学校中学部）	草津養護学校
11月11日	綿からの糸紡ぎ体験（草津養護学校高等部）	草津養護学校
11月12日	古民家再生プロジェクト	葛川細川・古民家
11月14日	昔くらし探検・研究会（おうみこっとな夢つむぎ・綿つみイベント参加、ファブリカ村・大西新之助工房・みずほの郷訪問）	彦根市、能登川町
11月21日	博物館を100倍楽しむ秘訣+ヨシ笛づくり （守山市立河西小学校）	琵琶湖博物館うみっこ広場
12月2日	住まいの小学校（第4回）今の住まいと暮らし意見交換会（びわ湖・まるエコ・DAY）	琵琶湖博物館会議室
12月10・19日	古民家再生プロジェクト	葛川細川・古民家
1月23日	古民家再生プロジェクト	葛川細川・古民家
1月26日	工房を楽しもう！（博物館の森の枝打ち）	生活実験工房
1月30日	作ってみよう・滋賀の味（第5回） こんにゃくづくり、滋賀の伝統野菜の漬物	生活実験工房

活動日	内 容	場 所
2月6日	昔くらし探検・研究会（討論会「自然と共生する持続可能な近未来社会：温故知新」参加）	龍谷大学瀬田キャンパス
2月8日	交流学习「渋川の昔を学ぼう」協力（草津市コミュニティ事業団）	渋川小学校(草津市)
2月10日	工房を楽しもう！（味噌づくり・綿繰り）	生活実験工房
3月11日	古民家再生プロジェクト	葛川細川・古民家
3月20日	昔くらし探検・研究会（あーき塾「風景をつくる素材と技」～土と左官～(滋賀県建築士会青年部)）	生活実験工房
3月21日	昔くらし探検・研究会（浜大津こだわり朝市）	京阪浜大津駅改札
3月23・24日	工房を楽しもう！（綿繰りなど）	生活実験工房
3月27・28日	古民家再生プロジェクト	生活実験工房

○近江はたおり探検隊

担当：中藤容子・辻川智代 記録・ホームページ担当：辻川智代 会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
2009年度（24回）	織姫の会	琵琶湖博物館
7月7日	研究会	琵琶湖博物館
7月29日	藍染め	湖南市・紺喜染織
10月12日	昔の機織りに関するの現地調査	米原市
11月20日	自然素材展見学	京都

○温故写新

代表連絡係：久保明彦 担当：秋山廣光 会員数：29名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。

生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様子を記録し後世に伝える。

感動的に、そして美しく。

時の流れと共に変化するこの世界の一瞬を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

[活動の概要] 撮影会と勉強会を開催。2009年度は、前年度より短い会期の発表会を行った。別動班として誕生した「古写真探検隊」は、「古写真整理」班と改称し、写真を使った聞き取り調査を行っている。また、古写真片手に地域の昔の情景を絵に変え環境絵巻物の作り込みに情熱を燃やす会員も現れた。こちら側から見ると古写真の情報収集と整理、聞き取り調査をされる相手側は古写真による回想法的癒しとなり、すばらしい活動を展開している。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月11日	撮影会	海津の桜
4月19日	ミーティング	古写真整理
5月4日	撮影会	茶碗まつり
5月30日	展示打ち合わせ	琵琶湖博物館
6月7日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
6月21日	展示準備	琵琶湖博物館
6月28日	展示撤収	琵琶湖博物館
7月12日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
8月30日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
10月18日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
11月15日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
11月21日	撮影会	烏丸半島
12月13日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
1月17日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
2月28日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館
3月27日	古写真整理ミーティング	琵琶湖博物館

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 会員数：7名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざしている。

[活動の概要] 2009年度前半はインフルエンザの影響で活動中止になり、ほとんど活動ができなかった。しかし、夏に環境と科学のフェスティバルに参加し、なかなか出かけられない湖東方面で紙芝居の上演と「生きている琵琶湖」の合唱をすることができた。この時は昭和30年頃の彦根の琵琶湖の様子を写した写真を使い、子どもたちと楽しいやりとりをすることができた。また、企画した行事の時に「生きている琵琶湖」を歌いたいなどの問い合わせが数件あった。少しずつではあるが、「生きている琵琶湖」のうたの広がりを感じられる1年であった。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
8月2日	環境と科学のフェスティバル参加	彦根ビバ・シティ
11月8日	はしかけ交流会に参加 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館セミナー室
1月17日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館 アトリウム
3月7日	はしかけ発表会に参加	琵琶湖博物館

○ほねほねくらぶ

会長：山中裕子 広報：永野まやこ 担当：高橋啓一

会員数：大人19名 子ども9名 計28名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれる生き物の骨格標本や毛皮作りなどを行っている。毎月1~2回の例会を中心に活動している。

2009年度は、琵琶湖博物館の企画展『骨の記憶』の「骨を楽しむ」コーナーを担当した。メンバーそれぞれが各自の組立骨格標本の展示と解説パネルを製作した。骨のおもしろさをどのように伝えるかを検討したり、コーナーのレイアウトを練ったりして展示をメンバーが一致団結し完成させた。また、展示期間中には、新聞やテレビの取材を受けたり、企画展に来場された方々と交流したりして、骨を通しての貴重な経験や出会いが多くあった1年だった。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	トカラヤギ(ヤンキー)の木製展示台製作 タヌキ、イタチの組立サル、イノシシの骨洗い(2回)	琵琶湖博物館
5月例会	ネコの解剖 子ジカ、アライグマの皮なめし タヌキ皮なめし完成 ヌートリア、イタチ、キツネ組立 シャモ、タヌキ骨格標本完成(5回)	琵琶湖博物館
6月例会	企画展示室に骨格標本移動、子ジカ平面展示、各自の標本作製、テレビ取材対応(NHK)	琵琶湖博物館
7月例会	解説パネル製作、企画展示オープニング参加、企画展示室で来場者と交流、テレビ取材対応(フジTV)(4回)	琵琶湖博物館
8月例会	ネコ、ヌートリア組立 フライドチキン骨並べ 企画展示室で交流(5回)	琵琶湖博物館
9月例会	ヌートリア、サル、ネコ組立 タヌキ解剖(2回)	琵琶湖博物館
10月例会	ワニガメ解剖(1回)	琵琶湖博物館
11月例会	タヌキ組立 シカ頭骨洗い シカ1体除肉、ヌートリア組立(2回)	琵琶湖博物館
12月20日	企画展示片付け、新聞取材(1回)	琵琶湖博物館
1月例会	ビワコオオナマズ、タヌキ解剖 ワニガメ、タヌキ組立(2回)	琵琶湖博物館
2月例会	ワニガメ骨格並べ イグアナ組立 モズ、ムクドリ解剖 オオバン計測(1回)	琵琶湖博物館
3月例会	ジュウイチ、コウモリ解剖(1回)	琵琶湖博物館

○たんさいぼうの会

会長：有田重彦 会長補佐：中井大介 担当(影の会長)：大塚泰介 会員数：約20名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に寄贈される。

2009年度も、日本珪藻学会誌 *Diatom* に2本の論文が掲載され、たんさいぼうの会が発表した論文は累計8本になった。

廣田昌昭・大塚泰介(2009) 鳥取県千代川の礫付着珪藻. *Diatom*, 25: 52-72.

Kihara, Y., Sahashi, Y., Arita, S. and Ohtsuka, T. (2009) Diatoms of Yamakado Moor in Shiga Prefecture, Japan. *Diatom*, 25: 91-105.

このうち Kihara et al. (2009) の研究成果については、琵琶湖博物館で記者レクチャーを行い、新聞6紙およびテレビ1局でとりあげられた。

また、同じく *Diatom* に、たんさいぼうの会を紹介する記事が掲載された。

中井大介(2009) 滋賀県立琵琶湖博物館はしかけグループ「たんさいぼうの会」の紹介. *Diatom*, 25 :

2009年度も「たんさいぼうの小さな旅」などで新たに珪藻試料を採集するとともに、過去の旅で採集した珪藻試料の写真撮影と整理を進めた。たんさいぼうの会でこれまでに採集した珪藻の標本は既に1,000本を超え、撮影した珪藻の写真は20,000枚を超えた。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月5日	第23回総会	琵琶湖博物館	担当：中井大介 参加者：11名
7月25日 26日	珪藻入門講座 「2回目のたんさいぼう講習会」	琵琶湖博物館	担当：中井大介/大塚泰介 参加者：のべ15名
10月4日	第24回総会	琵琶湖博物館	担当：木寺早苗 参加者：13名
11月29日	たんさいぼうの小さな旅 X 服部緑地	服部緑地 (豊中市)	担当：有田重彦 参加者：6名
12月27日	日本珪藻学会誌 Diatom に2本の論文と1本の 記事が掲載される		主著者：廣田昌昭・木原靖 郎・中井大介
1月6日	京都新聞滋賀版に活動が紹介される		コメント：有田重彦・大塚 泰介
1月17日	第25回総会	琵琶湖博物館	担当：田邊純子 参加者：15名
1月20日	記者レクチャー「琵琶湖博物館はしかけグルー プが山門湿原から130種もの珪藻を見いだし ました」(新聞6紙に掲載・テレビ1局が放送)	琵琶湖博物館	担当：木原靖郎/大塚泰介
3月8日	はしかけ発表会で発表	琵琶湖博物館	担当：有田重彦/中井大介

○植物観察の会

代表：不在 担当：芦谷美奈子 会員数：名簿なし

[設立の趣旨] 2004年度に行った企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」を準備している時期に、一つには植物の情報を収集し、植物を好きになる人を増やすために、同時にはしかけという制度の中で、どのグループにとっても、植物に関する話題は関係がするために、はしかけ全体の中の植物の研修会の位置づけで始まった。

[活動の概要] ニュースレターの発行に合わせて、野外での植物観察会を継続してきた。博物館での主催行事とは異なり、集合場所と解散場所を決めるだけで、かなり気ままに里山を歩き、目についた植物について観察をするという形式で行った。また今年度は「タンポポ調査西日本2010」の予備調査の年となり、その実施及びまとめ、さらに2010年度の本調査の準備の勉強会などを行った。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月10日	タンポポ調査のデータ整理と勉強会	琵琶湖博物館会議室	29名
7月19日	観察会	比良山系打見山	12名
10月4日	観察会	北小松げんき村のキノコ	12名
11月29日	観察会	堅田谷口八幡宮	9名
2月7日	タンポポ調査西日本2010の勉強会	琵琶湖博物館実習室	10名

○里山の会

世話役：飯田俊宏、前田博美、柳原徳子、桑垣 瑞、吉井 隆 担当：楠岡 泰、西村知記

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室の

ホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ方」を模索している。

[活動の概要] 里山体験教室の活動フィールドが、昨年度より野洲市大篠原になった。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、3年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。伐採した木々は、里山の燃料として利用され、参加者は里山の燃料を使うことから里山の恵みを感じることができた。この冬の体験教室は昨年と同様に、里山の会のプロデュースによって実施された。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月12日	春の里山の下見	野洲市大篠原
4月19日	里山体験教室（春）「里山の春をさがそう」	野洲市大篠原
5月10日	畑の棚田と朽木いきものふれあいの里見学	高島市鶴川、朽木柏
5月16日	観察会「初夏の里山を歩こう」の下見	甲賀市水口町
7月12日	夏の里山の下見	野洲市大篠原
7月19日	里山体験教室（夏）「里山の木陰を楽しもう」	野洲市大篠原
9月20日	初秋里山散策	甲賀市水口町、日野町
10月4日	鳥笛製作	琵琶湖博物館
10月11日	秋の里山下見	野洲市大篠原
10月18日	里山体験教室（秋）「里山の手入れをしよう」	野洲市大篠原
11月8日	鳥笛焼成、ポスター作成	琵琶湖博物館
11月22日	守山市民活動屋台村参加	守山市
1月11日	冬の里山下見	野洲市大篠原
1月17日	里山体験教室（冬）「里山の冬あそび」 （里山の会によるプロデュース）	野洲市大篠原
2月11日	和紙づくり	琵琶湖博物館
3月13日	里山の会総会	琵琶湖博物館

○田んぼの生き物調査グループ

担当：楠岡 泰、マーク J. グライガー 会員数：20名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 当グループは、フィールドレポーター制度で行った田んぼの生き物調査で興味を持った有志で結成された。水田に生息する生物、特に大型鰓脚類（カブトエビやハウネンエビ、カイエビなど）の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。大型鰓脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため、水温や水質、冬の土壌水分量などのデータの比較を行っている。はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査を行っている。2009年は合同調査として長浜市周辺の水田のエビ類調査を夏に、土壌の水分含有量などの調査を冬に行った。また、以前冬の土壌調査を行った近江八幡市周辺でも夏にエビ類の出現調査を行った。

「田んぼの生き物調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
5月24日	第1回田んぼの生き物合同調査	長浜市周辺	9名
5月30日	第2回田んぼの生き物合同調査	近江八幡市周辺	7名
6月7日	第3回田んぼの生き物合同調査	長浜市周辺	9名
11月9日	同定会および結果発表会	琵琶湖博物館	8名
10月3日	同定会および結果発表会	琵琶湖博物館	8名
12月16日	エビ類の卵探し	琵琶湖博物館	8名
1月31日	冬の田んぼ土壌合同調査	長浜市周辺	9名
3月7日	総会および結果発表会	琵琶湖博物館	8名
通 年	田んぼの生き物調査	滋賀県周辺	それぞれが随時調査
12月～2月	冬季田んぼの状態調査	滋賀県周辺	それぞれが随時調査

〇うおの会

会長：村上靖昭 担当：中島経夫 会員数：105名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 2000年の発足から2004年5月までは、滋賀県内の魚類分布調査や、法竜川での定点調査などの調査と分析を行ってきた（成果報告は、琵琶湖博物館研究調査報告第23号「みんなで楽しんだうおの会—身近な環境の魚たち」にまとめられている）。

2005年度より、琵琶湖流域を対象に、NPO、団体、機関、学校、企業や個人をつなぐ「琵琶湖お魚ネットワーク」の活動を展開、流域各地で分布調査や地域の観察会で指導を行ってきた。2007年2月には、その成果として「琵琶湖お魚ネットワーク報告書」を発行した。地域に活動の拠点が構築されたことから、琵琶湖お魚ネットワークの活動を終え、2008年度から「だれでも・どこでも琵琶湖お魚調査隊」の活動を展開している。この活動では、会員外に広く呼びかけ、琵琶湖淀川流域の魚の分布調査を行っている。会員の調査活動として、会員同士の交流やスキルアップのための月1回の定例調査を琵琶湖流域各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。うおの会では、このように魚つかみを楽しみながら、得られたデータをもとにして環境の保全や回帰に役立てたいと願っている。

「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月20日	第52回うおの会定例調査 大同川、栗田新田近辺	42名
5月18日	第53回うおの会定例調査 湖北湖岸の産卵調査	21名
5月24日	第15回うおの会運営会議	8名
6月7日	大阪自然観察指導員連絡会主催 投網教室に講師を派遣	1名
6月8日	第54回うおの会定例調査の下見	1名
6月15日	第54回うおの会定例調査 安曇川周辺の水路調査	37名
7月27日	第16回うおの会運営会議	8名

活動日	内 容	参加者数
7月6日	琵琶湖博物館はしかけ登録講座に参加	1名
8月3日	「もりやま・びわ湖・ブルーギル撲滅釣り大会」に協賛	
8月3日	琵琶湖の魚の親しむ会	29名
9月6日	第17回うおの会運営会議	9名
9月21日	第55回うおの会定例調査 高島市マキノ町周辺	33名
10月4日	第18回うおの会運営会議	10名
10月19日	第56回うおの会定例調査 野洲川上流部周辺	30名
11月9日	琵琶湖博物館はしかけ交流会に参加	11名
11月16日	第57回うおの会定例調査 午前：守山市法竜川調査 午後：生活実験工房で勉強会	32名
11月30日	第19回うおの会運営会議	12名
12月14日	第58回うおの会定例調査 大津市大戸川	40名
12月14日	第9回うおの会臨時総会	30名
1月17日	第20回うおの会運営会議	9名
1月31日	第21回うおの会運営会議	9名
2月28日	第22回うおの会運営会議	8名
3月8日	はしかけ発表会に参加	
3月29日	第59回うおの会定例調査 烏丸半島から大津にかけての産卵調査	28名
3月29日	第10回うおの会総会	40名
3月29日	運営委員会	15名

○咽頭歯倶楽部

会長：村上靖昭 担当：中島経夫 会員数：3名

[設立の趣旨] 2003年1月末に発足した。その趣旨はコイ科魚類の咽頭歯に興味を持つ人が集い、互いに研鑽しながら魚やコイ科魚類に関する知識を深めることにある。

[活動の概要] コイ科魚類の咽頭歯を見分ける能力を磨き、遺跡からの遺体や地層からの化石咽頭歯を同定する。そのことによって、コイ科魚類の進化の道筋や人の営みを知る。咽頭歯標本の製作、遺跡からの咽頭歯遺体の検出、化石の調査などを行っている。

「咽頭歯倶楽部」のおもな活動

月	活動日	内 容	場 所	参加者数
4月	12, 15, 16, 18, 22, 23, 25, 26, 30	カワムツ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング	動物標本製作室	各1名
5月	2, 6, 9, 11, 20, 21, 23, 24, 25, 27, 28, 30, 31	ホンモロコ、タカハヤ、カワムツ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング	動物標本製作室	各1~3名
6月	14, 29	ホンモロコ、タカハヤ、カワムツの咽頭歯のクリーニング。コイの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の泥の水洗選別	動物標本製作室	各1~3名
7月	6, 20, 21, 27	コイ、アブラハヤの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	各1~3名
8月	17	フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	3名

月	活動日	内 容	場 所	参加者数
9月	13	カワムツ、ウグイ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	4名
10月	4, 5, 11	カワムツ、ウグイ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	1名
11月	9	はしかけ交流会に参加	セミナー室	1名
	16	フナ属の咽頭歯のクリーニング	動物標本製作室	1名
12月	9, 20, 23	ウグイ、ギンブナの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	各1~3名
1月	17, 24, 31	ニゴロブナ、タカハヤ、カワムツ、オオクチバス、ギンブナの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	各1~3名
2月	7, 15	タカハヤ、カワムツ、オオクチバスの咽頭歯のクリーニングと乾燥。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	各1~3名
3月	2, 8	タカハヤ、カワムツ、オオクチバスの咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	動物標本製作室	各1~3名
	6	はしかけ発表会パネルなどの準備	動物標本製作室	2名
	8	はしかけ発表会に参加	企画展示室	3名

〇びわたん

担当：飯住達也、大依久人 会員数：26名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は、概ね第2、4土曜日の午後に行われている。この事業は、来館者に滋賀県の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことをねらいに行っている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラム開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、他の博物館や学校、地域に出かけて体験学習を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	担 当
4月11日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施
4月25日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施
5月9日	屋外展示たんけん～春の野草みつけ～	企画・運営・実施
6月13日	プラばら プラクトンのばらばらまんが	企画・運営・実施
6月27日	プラばら プラクトンのばらばらまんが	企画・運営・実施
9月12日	光とかげで写真をとろう ～水の中の植物編～	企画・運営・実施
9月26日	光とかげで写真をとろう ～水の中の植物編～	企画・運営・実施
10月10日	色まんだらをつくろう	企画・運営・実施
10月24日	色まんだらをつくろう	企画・運営・実施

活動日	内 容	担 当
11月14日	木の実で遊ぼう	企画・運営・実施
11月28日	木の実で遊ぼう	企画・運営・実施
12月12日	水鳥を観察しよう…色とりどりの冬鳥たち…	企画・運営・実施
1月9日	展示室ですごろくをしよう	企画・運営・実施
1月23日	展示室ですごろくをしよう	企画・運営・実施
2月13日	昔の暮らしを体験しよう	企画・運営・実施
2月27日	昔の暮らしを体験しよう	企画・運営・実施
3月13日	土壌動物の模型をつくろう	企画・運営・実施
3月27日	土壌動物の模型をつくろう	企画・運営・実施

館外・博物館イベント

活動日	内 容	場 所	担 当
7月5日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
7月25日	企画展関連イベント 「骨ほね調査隊～あたまの骨～」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
	企画展関連イベント 「骨ほね☆しかけ絵本づくり」		
8月2日	環境と科学のフェスティバル 「葉っぱのうちわ」	彦根ビバシティ	実行委員会 企画・運営・実施
8月7日	自然調査ゼミナール 「骨ほね調査隊～あたまの骨～」	琵琶湖博物館	講師 企画・運営・実施
8月11日	企画展関連イベント 「骨ほね調査隊～あたまの骨～」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
	企画展関連イベント 「骨ほね☆しかけ絵本づくり」		
8月20日	「よし笛をつくろう」 ～びわこのヨシがやってきた～	キッズプラザ大阪	講師 企画・運営・実施
10月4日	ホネでつながるワークショップ 「骨ほね調査隊～あたまの骨～」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
10月10日	JICA 博物館学集中コース	琵琶湖博物館	講師
11月8日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
11月9日	JICA 博物館学専門研修	琵琶湖博物館	講師
12月20日	からすま半島の水鳥を観察してみよう	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
2月27日	JICA 博物館学集中コース	琵琶湖博物館	講師
2月28日	びわ湖わくわく探検隊地域交流イベント	アクア琵琶	実行委員会 企画・運営・実施
3月1日	博物館の得意技・裏技大集合!! スタッフのための情報交換会	アクア琵琶	実行委員会 企画・運営・実施
3月7日	はしかけ登録講座 グループ概要説明 はしかけ発表会	琵琶湖博物館	実施

○水はしかけ

担当：里口保文、芳賀裕樹 会員数：12名

[設立の趣旨] 琵琶湖淀川水系の、特に水質について、実際に自分たちで採取をしたりすることで、どうい
事がおきているのかを調査してみる事。

[活動の概要] 2010年までは、大阪市立自然史博物館が開催しているプロジェクトY・淀川水系調査グループの水質班と合流して、琵琶湖～淀川水系の調査を行う。各メンバーが分担した場所で、調査、採水を行い、水系全体の事を考える。ただし、この調査は2009年の8月で定期調査を終え、不定期調査も行われる予定だが、今のところそれ以降の調査はやっていない。また、月に一回程度、水についての勉強会を行っているが、これも9月以降に行っておらず、今後の活動について検討中である。

「水はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月下旬の9日間	第6回採水調査	琵琶湖・淀川水系	12名
5月9日	第6回勉強会	琵琶湖博物館	8名
7月5日	第7回勉強会	琵琶湖博物館実習室	6名
8月2日	第8回勉強会	琵琶湖博物館実習室	4名
8月下旬の9日間	第7回採水調査	琵琶湖・淀川水系	12名

○緑のくすり箱

世話役：長澤京子 担当：草加伸吾 会員数：8名

[設立の趣旨] 琵琶湖博物館にある伊吹山の植物などの資料を活かし、植物を衣・食・住の様々な面で利用し、健康生活の維持を図ることを目的に、滋賀で活躍するアロマセラピストや植物療法士を中心に情報交換や実践を通じて得た内容を博物館利用者、県民に広く知らせていく。

[活動の概要] 2009年5月にはしかけグループに認定され、活動を始めたばかりで、博物館の利用方法など、暗中模索をしてきた1年だった。また、新型インフルエンザの影響で活動が中止になったりもして、思うように活動できなかったが、失敗をすることでレベルアップが図れた1年でもあった。他のはしかけグループとの共催や援助のおかげで、なんとか1年目の活動をこなすことができた。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
6月20日	廃油の再利用で虫除けキャンドル作り	琵琶湖博物館
7月18日	ラベンダー・バンドルズ作り	琵琶湖博物館
8月22日	薬膳料理と瀬田川クルーズ	石山「薬膳館」
9月9日	森林セラピーロードを歩こう	高島市「くつきの森」
10月25日	身近な植物で草木染め	琵琶湖博物館
11月22日	カリンの採取とアケビのつる籠編み	高島市「くつきの森」
12月6日	ハーブと生薬を使った発泡入浴剤作り	草津市笠縫公民館
12月20日	アロマ忘年会 親睦会	栗東市メンバー宅
1月19日	ドイツ自然療法講座	栗東市Beカフェ
2月7日	(午前) モンゴルの自然 (草加学芸員の講義) (午後) 琵琶湖博物館の見学 タンポポコーヒー作り	琵琶湖博物館
3月7日	エルダー花の目もとクリーム作り	琵琶湖博物館



はしかけ交流会の様子

地域交流活動への支援事業

(1) 地域活動の支援（博物館内対応）

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所	対応者
4	25	滋賀県立大学	20	琵琶湖の魚と環境	セミナー室	前畑
5	16	NTT 労働組合	200	水の使い方、琵琶湖の魚たち（さかなクンとのトーク）	ホール	牧野 中井
5	17	富山県植物友の会	25	モンゴルの森林の話	会議室	草加
6	21	日本野鳥の会滋賀支部	18	琵琶湖におけるカワウ研究の成果について	セミナー室	亀田
6	20	稲作体験ツアー	44	琵琶湖の水と魚のゆりかご水田	セミナー室	碓
6	24	若鮎保育園	33	園外保育	生活実験工房	中藤
6	30	シニア自然大学	60	琵琶湖の環境の変化について	セミナー室	芳賀
6	30	シニア自然大学	60	琵琶湖の植物、ヨシについて	セミナー室	布谷
7	16	淡海生涯カレッジ大津校	25	外来魚調理	実習室	秋山
7	18	NPO 法人シニア自然大学	35	水田の生き物の採集と観察	野洲市安治地 先/実習室	大塚
7	22	愛媛県立松山南高等学校	4	スーパーサイエンススクール「オオクチバスの食性」	図書室	秋山
7	22	志津南市民センター	40	琵琶湖の生い立ち	セミナー室	里口
7	25	高月町井口子供会	49	農村まるごとと魚のゆりかご水田	セミナー室	碓
8	1	京都造形芸術大学	35	「滋賀県の森林と森林管理（伐採）の違いによる琵琶湖への影響と対策	セミナー室	草加
				琵琶湖周辺のカワウの生態について		亀田
8	2	上田上牧町自治会	52	琵琶湖の魚	ホール	秋山
8	16	ガールスカウト大阪府第21団	24	森の環境学習	屋外展示、うみっこ広場	西村
8	20	伊川を愛する会	47	琵琶湖の環境と魚	セミナー室	秋山
8	22	水土里ネット日野川流域	90	環境保全と魚類の体験学習	実習室他	磯田
9	1	環境レイカーズ	10	魚の解剖	実習室	秋山
9	5	鳥浜女性の会	20	湖の環境と暮らし	会議室	楊
9	6	滋賀県青少年団体連絡協議会	28	琵琶湖の生態系の変化	会議室	前畑
9	12	岐阜県第2ブロック青少年育成市民会議	45	市民活動と琵琶湖水源の森林づくり	セミナー室	西村
9	13	南山大学人文学部	26	琵琶湖博物館の理念と展示	会議室	前畑
9	15	近畿大学農学部	150	琵琶湖の漁業の現状	ホール	磯田
9	17	京都府女性の船「ステップあけぼの」綴喜支部	45	農家の循環型の暮らしと桶風呂	セミナー室	老
9	18	関西大学博物館	80	琵琶湖博物館の沿革と展示コンセプト	セミナー室	用田
9	24	長浜市健康推進協議会	50	食と農の環境問題	会議室	中藤

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所	対応者
9	27	京都女子大学	30	琵琶湖博物館の沿革・コンセプト	会議室	高橋
9	30	滋賀県立大学人間文化学部	6	滋賀県の食文化とその歴史について	生活実験工房	中藤
10	17	中新川内水面漁業協同組合	26	琵琶湖のアユの生態	会議室	磯田
10	22	回想法ボランティアいきいき	10	琵琶湖博物館における回想法の可能性について	展示室、生活実験工房	中藤
11	8	尼子小学校 PTA	85	水環境について	セミナー室	高橋
11	14	NPO 法人自然と緑自然大学	50	①琵琶湖の話(琵琶湖 400 万年史)	実習室	里口
				②琵琶湖で採取したプランクトンの観察		楠岡
11	15	東近江市職員互助会	30	琵琶湖のついでの話、環境問題	会議室	前畑
11	21	ホテルの学校	30	交流会	会議室	榊永
12	8	愛知学院大学	31	琵琶湖博物館の展示コンセプト	会議室	用田
1	24	スーパードライ “うまい” を明日へ	150	琵琶湖の環境	ホール	前畑
2	20	滋賀県モロコ・フナ養殖研究会	18	野洲市における魚のゆりかご水田の取り組み	セミナー室	碓
3	4	京都市内博物館施設連絡会・京都市教育委員会	46	琵琶湖博物館の運営と展示概要について	セミナー室	前畑
3	21	淡海森林クラブ	30	近江昔くらし倶楽部の活動と屋外展示の活動	セミナー室	中藤

(2) 地域活動の支援 (博物館外対応)

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所	対応者
4	13	京大植物園を考える会	30	池の中に広がるミクロの世界	京都大学植物園	大塚
4	26	須原魚のゆりかご水田協議会	35	ゆりかご水田魚道づくり指導	須原農業倉庫、水田	碓
5	5	下岡部町公民館	20	綿の種まき	彦根市下岡部町公民館	中藤
5	16	米原市伊吹山文化資料館	59	天野川探検	米原市春照・高番・天野川周辺	秋山大依
5	26	湖南地域みずすまし推進協議会	8	水田地帯の生き物調査	草津市志那中町	碓
5	30	ホテルの学校	30	川の中のいきものしらべ	千丈川 (大津市)	榊永
5	31	比良里山クラブ	15	初夏の森探検と風のクラフト	大津市南比良の雑木林一帯	西村
6	1	大津市立平野幼稚園ほか	119	園外活動	大津市浄化センター尾上公園、幼稚園園庭	西村
6	13	大津市立真野北公民館	80	ホテルの観察	大津市伊香立融神社周辺	八尋
6	13	山田市民センター	35	田んぼの水のはたらきと生き物を学ぼう!	山田市民センター会議室、水田	碓 楠岡

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所	対応者
6	16	米原市伊吹山文化資料館	50	天の川探検	米原市春照・高番・天野川周辺	秋山
6	21	須原魚のゆりかご水田協議会	230	採集魚、ゆりかご水田の解説	須原いこいの家、水田など	前畑 裕
6	21	堤魚のゆりかご水田チーム	82	採集魚、ゆりかご水田の解説	野洲市堤水田	裕 (武田)
6	28	農業体験活動実行委員会	50	農と自然の体験第2回イベントで	愛西土地改良区	大塚
7	4	福寿土曜会/ぼてじゃこトラスト	14	生き物について知ろう	西方寺境内、天神川周辺	秋山
7	12	日本国際民間協力会 NICCO 琵琶湖モデルファームチーム	12	冬期湛水不耕起水田の生き物観察会	竜王町山之上地先	大塚
7	12	府営門真三ツ島住宅自治会 環境衛生部	50	外来カタツムリ観察会	大阪府門真市	中井
7	25	ぼてじゃこトラスト	30	水辺の生き物探検隊	安土町 西ノ湖周辺	秋山
7	27	米原市和みふれあいセンター	9	わら細工・ヨシ笛づくり	米原市和みふれあいセンター	大依
7	31	ホテルの学校	31	千丈川 上流の生きものたんけん	千丈川 (大津市)	榎永
8	1	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課	7	滋賀県こども環境特派員事前学習会	大津市生涯学習センター	中井
8	8	吹田市立博物館	120	けものと魚からみた環境ー動物考古学の視点から	吹田市立博物館講座室	中島
8	9	アトリエモレリ	30	アトリエモレリ「かえるよ!ホテル」原画展トークショー	西武百貨店池袋本店イルムス館	中井
8	15	大津プリンスホテル	40	琵琶湖の生い立ちの話と化石レプリカづくり	大津プリンスホテル「伊吹」の間	高橋 飯住
8	20	キッズプラザ大阪	25	ヨシぶえをつくろう! ~びわこのヨシがやってきた~	キッズプラザ大阪企画展会場	芦谷 山田 藤岡
8	22	グリーンパルズ新村	20	夏と冬の魚の種類の違い	新村公民館	桑原
8	22	滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会	121	農村環境と魚類と底生動物のかかわり	中江藤樹の里文化芸術会館	裕
8	24	ダイニック株式会社滋賀工場	30	琵琶湖と環境	ダイニック株式会社滋賀工場	牧野
8	24	湖南地域みずすまし推進協議会	7	水田地帯の生き物調査	草津市志那中町水田	裕
8	26	仏教スカウト連絡協議会	200	環境について	比叡山延暦寺会館	中島
8	29	長浜市長浜城歴史博物館・同友の会	70	湖国に残る織物から学び伝えようー近江はたおり探検隊	長浜市長浜城歴史博物館研修室	中藤
9	5	大津環境学習活動実行委員会	300	地引網でとれた魚の観察など	琵琶湖湖岸 (大津市北小松)	松田
9	6	須原魚のゆりかご水田協議会	62	魚のゆりかご水田オーナー制の稲刈り体験	須原いこいの家、水田など	裕

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所	対応者
9	20	ぼてじゃこトラスト	100	大戸川・田上地区の自然を親子で楽しむ日	ウォーターステーション琵琶	秋山
9	27	比良里山クラブ	15	水のクラフトと最上流の水源地探し	南比良の雑木林一帯と古崎川上流	西村
9	28	ホテルの学校	30	川の中のいきものしらべ	千丈川（大津市）	榊永
10	1～2	(社) 農村環境整備センター	30	農村自然再生高度化事業田園再生手作り塾「農業利用施設の外来生物駆除」座学とまとめ学習	エポカ 21（宮城県栗原市）	中井
10	4	ぼてじゃこトラスト	25	ぼてじゃこ池と大戸川・田上地区調査	ウォーターステーション琵琶	秋山
10	6	滋賀大学教育学部附属小学校	37	総合的な学習の時間「森と水とみんなのつながり」	滋賀大学教育学部附属小学校	西村
10	9	滋賀大学教育学部附属小学校	38	総合的な学習の時間「森と水とみんなのつながり」	滋賀大学教育学部附属小学校	西村
10	9	滋賀県土地改良事業団体連合会近入江支部	50	地域研修会「琵琶湖の魚と田んぼの生き物」&「外来魚調理」	アグリパーク	秋山
10	10	浅井歴史民俗資料館・あざい歴史の会	40	農家の循環型の暮らしと“ゴエモン風呂”	浅井歴史民俗資料館内七りん館	老
10	12	日本魚類学会自然保護委員会	150	市民公開シンポジウム「国内外来魚問題の現状と課題」講演	東京海洋大学	中井
10	16	滋賀大学教育学部附属小学校	38	総合的な学習の時間「森と水とみんなのつながり」	滋賀大学教育学部附属小学校	西村
10	16	大津市立平野幼稚園	100	園外活動	茶臼山公園	西村
10	16	立命館大学	300	琵琶湖の魅力と保全の課題	立命館大学	楊
10	21	多賀町教育委員会	30	農家の循環型の暮らし方と“桶風呂”	多賀町中央公民館	老
10	24	東京大学大学院地球環境学術・(財)国際花と緑の博覧会記念協会	200	地球環境フォーラム・コスモス国際賞受賞記念講演会「生物多様性を考える～自然と調和する経済社会をめざして～」講演	京都大学時計台記念館百年記念ホール	中井
10	25	草津市常盤小学校	80	びわこの魚と外来生物	草津市常盤小学校	秋山
10	26	大津市立平野幼稚園	37組	園外活動	大津市立平野幼稚園	西村
11	5	滋賀県立草津養護学校	10組	綿についての話、体験	滋賀県立草津養護学校	中藤
11	6	水士里ネット日野川流域	50	植栽について	蔵王ダム周辺	西村
11	8	愛西土地改良区	100	稲枝町おこしフェア	JA 東びわこ稲枝支店	大塚
11	9	大津市立田上幼稚園	80	自然の中で遊ぶ	田上市民運動広場	西村
11	9	NACS-J 自然観察指導員大阪連合会	30	勉強会 講義「外来生物問題と生物多様性:どのように考え、どう行動すべきか?」	大阪府環境情報プラザ研修室	中井

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所	対応者
11	10	滋賀県立草津養護学校（中学部）	6	綿についての話、体験	滋賀県立草津養護学校	中藤
11	11	滋賀県立草津養護学校	7	綿についての話、体験	滋賀県立草津養護学校	中藤
11	12	鹿児島市松元土地改良区	80	中尾迫地区生き物引越し作業観察会	鹿児島市中尾迫団地	中井
11	12	大津市立皇子が丘児童館	22組	秋の自然とあそぼう	茶臼山公園	西村
11	13	大津市立皇子が丘児童館	34組	秋の自然とあそぼう	茶臼山公園	西村
11	15	阪神貝類談話会	20	2009年11月例会発表	西宮浜公民館	中井
11	17	大津市立平野幼稚園	7	園外活動	茶臼山公園	西村
11	19	大津市立皇子が丘児童館	8組	園外活動	皇子が丘公園	西村
11	19	豊田市矢作川研究所	20	ゼミ「外来生物問題を通して生物多様性を考える」	豊田市矢作川研究所	中井
12	8	滋賀大学教育学部附属小学校	100	大地のつくり～古琵琶湖層の火山灰はどこから～	滋賀大学附属小学校	里口
12	10	野洲市魚のゆりかご水田推進協議会	10	H21 野洲市4集落ゆりかご水田総括	野洲市安治自治会館	碓
12	12	NPO 法人かごしま市民環境会議	30	「外来生物を知る これからの鹿児島の環境を考えよう」講演	鹿児島市ボランティアセンター	中井
12	13	NPO 法人瀬田川リバプレ隊	50	2009年度「湖上セミナー」	観光船一番丸（琵琶湖上）	芦谷 中井
12	19	NPO 子どもネットワークセンター天気村	20	昔暮らし生活体験活動、食文化体験実習	天気村古民家（大津市葛川）	中藤
1	23	野洲市堤自治会	20	琵琶湖と農業排水	野洲市堤自治会館	碓
2	21	ぼてじゃこトラスト	120	田上地区の貴重な魚&生き物たち	ウオーターステーション琵琶	秋山
1	26	三高理生物部会（三重生物教育会）	20	平成21年度三学期研修会 講義	三重県総合教育センター	中井
2	3	京都府立東稜高等学校	40	平成21年度 SPP 研究発表会 講評	京都府立東稜高等学校	中井
2	15	みずすまし専門部会（生態系保全専門部会）	17	野洲市における魚のゆりかご水田調査研究	滋賀県庁	碓
2	20	福井県	50	外来魚会議 in 三方五湖「外来魚から漁場を守ろう」講演	ホテル水月花イベントホール	中井
3	1	博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会	45	第5回環境・ほっと・カフェ 「博物館一技のレッドカーペット！！」	水のめぐみ館アクア琵琶	秋山
3	15	外来生物分布拡大予報研究会・横浜国立大学 GCOE「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」	100	特定外来生物の分布状況 2010 講演	東京大学教養学部駒場キャンパス5号館	中井
3	23	国土交通省苫田ダム管理所	15	ブラックバス勉強会 講義	国土交通省苫田ダム管理所	中井

(3) 博物館ガイダンス（視察対応を含む）

月	日	曜日	団体名	参加者数	場所	対応者
4	10	金	観音寺市議会	20	会議室	前畑
5	3	日	三重県立宇治山田高等学校OB会	5	展示室	中井
5	13	水	徳島県農林水産総合技術支援センター	2	保護増殖センター	松田
5	29	金	全国都市教育長協議会	41	ホール	前畑
6	7	日	岡山針科学研究所	28	展示室	前畑
6	26	金	盆栽クラブ	40	セミナー室	前畑
6	28	日	神姫観光	20	セミナー室	前畑
8	22	土	三重県新博ティーンズ・プロジェクト三重県生活・文化部 新博物館整備推進室	27	会議室	芦谷 布谷
8	26	水	東北学院大学	74	ホール	高橋
9	17	木	京都 SKY 歴悠会	30	会議室	桑原
10	16	金	関西電力本店お客様サービスセンター	15	会議室	前畑
11	7	土	奈良コープ	10	実習室	前畑
12	10	木	佐賀城本丸歴史館	1	応接室	八尋
1	19	火	滋賀経済同友会	4	事務室・水族展示室	中井
2	9	火	和歌山県自然保護室・農業農村整備課、和歌山社会経済研究所	5	事務室・展示室	中井
2	16	火	国立科学博物館	2	展示室	八尋
3	12	金	愛知県農業土木技術士会	8	展示室	裕
3	17	水	沖縄県平和祈念資料館	3	事務室	用田

(4) 質問コーナー・フロアトーク

当館では“学芸員の顔が見える博物館”を目指している。その一環として情報センターの一角に「質問コーナー」を設置し、学芸職員が日替わりで担当し質問を受け付けるとともに、当日の来館者に展示室での「フロアトーク」を実施している。館長も、月一回程度、質問コーナーを担当している。当コーナーでは、利用者が自分で調べたことを応援することに重点をおいている。質問には、その日の担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等の場合は、それぞれ専門の学芸員に回答を依頼したり、後日、回答したりすることもある。また、電話等による相談にも応じている。受け付けた質問の件数および内訳は別表のとおり。当コーナーでは、図書室入り口の壁に、担当学芸職員の予定を掲示している。担当者の予定を示すことにより、専門分野の担当者がある日に質問に来てもらえるよう配慮したものである。

質問コーナーにおける質問内容

期 間	2009年4月1日～2010年3月31日	
総質問数	696件	
質問形態	来訪による質問	564件
	電話での質問	141件
対応方法	担当学芸職員が対応	539件
	専門学芸職員（または外部）に依頼	138件
	その他	28件

情報発信活動

(1) 通信網を利用した館外への情報提供

来館者や遠隔地の利用者に対する電子的な情報提供手段については、開館以前から種々実践しながら検討を進めてきたが、2004年度までにwww（いわゆる「ホームページ」）を利用したシステムに一本化された。このシステムでは、インターネットを経由して博物館のページに接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を利用したり、博物館資料のデータベースや各種の学術情報を検索利用することができる。実際の運用は、データベースや電子交流システムなどの利用者からの反応に応じて異なる情報を提供する「動的サーバ」と、それ以外の一般的な情報を提供する「静的サーバ」の2台で分担しており、アクセス状況に関する統計も独立に計上されている。2009年度における各サーバのアクセス件数は下表のとおりであった。

インターネットページ（静的サーバ）へのアクセス件数

	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス	表紙アクセス	表紙開始アクセス
4月	2,701,277	609,156	123,770	17,362	10,223
5月	2,128,473	410,867	92,501	19,882	12,146
6月	2,219,108	458,135	93,592	18,309	11,816
7月	2,604,584	461,483	99,791	25,629	18,552
8月	2,759,588	461,401	104,774	27,724	20,112
9月	2,284,163	434,245	88,238	22,261	15,493
10月	2,033,440	447,116	86,896	16,853	11,463
11月	1,686,591	416,633	68,583	14,222	9,654
12月	1,579,266	379,623	86,678	12,200	8,220
1月	1,743,595	392,902	73,063	15,387	10,238
2月	1,869,007	380,076	65,831	15,350	10,300
3月	1,986,111	421,500	79,346	18,182	11,844
合計	25,595,203	5,273,137	1,063,063	223,361	150,061

総ヒット数：サーバに対する全ての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）
 各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる
 ページヒット数：「総ヒット数」のうち、各ページの定義ファイルに対する要求の件数
 連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）
 表紙アクセス：「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセスの件数（「表紙から入った」ものと「表紙へ戻った」ものとの合計）
 表紙開始アクセス：「表紙アクセス」のうち、最初にウェルカムページにアクセスした件数
 「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は、合わせて1件しか計数されない

インターネットページ（動的サーバ）へのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
セッション数	423	536	595	514	621	547	575	671	1063	593	550	393	7,081
絞込検索回数	339	251	397	223	291	168	123	662	4827	524	296	306	8,407
データ閲覧件数	5,031	5,788	4,086	4,574	9,526	7,391	5,632	10,910	29,544	11,146	14,959	7,115	115,702

セッション：サーバ側が絞込検索を実現するために認識している「同一ユーザによる連続した」アクセスの集合
 博物館内部からのアクセスは計数していない。

《インターネットページの更新》

当館のwwwページは、2002年度、2005年度、2008年度の3回にわたり、情報提供の目的となる本来の情報は保持しながらリンク（目的の情報へ行き着くための誘導情報）の構造を見直して、「広報媒体」としての

機能を強化する大規模更新を行ってきた。今年度はこれらの成果を踏まえた内容の更新を継続するとともに、過去の各年度におけるイベント情報等が各時点での態勢の都合で形態が不統一になっていたため、その整理を行って過去情報の検索が行いやすくする改良を施した。

なお、昨年度に引き続き、更新業務のうちレイアウトデザインに関わる部分は、保守管理業務の一部として委託請負業務として実施した。今年度は財政難に伴う特殊な運営体制の開始やインフルエンザ流行に伴う臨時休館など、更新業務の態勢が機動的であるかどうか問われる状況が多かったが、一部に担当学芸員の専門性に依存する部分があったものの、概ね現状の態勢によって適切に対応できた。

(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス

博物館側からの一方的な情報発信だけでなく、来館者や遠隔地の人からの情報を受ける活動も含めた双方向の情報交換を実現するためのサービスを、電子メールを利用して展開している。

開館以来、質問、感想、要望などを受け付ける専用の電子メールアドレス (query@lbn.go.jp) を設け、受付担当者が受け付けた電子メールを内容に応じて専門の学芸職員に割り振って回答するサービスを行っている。2009年度は全部で152件 (ウィルスメール・スパムメール・一方的な情報提供を除く) のメールがあり、その内容は以下のようなものであった。

専門的内容を含む質問	89
地学 (6) ・ 生物 (65) ・ 植物 (4) ・ 歴史 ・ 民俗 (4) 環境：人と自然の関わりも含む (10)	
施設利用 ・ 行事などの問い合わせや依頼	14
情報掲載依頼 (リンク許可 ・ サイト登録を含む)	9
資料の提供 ・ 利用、収蔵資料についての問い合わせ	6
館の運営についての意見	3
館の運営についての問い合わせや依頼	7
館の案内資料の請求	8
博物館に関する企画 ・ 設備等の売り込み	8
その他	8
合 計	152

回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。担当者を特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。

具体的には、一般利用者に公表されているメールアドレスとしては以下のものがある。

photo@lbn.go.jp 画像データベースに関する問い合わせ ・ 要望 ・ 情報提供

db-admin@lbn.go.jp データベースに関する連絡

dantai@lbn.go.jp 団体利用に関する問い合わせ ・ 打ち合わせ

meteo@lbn.go.jp 気象情報提供に関する各種連絡

jisshu@lbn.go.jp 学芸員実習に関する問い合わせ

hashi-adm@lbn.go.jp はしかけ制度に関する問い合わせ

press@lbn.go.jp 記者発表や報道資料提供に関する問合せ先

(3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
研究調査報告書第 25 号	A4	176	1,000
企画展示「骨の記憶」展示解説書	B5	64	2,000
企画展示「骨の記憶」ポスター	B2		1,000
企画展示「骨の記憶」チラシ	A4		25,000
ギャラリー展示「鉱物・化石展 2010 ぼくらは大地に夢を掘る」チラシ	A4		8,000
体験学習の手引き	A4		3,000
小中学生無料宣伝チラシ	A4		148,000
琵琶湖博物館のもよおしもの チラシ	A4		10,000
広報用「琵琶湖&川の魚」カレンダーポスター	A1		3,000
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ	A4		150,000

Ⅱ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

AED ケースの寄附を受けたので、エントランスに常時 AED を配置することとし、いつでも誰でもすぐに使えるよう整備を行った。また、園路内の轍（わだち）に部分について、一部補修を行うなど、より安全に利用していただくための施設整備を行った。

(2) 情報システムの整備

2009 年度は以下のような更新、追加整備等を行った。

1) 機器の更新

県の方針としてリースによる情報機器の更新を行わないことになったので、その対策としてリースを終了した機器を返却廃棄せず、継続使用することにした。

2) ソフトウェアの追加開発

予算が確保されなかったため、ソフトウェアの追加開発を実施しなかった。

3) セキュリティ強化のための措置

情報システムのセキュリティを確保するため、セキュリティ対策のための各種ソフトウェアについて、最新の情勢に応じたバージョンアップを継続的に行った。

(3) 来館者アンケート調査結果

1) 目的

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の博物館運営や展示の企画、広報活動のあり方などを考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケートを年 3 回実施している。

2) 実施時期と方法

アンケートを実施する日程は原則として平日と休日を含んで連続する 3 日間とし、アンケート用紙は来館者への券売時に毎日 1,000 枚を限度として手渡しで配布し、アンケート協力をお願いをしている。アンケート記入台はアトリウムに 1 箇所、玄関横に 1 箇所、計 2 箇所設置し、券売時に配布したものは別にアンケート用紙を置いている。2006 年度から出口付近にアンケート調査ご協力の案内看板を設置することで回収率をあげている。

2009 年度の実施内容は以下のとおりである。

第 1 回	2009 年 8 月 21 日（金）～23 日（日）	回答者数	320 名
第 2 回	2009 年 11 月 20 日（金）～22 日（日）	回答者数	217 名
第 3 回	2010 年 3 月 19 日（金）～21 日（日）	回答者数	159 名

3) 調査内容

来館回数、博物館来館のきっかけ、滞在時間、満足度、および記入者自身のおよその年齢、性別、住居地は、毎回共通の調査項目となっている。2009 年度は基本的に 2008 年度調査と同じ項目で調査を実施した。

4) 傾向

3回の調査ともほぼ2008年度と同じ時期（8月、11月、3月の20日前後の金土日）に実施した。

①リピーター

全体として「はじめて」来館された方は減少傾向にあり、「4回以上」来られている方は微増している。特に3月の調査では「はじめて」の方が26.4%だったのに対して「4回以上」が32.7%と3月としてははじめて、「4回以上」が上回った。

②情報源

来館のきっかけとなった情報源は例年と同じく、友人・知人、家族・親戚による口コミが多かった。3月の調査でポスター・チラシおよび県・市町村広報を見て来館された方が倍増したのは、3月はじめに湖南地域に全戸配布したチラシ「知っている？琵琶湖博物館って」の効果があったものと思われる。

③来館目的

8月および11月の調査で来館目的が「期間限定展示観覧」の方が過去最高の12.2%および14.7%であった。これは「骨の記憶」という誰もが関心をもつテーマが良かったのではないかとと思われる。「常設展示観覧」を目的にしている方は相変わらず毎回30%以上あり、他の博物館と比べて琵琶湖博物館の特徴である。「家族や友人との団らん」が減少傾向にあり、「学習・教養を深めるため」が少し増加傾向にある。これは琵琶湖博物館の利用形態が団らんから何かを学ぶ場に変わってきた可能性がある。

④満足度

「琵琶湖博物館中長期基本計画」第二段階の数値目標として、来館者アンケートの満足度調査（博物館を訪ねて「非常に満足した」と「満足した」をあわせた満足度）で「年3回平均目標値80%」達成することがあげられている。2009年度の満足度の平均は82.1%と2008年度の85.2%にはおおよばなかったが、目標値を上回っている。また「やや不満である」「不満である」は最高でも1.8%と低く、高く評価できよう。

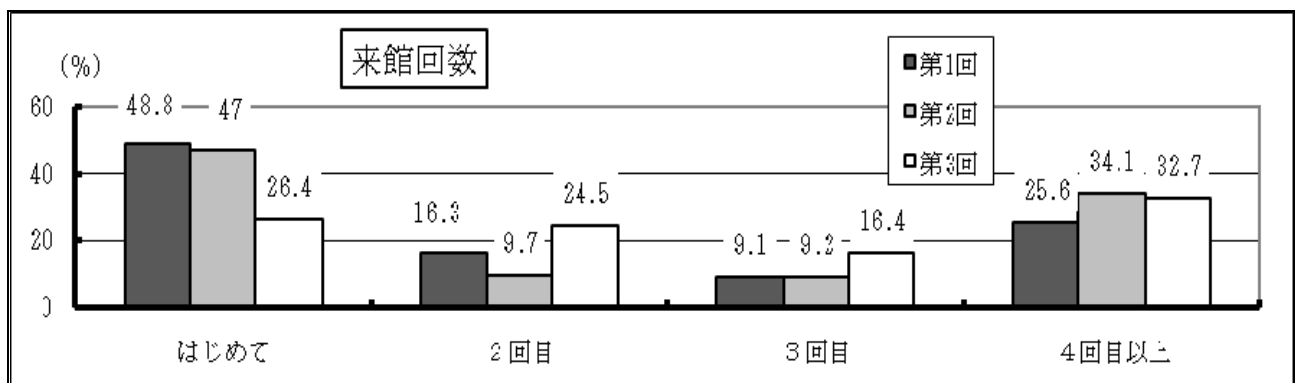
⑤不満

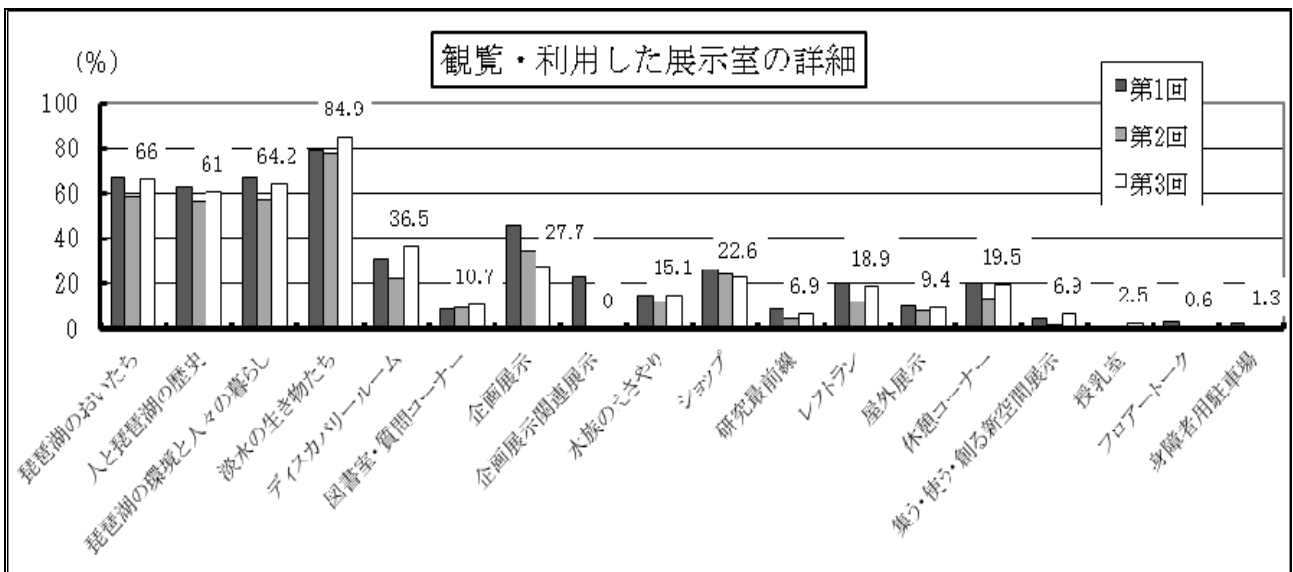
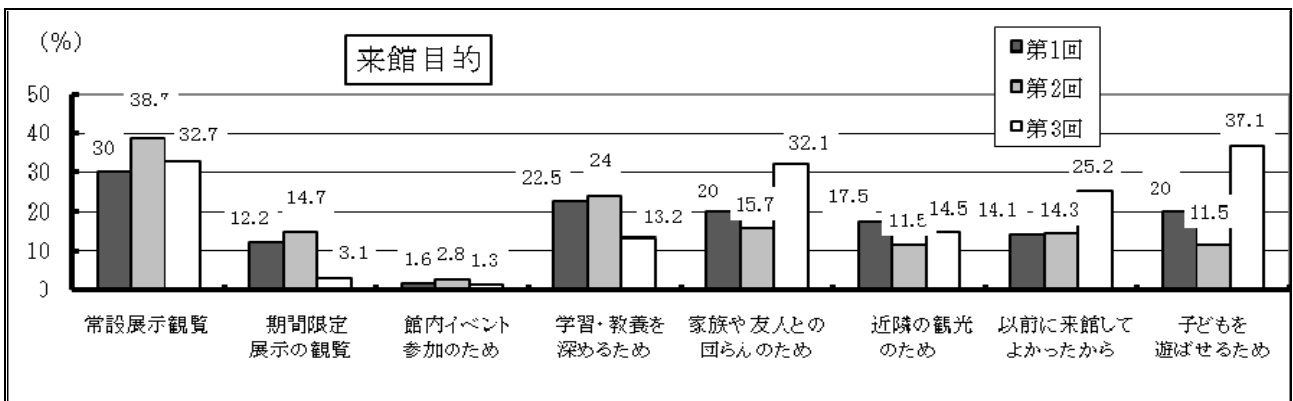
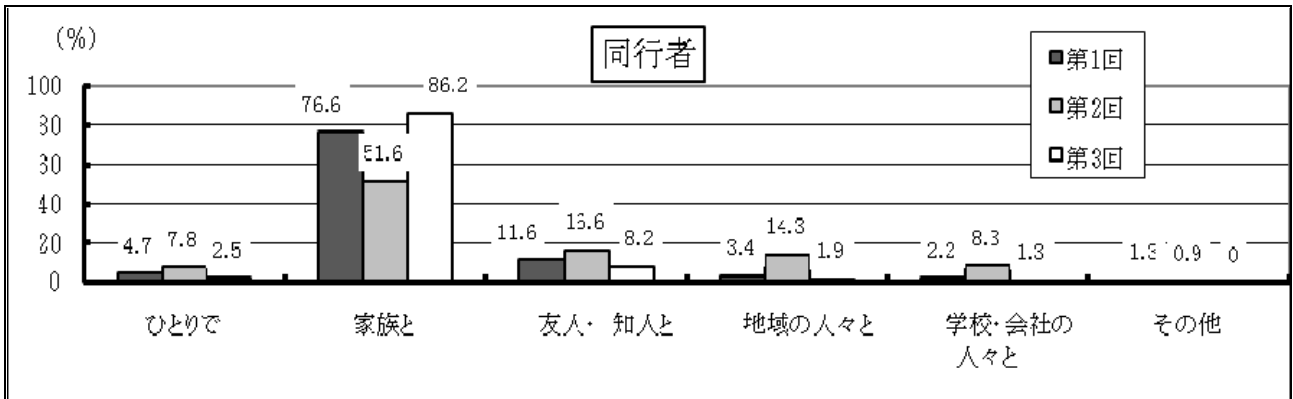
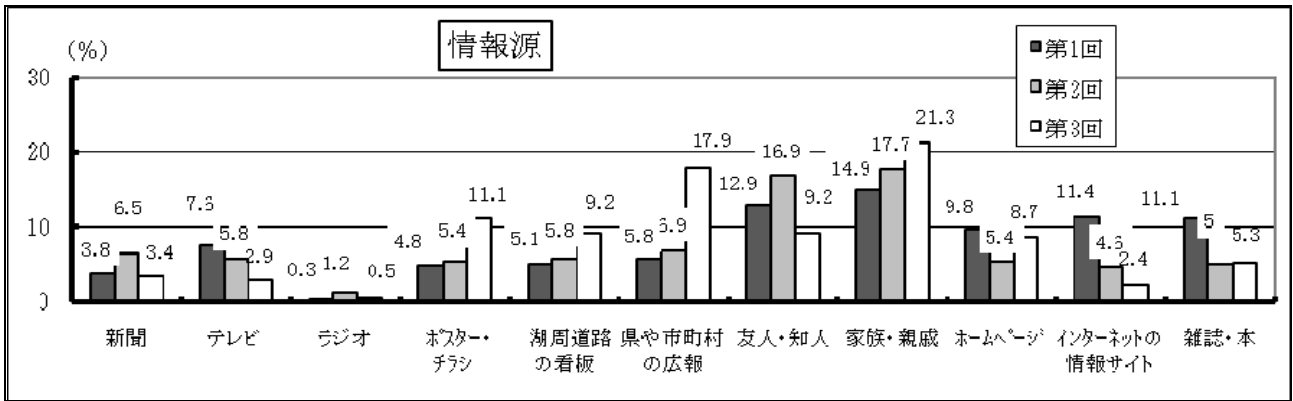
以前レストランに対する不満が20%以上と多かったが、2009年度は3.7%～8.8%と減少し、改善が見られた。それに対して観覧料金に対する不満は最高で12.9%と高かった。駐車場に対する不満は6.6%～8.8%と相変わらず高く、駐車場から博物館までの距離が長いのではないかとと思われる。

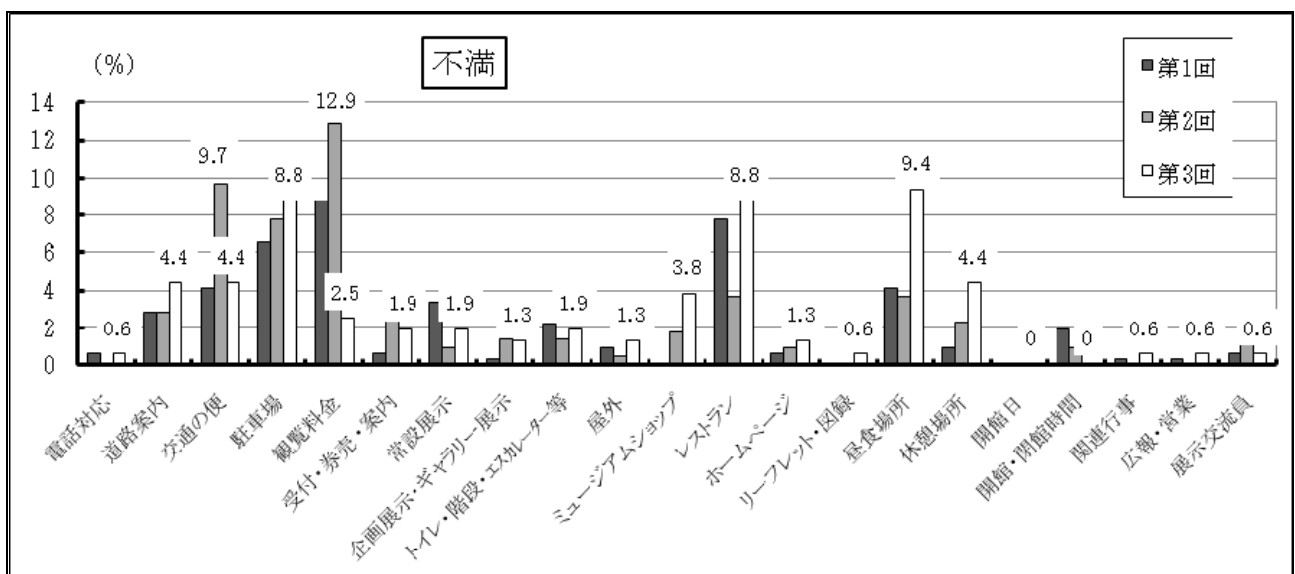
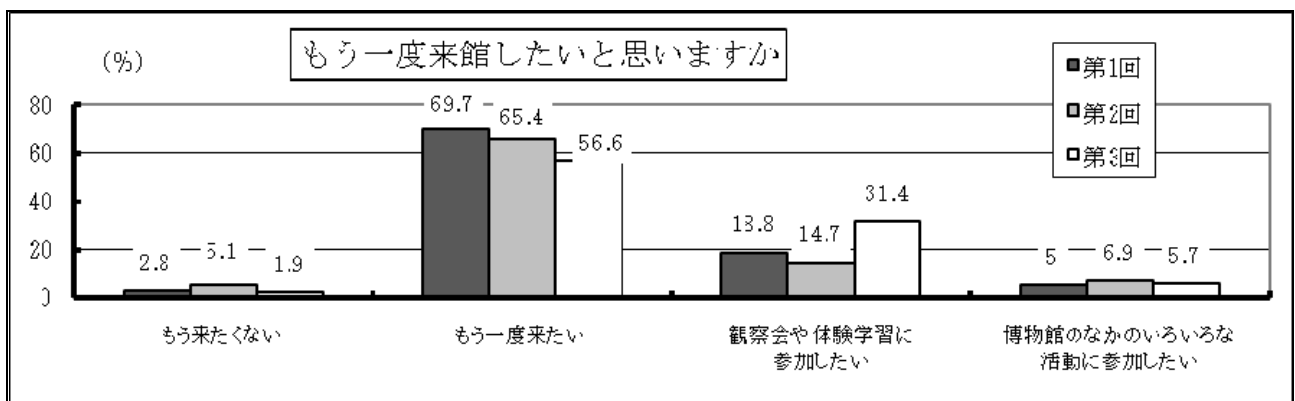
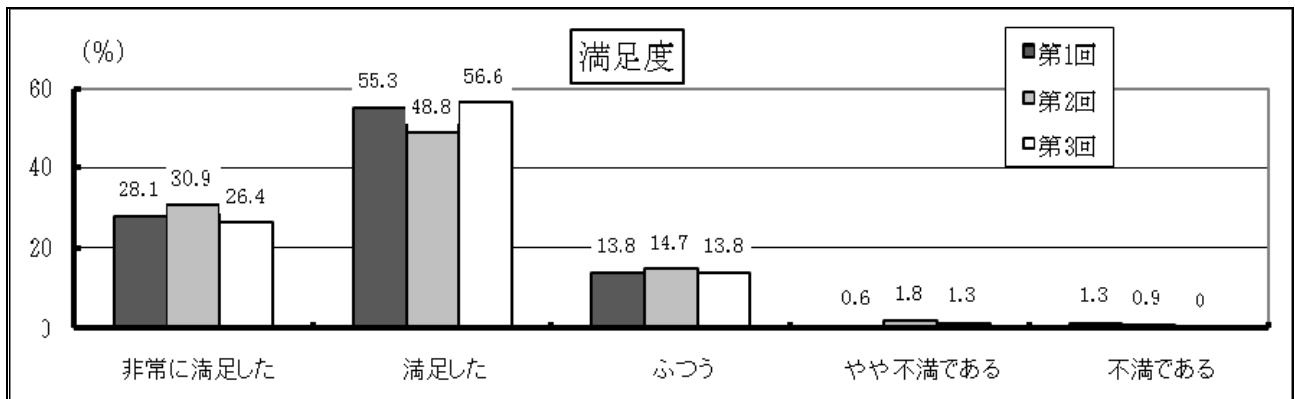
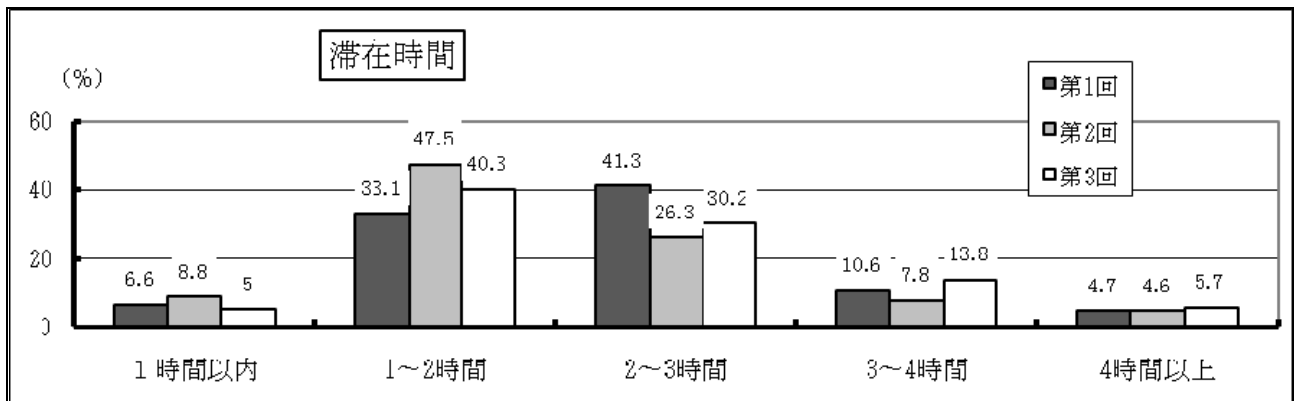
⑥来館者

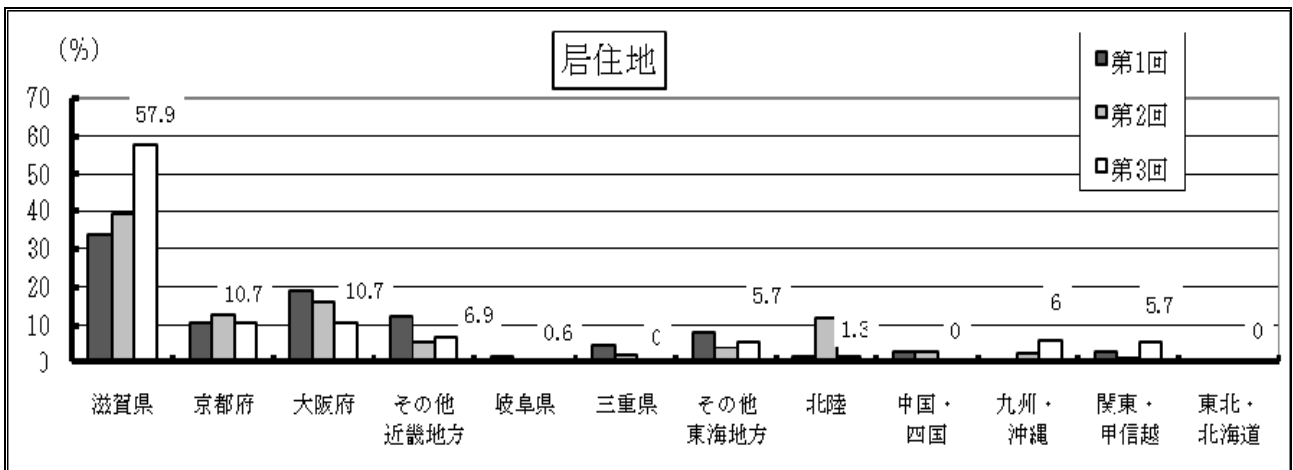
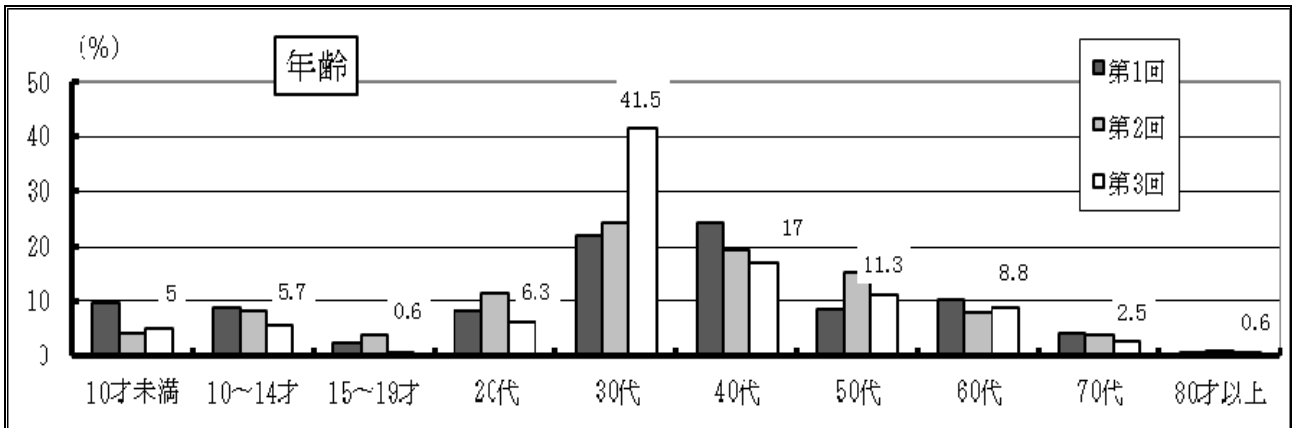
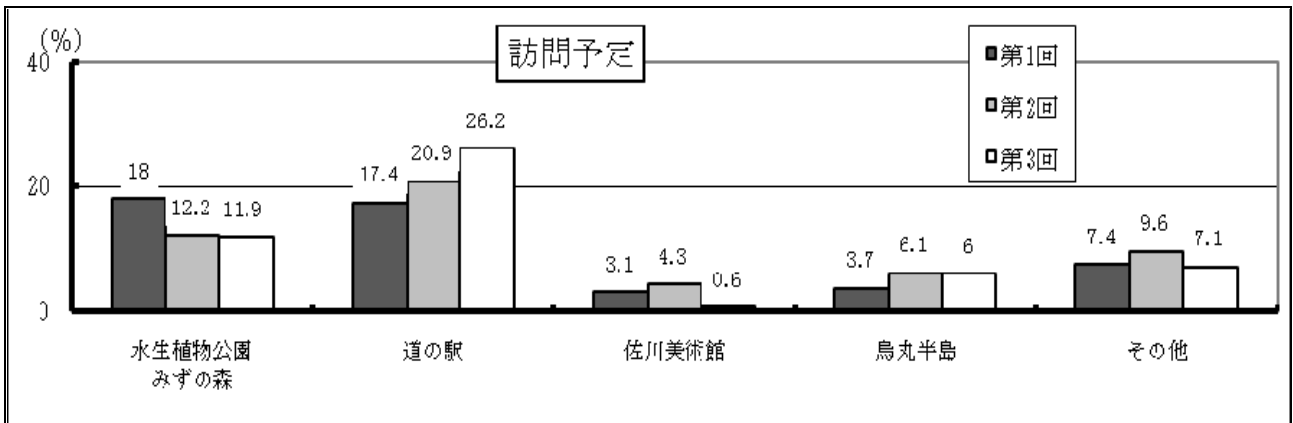
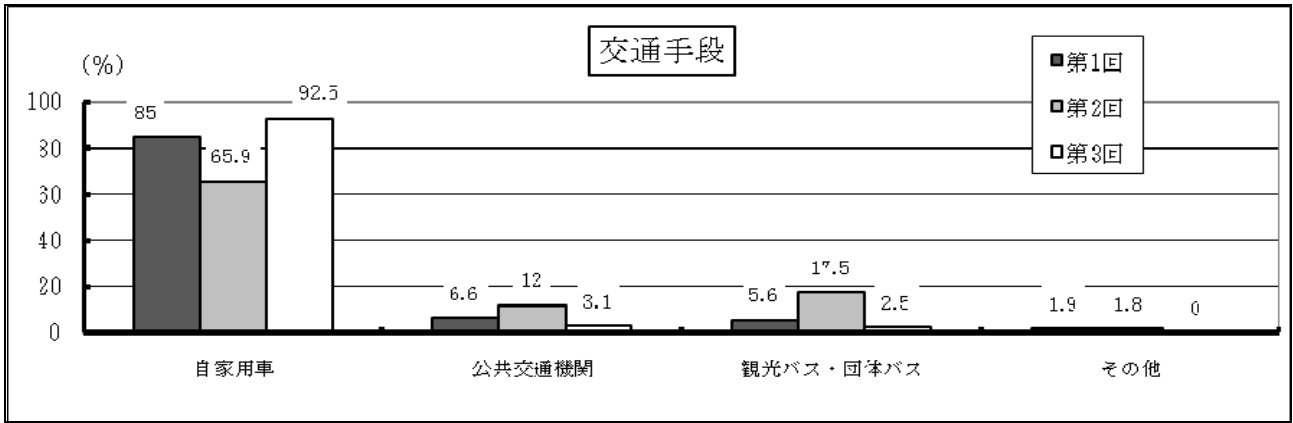
年齢別では、これまでと同様、30～40歳代が来館者の中心となっている。同行者も年平均70%以上が家族となっており、家族・親子で何かを学びに来館する方が多いことを物語っている。来館者の居住地をみると、滋賀県内在住の方の比率は2008年3月が19.1%であったのに対し、2009年3月は57.9%と3倍以上も増加した。これは3月はじめに湖南地域に全戸配布したチラシの効果があったものと推定される。

（数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの）



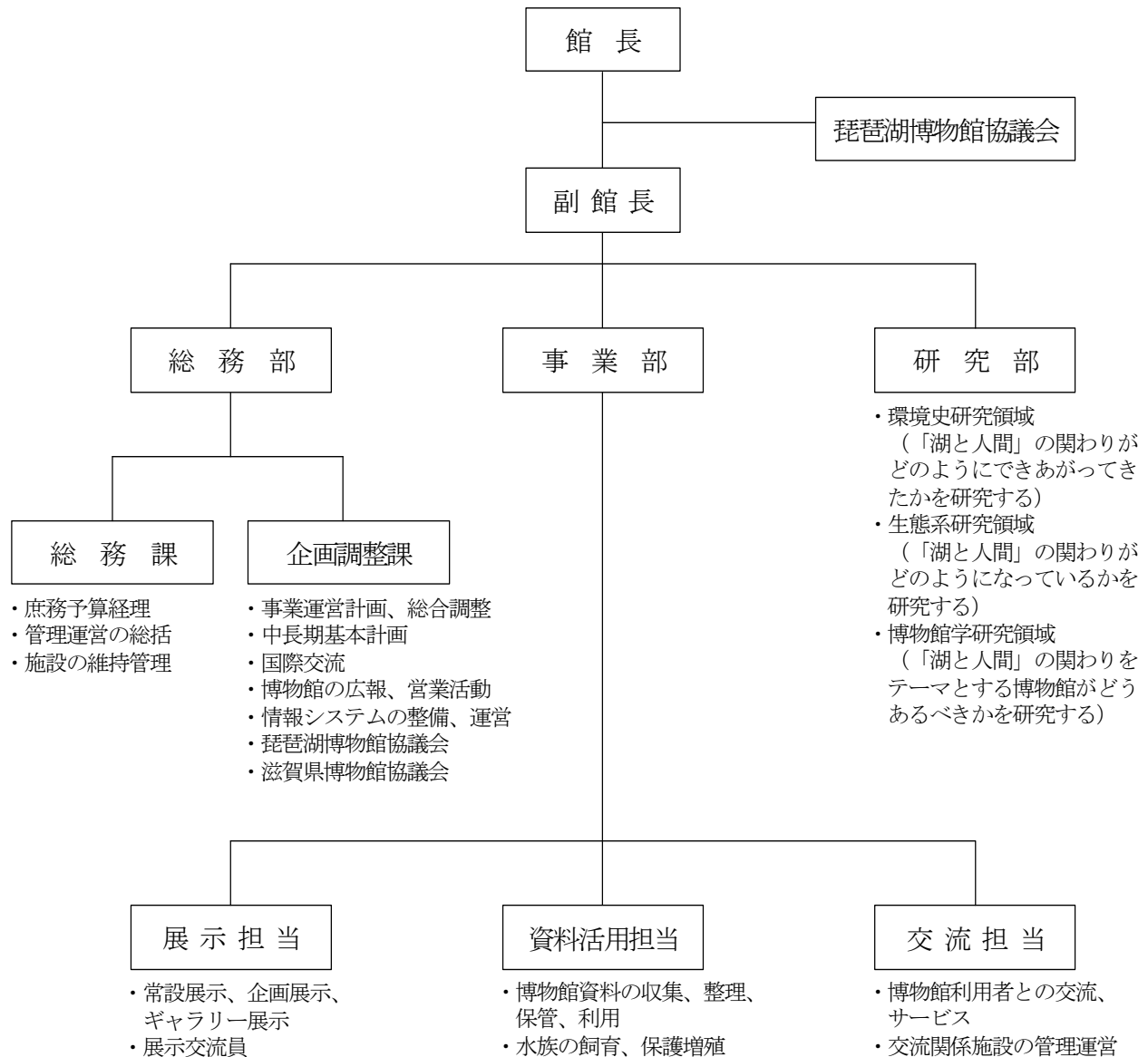






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成 (2009年4月1日現在)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	11	28	2	42	14	56

(2) 職員

(2009年4月1日現在)

- 館長 川那部 浩哉
- 副館長 阪口 榮
- 上席総括学芸員 中島 経夫
- 上席総括学芸員 前畑 政善
- 上席総括学芸員 用田 政晴

総務部

○部長 阪口 榮

◇ 総務課

- 課長 楠 重康
- 課長補佐(兼) 小島 俊彦
- 副主幹 中島 知子
- 同 井上 雅勝
- 同 高岡 日幸司
- 主査 細矢 智美
- 主査 山元 恵子

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 八尋 克郎
- 課長補佐 小島 俊彦
- (兼) 山川 千代美
- (兼) 里口 保文
- (兼) 楠岡 泰
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 大塚 泰介

事業部

○部長(兼) 高橋 啓一

◇ 展示担当

- G.L.(兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 松田 征也
- (兼) 牧野 厚史
- (兼) 白井 学
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 橋本 道範
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス
- (兼) 磯田 能年

◇ 交流担当

- G.L.(兼) 桑原 雅之
- 主査(併任) 大依 久人
- 主任主事(併任) 飯住 達也
- (兼) 碓 登志之
- (兼) 西村 知記
- (兼) 宮本 真二
- (兼) 中藤 容子
- (兼) 楊 平

◇ 資料活用担当

- G.L.(兼) 亀田佳代子
- (兼) マーク・ジョセフ・グライガー
- (兼) 秋山 廣光
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 榭永 一宏
- (兼) 老 文子

研究部

○部長(兼) 用田 政晴

◇ 環境史研究担当

- G.L. 総括学芸員 高橋 啓一
- 専門学芸員 山川 千代美
- 専門学芸員 里口 保文
- 主任学芸員 橋本 道範
- 同 宮本 真二
- 学芸員 老 文子

◇ 博物館学研究担当

- G.L. 専門学芸員 秋山 廣光
- 主任学芸員 戸田 孝
- 同 楠岡 泰
- 同 芦谷美奈子
- 同 中藤 容子
- (兼) 大依 久人
- (兼) 飯住 達也

◇ 生態系研究担当

- G.L. 総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー
- 専門学芸員 松田 征也
- 同 桑原 雅之
- 同 八尋 克郎
- 同 亀田佳代子
- 同 牧野 厚史
- 同 芳賀 裕樹
- 主任主査(兼) 碓 登志之
- 主査(兼) 白井 学
- 主査(兼) 西村 知記
- 主任学芸員 草加 伸吾
- 同 中井 克樹
- 同 大塚 泰介
- 同 榭永 一宏
- 同 ロビン・ジェームス・スミス
- 主任技師 磯田 能年
- 学芸技師 楊 平

注) G.L. はグループリーダー、S.G.L. はサブグループリーダーを示す

嘱託員・臨時的任用職員

小菅由有子	館長秘書	齋藤 慶一	歴史民俗資料整理
樋口 文子	同	辻川 智代	同
山田 陽子	ディスカバリールーム運営	上田 康之	実習補助・団体利用受付
藤岡 千裕	同	野間 孝男	屋外展示運営
福森 弘二	広報・集客	長澤 京子	交流事業(～2009.5)
木田 幹夫	展示物の製作・維持補修	上西 智之	同 (2009.6～)
中園 健治	微小生物標本整理(～2009.7)	夏原 浩子	図書資料整理
井狩 知子	同 (2009.8～)	今榮 誓子	交流事業(2010.1～)
高橋 和征	昆虫資料標本整理		

特別研究員

天野 一葉	植田 文雄	大西 拓	北村 美香	黒岩 啓子	鈴木 隆仁	鈴木 誉士	中井 大介
中尾 博行	中野 正俊	布谷 知夫	野嶋 宏二	水野 敏明			

フィールドレポーター・はしかけ登録者(掲載承諾者のみ)

◇フィールドレポーター

村上 靖昭	平井 政一	森 擴之	高田 正一	津田 國史	多胡 好武	古谷 善彦	齋藤 克彦
有田 重彦	山本 篤	栢島 昭紘、	山崎 千晶	水戸 基博	水戸 涼介	水戸 涼乃	井野 勝行
渡辺 克彦	渡辺 秀美	北川 尚弘	阪口 進	中村 公一	田村健太郎	桑村 邦彦	田村 雅裕
勝見 政之	松原 孝治	片岡 庄一	小林 隆夫	山川 栄樹	山川 美和	山川 侑夏	山川 茜
山川佳那子	前田 雅子	杉江ミサ子	山根 晶子	白井 幸子	新井 昭雅	杉本 優真	杉本 康子
宮戸 勝直	片桐 悦子	桐江 利雄	谷村 啓子	柴田恵里花	橋本 利衛	奥村 恵子	西村 忠雄
田原傳三郎	松浦すみ江	内堀甚一郎	松井 義男	端 久雄	谷川 弘	森 淳	筈井美智子
乾 明美							

◇はしかけ

村上 靖昭	手良村知央	手良村知功	手良村昭子	宇尾 数行	中尾 博行	高田 昌彦	水戸 基博
水戸 涼介	水戸 涼乃	鈴木 規慈	田中 雅也	田中 治男	大野 貞雄	横田 彰子	竹内 朝之
川南 仁	北川 幸一	岡田 文夫	笹井まち子	安井加奈恵	前川 英喜	金山 雅幸	井手 忍
井手 勝紀	片山 慈敏	廣田 昌昭	西村 峻	西村 悠	西村亜都美	西村 寿士	三村 鎮雄
橋本 昭也	福田 尚人	行本 宏子	和田 至博	板倉 孝史	堀 英輔	穴蔵 雅彦	田村 雅裕
柴田 利彦	原田 優美	竹内 正吾	川田 裕元	河田 航路	服部 彩乃	服部 隆義	桑原 昌弘
藤田 成子	吉井 隆	吉野千栄子	飯田 俊宏	前田 博美	宮本 直興	桑垣 瑞	柳原 徳子
森 擴之	日影 一正	竹谷 満弘	上田 修三	新玉 拓也	肥土マサ子	高田 登	一木 彰
多胡 好武	松本 勉	山本 恭一	芝 浩市	山川 侑夏	山川 美和	山川 栄樹	松原 孝治
松原 正子	齋藤 克彦	石橋 昂大	石橋 要一	石橋 英洋	堀井 大輔	木下多津江	辻 喜久子
下房地 潤	下房地 隆	佐藤 義信	角田 典久	栗津 愛子	栗津 義	松田 道一	米田 秀之
永野麻也子	菅原 和博	若林 裕子	人見 竜樹	人見 和代	人見 幸恵	山中 裕子	小澤 菜月
小澤 桂介	小澤 郁乃	大橋 正敏	片岡 庄一	田邊 穰	嶋村のぞみ	小坂 育子	八尋 由佳
上原由喜美	大崎 淳子	畠山 寿枝	中山 法子	久保 明彦	松田 敏男	松田 允利	玉藤 典一
青山 喜博	村上五十三	瀬尾 好英	谷村 章雄	武田 広志	今井 洋	小野 悠斗	笹生 正則

久保 玲子	長澤 京子	甲斐 朋子	富岡 親憲	堀井 大輔	所 邦彦	石井 正臣	山本 篤
北村 美香	佐々木信幸	佐々木則子	佐々木満保	佐々木幹朗	木村 絵美	森永紗江子	加藤 拓
角藤 将翔	今枝 直樹	齊藤 真琴	齊藤眞由美	大橋 洋	國分 政子	藤原 勇	鈴木 道弘
桂 雅之	若狭 喜弘	石川 雅量	津田久美子	田村 隆一	平尾 武	小原 寿子	西崎嘉代子
中田 春美	吉野 彰一	別所 宏二	別所かおる	芦田 弘美	後藤 真吾	高田 正一	矢原 功
野村 昭夫	長濱 脩	本田 英樹	倉田 英恵	倉田 忠彦	中村 聡一	佐瀬 章男	西村 和真
西村 優真	西村 真樹	西村 美香	北側 忠次	星野 賢史	星野 英史	香月 利明	片山 康夫
武田 繁	前田 雅子	沼田 晋	門間 正憲	中島美智代	清水 華子	後藤 和弥	日田 琥珀
日田 みか	浮田日出男	秋山 茂也	原島 和雄	田中 俊雄	金子弥枝子	朝隈 征行	朝隈 洋子
辻川 智代	鈴木 直子	南 和美	立石 文代	富田久仁枝	西川 周	西川 美喜	角尾千寿子
大谷 敏子	松浦 孝訓	肥山 陽子	広谷ちひろ	廣瀬 範香	鴨田真依子	中西 寛子	杉山 晃規
内藤 健太	小林 隆夫	竹元 冴矢	池田 吉政	宮田真美子	中園 健治	大富 信一	中村 公一
佐橋 保司	木原 靖郎	石井 千津	杉本 昌隆	宮本 哲覚	石田 未基	五月女賢司	西村 義隆
南川純一郎	南川 翔哉	黒川 薫	奥西 幸司	川瀬 成吾	渡邊 一郎	渡邊 康子	瀬川也寸子
遠藤 吉三	藤野美由紀	藤野あぐり	藤野 未音	中野 光議	木村 美枝	西林 晴美	矢野 祥誉
谷口 雅之	川口 健一	澤田 一弥	山崎 千晶				

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2009年度入館者数)

1) 総入館者数

期間：2009年（平成21年）4月1日～2010年（平成22年）3月31日

合計：388,040人

開館日数：304日

一日平均：1,276人

月平均：32,337人

入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	43,677	9,526	53,203	13.7
小学生・中学生	45,627	59,753	105,380	27.2
高校生・大学生	6,109	8,063	14,172	3.7
一般	169,184	46,101	215,285	55.5
合計	264,597	123,443	388,040	100

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)									総計(人)	1日当たり平均(人)
		一般	高大学生	小中学生(企画展)	有料計	65歳以上	障害者	サンデー家族ふれあい	体験学習	休館日	学校行事	小中学生(常設展)	その他	無料計		
4	26	10,793	2,517	0	13,310	453	575	751	1	0	45	6,450	5,190	13,465	26,775	1,030
5	23	17,287	1,257	0	18,544	529	1,037	908	4	310	712	9,967	7,186	20,653	39,197	1,704
6	25	11,048	711	0	11,759	597	1,198	910	0	0	302	8,326	4,525	15,858	27,617	1,105
7	29	22,656	1,046	2,461	26,163	863	1,410	849	0	0	264	8,525	9,653	21,564	47,727	1,646
8	30	33,883	1,908	6,698	42,489	872	1,223	522	3	0	390	8,746	10,753	22,509	64,998	2,167
9	24	18,961	1,559	2,159	22,679	477	825	500	0	0	1,379	6,028	5,169	14,378	37,057	1,544
10	28	12,743	621	4,762	18,126	456	995	392	1	0	5,871	7,639	4,784	20,138	38,264	1,367
11	26	10,032	879	2,606	13,517	383	494	0	0	0	2,110	3,771	9,467	16,225	29,742	1,144
12	20	3,816	477	0	4,293	218	404	255	2	0	120	3,617	3,161	7,777	12,070	604
2010.1	22	8,391	360	0	8,751	323	412	593	0	0	94	4,179	4,885	10,486	19,237	874
2	24	7,564	431	0	7,995	301	503	692	0	0	156	3,442	4,563	9,657	17,652	736
3	27	11,788	969	0	12,757	534	920	1,202	0	0	66	4,495	7,730	14,947	27,704	1,026
計	304	168,962	12,735	18,686	200,383	6,006	9,996	7,574	11	310	11,509	75,185	77,066	187,657	388,040	1,276

2) 学校等入館者数

年月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
4	全体	22	2,219	10	1,383	8	1,863	1	26	6	530
	県内	0	0	1	68	1	34	1	26	2	100
5	全体	26	2,539	23	2,989	5	1,274	4	70	2	57
	県内	3	220	2	22	2	673	2	27	0	0
6	全体	40	3,738	22	3,619	3	70	4	96	3	327
	県内	9	867	4	547	1	34	2	22	1	236
7	全体	21	1,789	22	3,243	13	419	7	175	5	175
	県内	0	0	3	335	10	227	2	23	1	21
8	全体	0	0	1	16	3	85	1	68	5	185
	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	全体	45	3,702	12	1,163	5	255	5	99	7	481
	県内	11	799	4	235	3	123	3	53	0	0
10	全体	194	15,890	15	2,020	6	330	6	196	0	0
	県内	79	5,498	4	523	1	123	0	0	0	0
11	全体	66	5,078	18	2,527	3	124	8	179	5	166
	県内	33	2,370	4	245	1	31	6	113	1	11
12	全体	28	2,632	5	854	3	33	0	0	4	143
	県内	11	1,004	1	173	2	15	0	0	0	0
2010.1	全体	22	1,824	1	173	2	48	1	5	0	0
	県内	13	918	1	173	1	44	0	0	0	0
2	全体	20	1,527	2	50	6	190	6	128	1	10
	県内	9	428	1	27	3	86	4	79	0	0
3	全体	6	288	3	135	3	196	3	51	0	0
	県内	3	168	1	83	1	42	0	0	0	0
合計	全体	490	41,226	134	18,172	60	4,887	46	1,093	38	2,074
	県内	171	12,272	26	2,431	26	1,432	20	343	5	368

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
4	9,240	4,969	12,566	26,775
5	22,342	6,084	10,771	39,197
6	9,227	5,055	13,335	27,617
7	19,611	6,825	21,291	47,727
8	17,757	12,899	34,342	64,998
9	20,370	6,176	10,511	37,057
10	9,261	4,787	24,216	38,264
11	11,839	5,268	12,635	29,742
12	4,195	2,449	5,426	12,070
2010.1	10,003	4,064	5,170	19,237
2	8,649	3,947	5,056	17,652
3	11,810	4,996	10,898	27,704
計	154,304	67,519	166,217	388,040
構成割合	38.0%	18.8%	43.2%	100.0%

(2) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
4	2	琵琶湖博物館で保管の「東寺文書」を重文指定	読売新聞	
	4	[西の湖の今]<3> 近畿最大のヨシ帯 “揺りかご”の役割も 楠岡泰主任学芸員のコメント / [湖岸より]<1> 思い出ひとつ旅立ちの時 用田政晴研究部長	中日新聞	
	8	湖国の化石を訪ねる 21 誕生したころの琵琶湖 高橋啓一総括学芸員	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)	
	11	[湖岸より]<2> 多種多様な学芸員の仕事 高橋啓一事業部長	中日新聞	
	15	湖国の化石を訪ねる 22 日本で進化アケボノゾウ 高橋啓一総括学芸員 / 琵琶湖博物館で各分野第一人者の講演会を毎月開催	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)	
	18	[湖岸より]<3> 余呉湖にも、うまい魚 前畑政善上席総括学芸員	中日新聞	
	19	琵琶湖博物館特別講演会スタート 尾池前京大総長が震災への備え語る	京都新聞	
	19	「地震の確率比較的高い」 尾池京大名誉教授琵琶湖博物館で講演	読売新聞	
	22	湖国の化石を訪ねる 23 マンモスと同じグループ 高橋啓一総括学芸員	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)	
	23	「ぼくの・わたしのどこでも博物館」琵琶湖博物館で小学生対象のワークショップ	毎日新聞	
	24	琵琶湖博物館で、江戸時代のおもちゃ「ズボンボ楽しもう」を開催 / ニゴロブナ水田で急成長 琵琶湖博物館と県内の魚類研究者が研究成果を発表	京都新聞	
	25	[環境]ニゴロブナ生育に水田が重要、琵琶湖博物館が調査	朝日新聞	
	25	[湖岸より]<4> 琵琶湖にかかる虹に微笑 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞	
	26	姉川地震に防災学ぼう 発生から100年琵琶博で企画展	京都新聞	
	29	地震を知って震災に備える 琵琶湖博物館で京大前学長尾池氏特別講演	毎日新聞	
	29	ニゴロブナ稚魚の成長 ヨシ帯より水田で早い、県立琵琶湖博物館など実験	産経新聞	
	29	湖国の化石を訪ねる 24 龍骨と呼ばれたゾウ 高橋啓一総括学芸員	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)	
	5	1	ニゴロブナの稚魚 水田育ち成長早く、琵琶湖博物館調査	中日新聞
		2	[湖岸より]<5> 実物資料は雄弁に語る 用田政晴研究部長	中日新聞
		4	姉川地震から学ぼう、琵琶湖博物館で企画展	産経新聞
		9	[マンガを語ろう]「MASTER キートン」 すべての経験が生きる人に 芦谷美奈子主任学芸員	毎日新聞
		9	[ひと交差点]ピワマスの危機を警鐘 桑原雅之専門学芸員	朝日新聞
		9	[湖岸より]<6> 視点を変え、視野を広げる 高橋啓一事業部長	中日新聞
		10	100年前の姉川地震に学ぼう 琵琶湖博物館パネル展示や防災グッズ	読売新聞
		10	「姉川地震」振り返る 琵琶湖博物館資料展 100年前大きな被害	中日新聞
		13	植物プランクトンテーマに来月講演 琵琶湖博物館特別講演会	京都新聞
		14	ひょっとして・主？ 110センチ ピワコオオナマズ 磯田能年主査コメント	中日新聞
		15	[遊・You・友]展示「百年前の大震災 姉川地震に学ぶその備え」開催案内	朝日新聞
		16	[湖岸より]<7> 環境に「優しい」でいいのか 前畑政善上席総括学芸員	中日新聞
19		水田で育てれば すくすく ニゴロブナ 初期の成長早く 一定期間過ぎると鈍化 県立琵琶湖博物館総合研究成果から	毎日新聞	
20		新型インフルエンザ 修学旅行延期 22 小学校 琵琶湖博物館もキャンセル・延期相次ぐ	京都新聞	
20		湖国の化石を訪ねる 25 ツノ先が三つ 高橋啓一総括学芸員	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)	
21		暮らしに影響ジワリ 新型インフル県内初確認 県立近美や琵琶博休館	京都新聞	
22		新型インフルエンザ 休館・催し中止相次ぐ 琵琶湖博物館など15の県立施設	朝日新聞	
22		[湖のこえ]暮らしと環境 第3部植物編 水草異変 芳賀裕樹専門学芸員コメント / 医療体制強化へ 補正予算1億500万円提案へ 多くの公共施設休館 琵琶湖博物館も	京都新聞	
23		湖国観光急ブレーキ 新型インフル 関係者もため息 琵琶湖博物館も休館	京都新聞	
23		[湖岸より]<8> 鳥研究に“親バカ”発揮 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞	
24		[湖のこえ]暮らしと環境 第3部植物編 試行錯誤 芦谷美奈子主任学芸員コメント	京都新聞	
25		[湖のこえ]暮らしと環境 第3部植物編 新たな関係 牧野厚史専門学芸員コメント	京都新聞	
27		キャンパス活気回復 滋賀で授業再開 県立琵琶湖博物館も開館	京都新聞	
29		びわ湖放送「ときめき滋賀 びわ湖の不思議、魅力たっぷり紹介」 琵琶湖博物館生中継	京都新聞	
30		古い道標文化財保存を 琵琶博登録市民ら県内259基調査	京都新聞	
30		[湖岸より]<9> 師の研究姿勢に感銘 用田政晴研究部長	中日新聞	
31		滋賀プラス1 6月号みんなの情報ひろば 県立琵琶湖博物館特別講演会	朝日・毎日・中日・読売 京都・産経新聞	
6		3	湖沼の環境保全 世界の活動紹介 琵琶湖博パネル展	京都新聞
		6	[環境]テントウムシ模様調査 分布状況他県と比較 琵琶湖博物館	朝日新聞
	6	[湖岸より]<10> 耳の穴はリサイクル!? 高橋啓一事業部長	中日新聞	
	7	ときめき訪問 滋賀独特の民俗文化の世界へ 琵琶湖博物館学芸員 老文子	滋賀民報	
	10	テントウムシ生息調査 県立琵琶湖博物館	毎日新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
6	13	[湖岸より]<11> 水田は魚のゆりかご 前畑政善 前席総括学芸員	中日新聞	
	13	[ひと交差点]身近な生物の生態追う 琵琶湖博物館フィールドレポーター 森擴之さん	朝日新聞	
	13	テントウムシ分布調査 琵琶湖博物館 初の一斉協力呼びかけ	読売新聞	
	14	テントウムシ調査に参加を 琵琶湖博物館募る	京都新聞	
	18	ナウマンの足跡と確定 幕別町忠類 滋賀県立琵琶湖博物館高橋啓一総括学芸員コメント	十勝毎日新聞	
	19	見て昭和30年代 彦根の情景 写真家故大橋氏の琵琶湖博物館収蔵作品31点	朝日新聞	
	20	[湖岸より]<12> 用意周到 研究者の鉄則 亀田佳代子専門学芸員 / 身近なテントウムシ採集 県立琵琶湖博物館が初の全県分布調査 八尋克郎専門学芸員コメント / 懐かしい湖国の情景 故大橋さんの昭和写真展 県立琵琶湖博物館収蔵	中日新聞	
	20	失われし風景懐かしの昭和 琵琶湖博物館写真パネル 故大橋宇三郎さんの作品	毎日新聞	
	21	「琵琶湖に誇り持って」中西・京大名誉教授が琵琶湖博物館で特別講演 / 昭和の彦根懐かしく 30年代の姿紹介 県立琵琶湖博物館で公開した192点 / 綿復活へ夢つむぐ 文化体験や商品も 近江の機織り文化を研究する琵琶湖博物館学芸員ら	京都新聞	
	22	ギンブナ、メダカなど 水田生物知って 野洲で親子ら「魚のゆりかご水田交流会」前畑政善 前席総括学芸員が解説	読売新聞	
	22	“ゆりかご”の大切さ学ぶ 野洲の水田で生き物観察会 琵琶湖博物館の学芸員が魚の種類を紹介	京都新聞	
	23	魚の住む水田取り戻せ 野洲で観察会 親子230人が前畑政善 前席総括学芸員の話に耳を傾けた	朝日新聞	
	24	ホテルはどこで見られるの？ 米原・三島池などでゲンジボタルが乱舞 琵琶湖博物館コメント	毎日新聞	
	24	中世の営み「東寺文書」で紹介 琵琶湖博物館で「移ろう大地を把握する」展	京都新聞	
	25	このテントウムシの種類は？ 県立琵琶湖博物館が調査 八尋克郎専門学芸員コメント	産経新聞	
	27	[湖岸より]<13> 今も生きる帆布の技 用田政晴 研究部長	中日新聞	
	29	イチモンジタナゴ琵琶湖博物館で展示	読売新聞	
	30	田んぼは生き物の宝庫 実感 前畑政善 前席総括学芸員から話を聞きメダカやドジョウ捕まえ観察	毎日新聞	
	30	[みんなおいでよ]琵琶湖博物館夏休み自由研究講座開催案内	読売新聞 (しが県民情報)	
	7	1	「生き物がいっぱい」と驚く 琵琶湖博物館の不耕起の田んぼで生き物観察 楠岡泰主任学芸員が解説 / 夏休み自由研究講座開催案内	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
		2	琵琶博がやってきた 青柳小に学校サテライト博物館	京都新聞
		4	[湖岸より]<14> 非常識な古生物学の世界 高橋啓一 事業部長	中日新聞
		5	イチモンジタナゴ稚魚遊泳 県立琵琶湖博物館	京都新聞
		5	夏色トンボ羽化ピーク 琵琶湖博物館コメント	中日新聞
		5	[私の交遊録]淡水貝類の本を自費出版中学校の熱血教師 松田征也 専門学芸員	滋賀民報社
		8	県立琵琶湖博物館 青柳小にサテライト館オープン	毎日新聞
		8	琵琶湖博物館特別講演会開催案内	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
		9	今年繁殖の希少淡水魚 イチモンジタナゴ展示 琵琶湖博物館	中日新聞
		9	「骨」テーマに企画展 滋賀県立琵琶湖博物館	産経新聞
		10	「エスカルゴ」団地に大量発生 中井克樹主任学芸員が鑑定	朝日新聞
11		[環境]洪水多発移ろう水辺 琵琶湖博物館橋道範主任学芸員中世古文書読み解く	朝日新聞	
11		エスカルゴ大量発生 門真の団地駆除本腰 中井克樹主任学芸員コメント	京都新聞	
11		[湖岸より]<15> 外来生物に思うこと 前畑政善 前席総括学芸員 / エスカルゴ大量発生 琵琶湖博物館が確認 中井克樹主任学芸員コメント	中日新聞	
11		[窓]エスカルゴ大量発生 琵琶湖博物館などの調査で分かる	日本経済新聞	
11		大阪府下の団地で「エスカルゴ」発見 琵琶湖博物館等の調査で	The Asahi Shinbun	
12		琵琶博体験室新築 魚分布調査パネル展示	京都新聞	
14		高島市立青柳小 教室博物館見て触って 琵琶湖博物館事業「学校サテライト博物館」開館 飯住達也主任主事コメント	読売新聞 (しが県民情報)	
15		県立琵琶湖博物館「ふれあい体験室」 魚の分布パネルで紹介	中日新聞	
16		琵琶湖博物館特別講演会開催案内	滋賀報知新聞	
17		企画展「骨の記憶」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)	
18		骨でたどる生物の進化 魚類からヒトまで 今日から琵琶湖博物館で企画展「骨の記憶」開催	京都新聞	
18	[湖岸より]<16> 野生生物とは適度な距離を 亀田佳代子 専門学芸員	中日新聞		
19	イタセンパラ復活を 保全を考えるシンポジウムが琵琶湖博物館で開催	京都新聞		
19	“生きた化石”に学ぶ自然の理 独自の生物研究30年 マーク・J・グライガー 総括学芸員が論文に引用	天理時報		
22	琵琶湖博物館催し物案内 (企画展示「骨の記憶」)	朝日新聞		

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	23	湖国の化石を訪ねる 34 サイクロカリアの果実 山川千代美専門学芸員 / 「野外での地層の見方講座」開催案内 / 「ちびツブリのちっちゃな大冒険2」千人招いて琵琶湖博物館で記念の上映会	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	24	[湖のこえ]暮らしと環境 第4部フナ編① 人と魚 中島経夫 席総括学芸員コメント / 魚類からヒトへ骨に見る進化の記憶 琵琶湖博物館で開催中	京都新聞
	25	[湖岸より]17> 時代を超えた共通項 用田政晴 研究部長	中日新聞
	25	[湖のこえ]暮らしと環境 第4部フナ編② 外来魚はいま 中井克樹 主任学芸員コメント	京都新聞
	26	滋賀プラス1 8月号みんなの情報ひろば 県立琵琶湖博物館特別講演会	朝日新聞
	26	[湖のこえ]暮らしと環境 第4部フナ編③ 水位操作 『ギンブナ』写真資料提供	京都新聞
	27	[ニュース走馬灯]1996年10月20日 県立琵琶湖博物館が開館 趣向凝らした展示、人気に 用田政晴 席総括学芸員コメント / [湖のこえ]暮らしと環境 第4部フナ編④ 内湖再び 『ゲンゴロウブナ』写真資料提供	京都新聞
	28	[湖のこえ]暮らしと環境 第4部フナ編⑤ 田んぼの力 前畑政善 席総括学芸員コメント	京都新聞
	28	琵琶湖博物館観察会「野外での地層の見方講座」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
	29	ナニワエスカルゴ厄介 えぐ味強く 住民「まずい」 寄生虫の恐れも 中井克樹 主任学芸員コメント	朝日新聞
	29	「水と生命」テーマ ユースフォーラム始まる 国際ソロブチミスト参加者が琵琶湖博物館を見学	毎日新聞
	29	湖国の化石を訪ねる 35 寒冷気候の指標 山川千代美 専門学芸員	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	30	慎重に虫ピン カミキリムシの標本作り 琵琶湖博物館で自由研究講座開催	毎日新聞
	31	フィッシュクラフト展II 「木から生まれた渓魚たち」が琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
	31	琵琶湖博物館など湖国の博物館がつどい環境と科学のフェスティバル開催	京都新聞
	31	県立琵琶湖博物館など6館と1グループが彦根で「博物館による環境と科学のフェスティバル」を開催	読売新聞 (しが県民情報)
	8	1	[湖岸より]18> 太古の命はぐくんだ湖 高橋啓一 事業部長
3		希少なスジシマドジョウ 琵琶湖博物館ですすから幼魚展示	読売新聞
3		親子で自然科学体験 県立琵琶湖博物館など県内10博物館が彦根で「環境と科学のフェスティバル」を開催	京都新聞
3		彦根で「環境と科学のフェスティバル」開催 琵琶湖博物館など体験ブースを出展	中日新聞
4		溪流魚木彫り 実物そっくり 琵琶湖博物館でフィッシュクラフト展開催	京都新聞
5		湖国の化石を訪ねる 36 シリプトビシ 山川千代美 専門学芸員 / [展示]フィッシュクラフト展II 「木から生まれた渓魚たち」琵琶湖博物館で開催中	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
6		琵琶湖博物館特別講演会「近江の森林を考える」の案内	京都新聞
8		[湖岸より]19> 道路にいた小鳥のヒナ 前畑政善 席総括学芸員	中日新聞
11		琵琶湖周航外輪船「ミシガン」で琵琶湖博物館提供の「ピワコオオナマズ」展示	中日新聞
12		琵琶湖博物館で開催される「鉱物・化石展(仮)」に向けて「湖国もぐらの会」が子どもたちに展示参加を呼びかけ	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
15		[湖岸より]20> すごい生き物の季節感 亀田佳代子 専門学芸員	中日新聞
15		市民研究家が「懸け橋」 琵琶湖博物館はしかげさん	読売新聞
16		はい 応答室 「メダカ団地」の飼育方法を教えて 琵琶湖博物館松田征也 専門学芸員の話	京都新聞
16		この夏の博物館 「骨の記憶」開催中の琵琶湖博物館紹介	滋賀民報
19		くらし塾 夏休み終盤!自由研究は?学芸員に質問しよう 琵琶湖博物館亀田佳代子 専門学芸員の話	京都新聞
19		琵琶湖博物館催し物案内(企画展示「骨の記憶」)	朝日新聞
21		びわ湖クリーンあなたも参加を 琵琶湖博物館を見学後湖岸清掃	京都新聞
22		[遊・You・友]特別講演会「近江の森林を考える」開催案内	朝日新聞
22		[湖岸より]21> 住職が船奉行を務めた寺 用田政晴 研究部長	中日新聞
25		琵琶湖の絶滅危惧種 スジシマドジョウ 琵琶湖博物館で展示	産経新聞
26		美しい溪流魚木彫りで再現 県立琵琶湖博物館で展示会	中日新聞
28		[遊・You・友]水族企画展示「バックボーンができるまで!!骨で見る魚の進化」開催案内	朝日新聞
8		30	[湖岸より]22> 180万年変わらぬ環境 高橋啓一 事業部長
9	1	琵琶湖博物館 来館者700万人突破	中日新聞
	3	来館者700万人に 草津・琵琶湖博物館	産経新聞
	4	淡水生物の研究交流5年間延長 琵琶湖と中国科学院が調印	京都新聞
	4	参加しよう 琵琶湖で骨や歯を知る企画展 県立琵琶湖博物館企画展示「骨の記憶」紹介	朝日小学生新聞
	5	[湖岸より]23> 不思議な小アユの生態 前畑政善 席総括学芸員	中日新聞
	6	リゾート頓挫、鳥丸半島 公的利用で検討開始	京都新聞
	8	琵琶湖博 来館者700万人 京の家族に記念品贈る	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	8	琵琶湖博物館体験学習「光とかげで写真をとろう～水の中の植物編」開催案内 / 「鉱石・化石・岩石」大募集 展示会の出品者を募集	読売新聞 (しが県民情報)
	10	琵琶湖・淀川水系一周エコ列車参加者募る 嘉田滋賀県知事や川那部琵琶湖博物館館長らがパネル討論	京都新聞
	12	[湖岸より] <24> 大切な資料の保存 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	13	骨格標本 動き出しそう 県立琵琶湖博物館の企画展示「骨の記憶」	読売新聞
	13	外来魚の駆除に協力 JTB 西日本企画のエコツアーで県立琵琶湖博物館見学	京都新聞
	16	琵琶湖博物館催し物案内 (企画展示「骨の記憶」)	朝日新聞
	17	琵琶湖一周挑戦を「ピワイチマップ」に琵琶湖博物館 観光スポットとして紹介	京都新聞
	19	[湖岸より] <25> この夏も思う戦争の傷 用田政晴研究部長	中日新聞
	22	琵琶湖博物館 来館者 700 万人	読売新聞
	24	街角情報 草津市・県立琵琶湖博物館 「骨の記憶」展紹介 / 今週のプレゼント 県立琵琶湖博物館企画展示「骨の記憶」観覧券	毎日新聞 (オー！ミー)
	25	動物の骨っておもしろい 琵琶湖博物館の企画展示「骨の記憶」紹介	朝日小学生新聞
	26	[湖岸より] <26> 地形観察に好適な湖西 高橋啓一事業部長	中日新聞
27	[湖のこえ]暮らしと環境 第5部人物編③ 琵琶湖博物館はしかけ うおの会会長 村上靖昭さん	京都新聞	
27	滋賀プラス1 10月号みんなの情報ひろば 県立琵琶湖博物館特別講演会	朝日・毎日・中日・読売 京都・産経新聞	
28	琵琶湖博物館観察会「ピワマスの採卵現場を見学してみませんか」開催案内	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)	
10	1	琵琶湖の環境 カヌーで学ぶ 事前に琵琶湖博物館で湖魚や水源について学習	中日新聞
	3	[湖岸より] <27> 生物のにぎわい 取り戻せ 前畑政善 前総括学芸員	中日新聞
	6	琵琶湖博物館体験学習「色まんだらをつくろう」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
	10	[湖岸より] <28> 自然の変化 冷静に考えて 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	14	オヤニラミ幼魚展示 琵琶湖博物館	読売新聞
	15	台風被害の琵琶湖岸 水草集め人海戦術 琵琶湖博物館芳賀裕樹専門学芸員の話	朝日新聞
	17	[湖岸より] <29> 日本の国境と時代区分 用田政晴研究部長	中日新聞
	19	琵琶湖博物館 うみっこ通信復活 / びわっ子大使世界湖沼会議へ 琵琶湖博物館で最後の事前学習	京都新聞
	20	草津の見どころ切手セットに 琵琶湖博物館ピワコオオナマズも紹介	中日新聞
	24	[湖岸より] <30> 日本人の祖先の生活環境は 高橋啓一事業部長	中日新聞
	26	切手で草津の魅力PR 琵琶湖博物館ピワコオオナマズも紹介	産経新聞
	27	「河内風穴」の内部写真展示 琵琶湖博物館の集う・使う・創る新空間で	中日新聞
30	第1回世界湖沼会議を開催した琵琶湖博物館の国際事務専門員を訪ねて 楠岡泰主任学芸員	長江商報 (中国の新聞)	
31	[湖岸より] <31> 琵琶湖の珍味 ピワマス 前畑政善 前総括学芸員	中日新聞	
31	水質悪化深刻 中国・太湖救え 日中の共同研究に琵琶湖博物館の大塚泰介主任学芸員らが参加	京都新聞	
11	2	中国で第13回世界湖沼会議開幕 県立琵琶湖博物館の牧野厚史専門学芸員と楊平学芸技師が発表	京都新聞
	3	地場産品の魅力発信 県立琵琶湖博物館の学芸員らが参加して設立準備委発足	中日新聞
	6	県博物館協議会が草津市の琵琶湖博物館で職員研修会を開催 / 歩いて楽しむ 烏丸半島と道の駅を巡る まずは琵琶湖博物館へ	京都新聞
	7	[湖岸より] <32> 鳥の行動調査に最新技術 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	7	韓国の芸術家ら「生水の郷」や「県立琵琶湖博物館」などを見学	毎日新聞
	10	琵琶博で企画展 文献に登場する「骨」を紹介	京都新聞
	11	イチモンジタナゴってどんな魚なの？ 県立琵琶湖博物館へ見に行こう	毎日新聞
	12	県立琵琶湖博物館など県内の公共施設 天皇在位 20周年式典に合わせ無料開放	毎日新聞
	12	即位 20年県公館記帳所に多くの県民 県立琵琶湖博物館など無料開放	読売新聞
	14	[湖岸より] <33> リーダーを失い戸惑う 用田政晴研究部長	中日新聞
	18	琵琶湖博物館特別講演会開催案内	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	19	湖底からカイミジンコ新種4種 県立琵琶湖博物館のロビン・ジェームス・スミス主任学芸員が発見	読売新聞
	19	カイミジンコ新たに4種確認 県立琵琶湖博物館のロビン・J・スミス主任学芸員	毎日新聞
	19	カイミジンコ新種4種発見 県立琵琶湖博物館のロビン・J・スミス主任学芸員	産経新聞
	19	カイミジンコの新種発見 固有種の可能性も 県立琵琶湖博物館のロビン・J・スミス主任学芸員	中日新聞
19	ミジンコ新種4種発見 県立琵琶湖博物館のロビン・スミス主任学芸員/琵琶湖の考古学 本に 琵琶湖博物館 用田政晴学芸員 / 紙面から きょうの顔 用田政晴さん	京都新聞	
21	[湖岸より] <34> 理屈は不要、楽しんで 高橋啓一事業部長	中日新聞	
21	カイミジンコさらに4新種 ロビン・スミス琵琶湖博物館学芸員	朝日新聞	
25	びわ湖・まるエコ・DAY 2009 28日から県立琵琶湖博物館で開催	毎日新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	25	湖国の化石を訪ねる 49 木の幹の化石 山川千代美専門学芸員 / びわ湖・まるエコ・DAY 28 日から県立琵琶湖博物館で開催	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	27	[遊・You・友]びわ湖・まるエコ・DAY 開催案内	朝日新聞
	28	びわ湖・まるエコ・DAY 2009 県立琵琶湖博物館でエコ活動成果 13 団体が発表	読売新聞
	28	滋賀県の博物館 87 館 財政難 休館、統合も	京都新聞
	28	[湖岸より]〈35〉 洞窟の魅力は神秘さ 八尋克郎専門学芸員	中日新聞
	29	滋賀プラス1 12月号みんなの情報ひろば 新琵琶湖学専門セミナー開催案内、県立琵琶湖博物館特別講演会	朝日・毎日・中日・読売・京都・産経新聞
	29	草津市の琵琶湖博物館でびわ湖・まるエコ・DAY 開幕 環境活動子どもたち発表	京都新聞
	29	びわ湖・まるエコ・DAY 湖国の将来を絵に 県立琵琶湖博物館で	中日新聞
	30	びわ湖・まるエコ・DAY 県内の環境団体交流 県立琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
	30	大分・姫島 古代ゾウの楽園? 滋賀県立琵琶湖博物館高橋啓一総括学芸員の話	京都新聞
12	1	出かけま専科 12月 びわ湖・まるエコ・DAY 6日まで琵琶湖博物館で開催中 / 琵琶湖博物館観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」開催案内	びわこ新聞
	2	湖国の化石を訪ねる 50 コンプトニアの葉 山川千代美専門学芸員	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	3	琵琶湖博物館観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」開催案内	毎日新聞 (オー! ミー)
	5	[湖岸より]〈36〉 水鳥観察に最適な冬場 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	6	草津の琵琶湖博物館で地域再生フォーラム開催	中日新聞
	9	竹林整備活動紹介「竹との戦い!ふるさとの川をみんなで守ろう!」県立琵琶湖博物館で展示	京都新聞
	9	湖国の化石を訪ねる 51 マツボックリ 山川千代美専門学芸員 / 水鳥を観察しよう~色とりどりの冬鳥たち~開催案内	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	12	[湖岸より]〈37〉 博物館のあるべき姿 用田政晴研究部長	中日新聞
	12	水鳥の“色”に注目 塗り絵使い観察会 琵琶湖博物館で開催	産経新聞
	16	湖国の化石を訪ねる 52 化石を楽しむ 高橋啓一総括学芸員	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	19	何でもランキング 親子で楽しめる科学館 滋賀県立琵琶湖博物館第4位	日本経済新聞
	19	琵琶湖に「スッポンモドキ」 琵琶湖博物館が発表	読売新聞
	19	スッポンモドキ、琵琶湖で初確認 琵琶湖博物館が発表	産経新聞
	19	[湖岸より]〈38〉 「君が代」と「さざれ石」 高橋啓一事業部長 / スッポンモドキ 死骸発見 琵琶湖博物館が発表	中日新聞
	19	スッポンモドキ琵琶湖岸で発見 琵琶湖博物館が発表	京都新聞
	20	スッポン?いえいえ「モドキ」です 琵琶湖博物館が発表	朝日新聞
	20	景観 伝統と現在の融合を 県立琵琶湖博物館で特別講演会	読売新聞
	23	年末年始の楽しみ 琵琶湖博物館の催し・展示・特別講演会紹介	朝日新聞 (あいあいA I 滋賀)
	25	自然と共存~みんなの願い 草津「びわ湖・まるエコ・DAY2009」琵琶湖博物館で開催	読売新聞 (しが県民情報)
	26	[湖岸より]〈39〉 警戒発する“虎柄模様” 八尋克郎専門学芸員	中日新聞
1	1	水草で南湖に新水流 芳賀裕樹専門学芸員分布図提供	京都新聞
	4	虎にちなんだ昆虫 鳥の標本 54 点展示 琵琶湖博物館	読売新聞
	4	恐竜などの再現図を展示 琵琶湖博物館	中日新聞
	4	琵琶湖博物館 最新研究紹介連続講座開く	京都新聞
	5	名前の由来も紹介 琵琶湖博物館「トラ・虎・タイガー」展	中日新聞
	6	琵琶博「はしかけ」制度 10 年 研究で地域の魅力発掘	京都新聞
	9	[湖岸より]〈40〉 専門知識と現実の世界 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	10	化石を基に動物復元画、模型 県立琵琶湖博物館で 36 点	読売新聞
	10	古代生物に興味津々 県立琵琶湖博物館で「復元展」	京都新聞
	11	月曜 考 生態系から多様性保全 滋賀県立琵琶湖博物館長 川那部浩哉さん	北海道新聞
	12	寅づくし 資料 63 点 県立琵琶湖博物館	産経新聞
	12	いきもの地球会議 中部の絶滅危惧種と保護活動 滋賀県はニッポンバラタナゴ、中国産交雑し純系絶つ 『ニッポンバラタナゴ』写真資料提供	中日新聞
	15	滋賀県立博物館で飼育されてきた希少魚の子孫が南濃町へ里帰り	中日新聞
	15	新春よし笛コンサート 琵琶湖博物館ホールで 開催案内	京都新聞
	15	県立琵琶湖博物館はしかけ「ほねほねくらぶ」 遊び心いっぱい標本づくり	読売新聞 (しが県民情報)
	16	[湖岸より]〈41〉 学芸員の理想と博物館の現実 用田政晴研究部長	中日新聞
	19	県立琵琶湖博物館 新春よし笛コンサート開催の紹介	読売新聞 (しが県民情報)
	21	県立琵琶湖博物館自主活動団体 寒冷地のケイ藻発見	中日新聞
	21	県立琵琶湖博物館はしかけ「たんさいぼうの会」 ケイ藻 130 種確認	京都新聞
	21	山門湿原で 130 種の珪藻発見 琵琶湖博物館が発表	産経新聞
	22	山門湿原で珪藻 130 種発見 琵琶湖博物館「たんさいぼうの会」	読売新聞
	22	[遊・You・友]「新春よし笛コンサート」開催案内	朝日新聞
	23	県立琵琶湖博物館はしかけ「たんさいぼうの会」 山門湿原のケイソウ 130 種確認 / 県立琵琶湖博物館フィールドレポーターが「近江ことば」の方言調査	毎日新聞
	23	[湖岸より]〈42〉 トラが残してくれたもの 高橋啓一事業部長	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	23	「トラ・虎・タイガー」えとにちなみ企画展 琵琶湖博物館	京都新聞
	25	山門湿原で珪藻 130 種 琵琶湖博物館の活動グループ発見	朝日新聞
	25	よし笛奏でる琵琶湖の音色 琵琶湖博物館でコンサート	京都新聞
	26	よし笛コンサート 県立琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
	26	県内の方言調査 参加者を募集 琵琶湖博物館 / 日本古生物学会 例会の一部 無料公開 草津市の琵琶湖博物館で	京都新聞
	29	[遊・You・友]お正月トピック展示「トラ・虎・タイガー!？」開催案内	朝日新聞
30	[湖岸より]〈43〉 日高先生の教えに学ぶ 八尋克郎専門学芸員	中日新聞	
2	1	自然の宝もの 国天然記念物アユモドキ 秋山廣光専門学芸員コメント 『アユモ ドキ』写真資料提供	中日新聞
	3	ヨシ笛聞き環境考える 琵琶湖博物館コンサートに 300 人	読売新聞
	6	[湖岸より]〈44〉 鳥の鳴き声 地域で特徴 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	7	博物館や美術館の在り方を提言 草津市の琵琶湖博物館で国立歴史博物館の平川南 館長が講演 / 中国の「太湖」アオコ異常発生 湖沼環境保全で琵琶湖博物館と 協働	中日新聞
	11	ニゴロブナ稚魚水田に放流 微生物種類増えた 琵琶博など調査	京都新聞
	11	ニゴロブナ稚魚放流 プランクトンの種類 2 倍に増加 琵琶湖博物館 水田の生態 系調査	中日新聞
	11	ニゴロブナ水田放流でプランクトン種類倍増 県立琵琶湖博物館などが発表	産経新聞
	12	ブラックバスの駆除作戦 滋賀県立琵琶湖博物館の学芸員ら乗り出す	毎日新聞
	13	[湖岸より]〈45〉 琵琶湖の祖型 中国「太湖」 用田政晴研究部長	中日新聞
	14	ブンブンごま作り熱中 琵琶湖博物館で家族連れ	読売新聞
	15	昔の玩具で遊ぶ催し 草津市の県立琵琶湖博物館で開催	中日新聞
	19	ニゴロブナ放流 水田の微生物倍増 琵琶湖博物館など実験	毎日新聞
	20	[湖岸より]〈46〉 博物館を支える大きな力 高橋啓一事業部長	中日新聞
	23	県、「希少種」に 2 保護区指定 『カイツブリ』写真資料提供	朝日新聞
25	「びわ湖の森の生き物研究会」シンポジウム 草津市の県立琵琶湖博物館で開催案 内	朝日新聞	
26	[遊・You・友]ブンブンごまをつくろう!開催案内	朝日新聞	
27	[湖岸より]〈47〉 身近な動植物 標本や写真に 八尋克郎専門学芸員	中日新聞	
3	1	「瀧樹神社」「布施溜・新溜」の二か所が保護区指定へ 『カイツブリ』写真資料 提供	読売新聞
	3	名古屋 COP10 合わせて県企画 湖国生態系知って 『イワトコナマズ』『カイツ ブリ』写真資料提供 / 長浜沖琵琶湖 最大級タテボシガイ発見 琵琶湖博物館松 田征也学芸員の話	京都新聞
	6	[湖岸より]〈48〉 研究対象の動物に似る 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	9	まちかど掲示板 琵琶湖博物館特別講演会の案内	読売新聞 (しが県民情報)
	12	琵琶湖博物館 講演・講座情報	読売新聞
	12	琵琶湖博物館館長に篠原氏	産経・京都・日本経済新聞
	13	琵琶湖博物館館長 篠原徹氏が就任	読売・毎日・京都・朝日新聞
	13	[湖岸より]〈49〉 館外での技術保存と継承 用田政晴研究部長	中日新聞
	15	琵琶湖と周辺森林の保全などをテーマにしたシンポジウム 県立琵琶湖博物館で開 催	読売新聞
	15	琵琶湖潤す“森”に思いを 県立琵琶湖博物館でシンポジウム	毎日新聞
	17	琵琶湖博物館川那部館長が退官特別講演	毎日新聞
	20	[湖岸より]〈50〉 “大地の夢” 展示会へどうぞ 高橋啓一事業部長	中日新聞
	21	県立琵琶湖博物館 川那部館長が退任前に会見	朝日・読売・京都・中日新聞
	21	紙面から きょうの顔 琵琶湖博物館長川那部浩哉さん	京都新聞
	25	鉱物と化石 夢を掘る 琵琶湖博物館で愛好家、1000 点展示	京都新聞
	26	琵琶湖博物館川那部館長が退任会見	毎日新聞
	28	[湖岸より]〈51〉 人と自然のかかわり合い 八尋克郎専門学芸員	中日新聞
	30	統合研究で合意 琵琶湖博物館など 3 機関	産経新聞
	30	琵琶湖の総合研究で連携 琵琶湖博物館など県立 3 機関	中日新聞
	30	琵琶湖を統合研究 琵琶湖博物館など県立 3 機関が連携合意	毎日新聞
30	琵琶湖研究 3 機関連携 琵琶湖博物館など合意 / 琵琶湖総合保全学術委員会 (川那部浩哉委員長) が環境保全主体的取組みを知事に提言報告	読売新聞	
30	琵琶湖研究タッグ 琵琶湖博物館など 3 研究機関	京都新聞	
30	琵琶湖総合保全学術委員会 (川那部浩哉委員長) が提言書で「生活」あり方言及 琵琶湖博物館など三つの機関 琵琶湖研究連携強化	朝日新聞	
31		朝日新聞	

(3) 広告掲載一覧 (有料分)

時期	掲載誌	サイズ	スペース	地域	発行部数
6月中旬	夏ぴあ(関西版)	A4版	1/2	関西圏	10万部
6月中旬	夏休みファミリーレジャーガイド (名古屋東海版)	A4変形	1/3	名古屋・東海地域	20万部
6月中旬	エルマガブック「滋賀本」	AB版	1/4	関西ほか	10万部
6月上旬	産経新聞本紙・朝刊		全2段	大阪市域	23万部
7月下旬 ・8月上旬	朝日新聞滋賀版広告企画 「ロードサイド」	72mm×79mm		滋賀県内	11.5万部
6月下旬	「関東レク情報」(関西・中国版)	1ページ (250mm×183mm)		全国の小中学校	4.5万部
7月中旬	産経新聞本紙・朝刊		2段 1/2	東海・北陸・三重・ 滋賀・京都・和歌 山・兵庫・中国・ 四国・山口・九州	46万部
7月下旬	毎日新聞名古屋版	66mm×19mm		名古屋市内	5万部
2010年 2月下旬	まっふるマガジン 「ベストドライブ京阪神」	A4変形	1/6	京阪神中心	10万部
3月下旬	アドTV	全3段+2回セット		大津・湖南地域	5万部

(4) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	琵琶湖博物館の催し物案内 / 表紙 琵琶湖博物館来館者の写真 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 レジャー施設入込みデータ 琵琶湖が借景 琵琶湖博物館の紹介 グレートマザー 琵琶湖と暮らす 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館で Kids ファッション誌の撮影ロケ 琵琶湖（あなた）なしでは、生きられない！（第1話）琵琶湖博物館専門学芸員里口保文 / 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1（県広報誌）4月号 vol. 118 博物館研究 4月号 子供の科学 4月号 れいかる<春号> vol. 52 エンターメントビジネス 4月号別冊 No. 24 読売 京都ライフ 第310号 Relaclass 春号 vol. 73 JAF Mate 4月号 びいめーる vol. 67 HOSO(Collection book in 2009) Spring & Summer ポップリード vol. 17 BY スタンプラリー かわら版 61号 ここいこ(滋賀) <リビング滋賀の生活ガイドブック> ドキドキサンクス vol. 38 子育てガイド(湖東健康福祉事務所) 4月号 にゅーすもりやま No. 471 滋賀・びわ湖畔教育旅行体験学習旅行プログラム くさポン(草津とくとくガイドブック) 2009年度
5	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 滋賀県立琵琶湖博物館で2008年度日本蜻蛉学会大会開催 イナズマロックフェス2009に向けて西川貴教さんが琵琶湖博物館訪問 ぶらっとおでかけ 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1（県広報誌）5・6月号 vol. 119 博物館研究 5月号 子供の科学 5月号 にゅーすもりやま No. 472 全科協ニュース Vol. 39 No. 3 月刊むし No. 459 5月号 turbo EXPRESS(西川貴教オフィシャルファンクラブ会報誌) 5月号 滋賀リビング 第1271号
6	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 対談 今を語る 琵琶湖博物館館長川那部浩哉 X 天理教道友会会長上田嘉太郎 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示・催し物案内 俳人協会主催吟行会で川那部浩哉琵琶湖博物館館長が講演 琵琶湖（あなた）なしでは、生きられない！（第2話）琵琶湖博物館専門学芸員山川千代美 / 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究 6月号 子供の科学 6月号 日経サイエンス 6月号 すきっと(天理教道友社) vol. 13 広報くさつ No. 1000 びいめーる vol. 68 俳句文学館 6月号 ポップリード vol. 18 ぱどナビマガジン vol. 007
7	琵琶湖博物館の企画展示・催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 俳人協会主催「花と緑の大津吟行会」での川那部浩哉琵琶湖博物館館長の講演要旨 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示紹介	滋賀プラス1（県広報誌）7・8月号 vol. 120 博物館研究 7月号 子供の科学 7月号 れいかる<夏号> vol. 53 にゅーすもりやま No. 476 俳句文学館 7月号 甲賀市広報「あいこうか」7月号 大人組 Kansai 7月号
7	大津プリンスホテル周辺散策ナビ 琵琶湖博物館紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介・企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内	湖都時(kototoki) 2009summer 大津プリンスホテル サマープラン2009 夏びあ(関西版) 7月 夏休みファミリーレジャーガイド2009(名古屋・東海版) 7月

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	ハスパスで巡る琵琶湖博物館 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖のことなら琵琶湖博物館へ 琵琶湖博物館の紹介 レジャー施設入込みデータ	ぐるり蓮の旅 ばどナビマガジン vol. 009 滋賀のABC 7月 エンターメントビジネス7月号別冊 No. 25
8	琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖（あなた）なしでは、生きられない！（第3話）琵琶湖博物館専門学芸員桑原雅之 / 琵琶湖博物館の企画展示案内	博物館研究 8月号 子供の科学 8月号 にゅーすもりやま No. 478 水族館びあ（全国版） ファミリーウォーカー関西 8月号 ドキドキサンクス vol. 40 ポップリード vol. 19
9	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 / 企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1（県広報誌） 9・10月号 vol. 121 博物館研究 9月号 子供の科学 9月号 全科協ニュース Vol. 39 No. 5 甲賀市広報「あいこうか」 9月号 コレカラ 9月号 関西レク情報（日本教育ジャーナル） 9月 ばどナビマガジン vol. 012、013 近江の歴史見聞学2009
10	琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 「湖と人間」のよりよい共存関係をめざして 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖（あなた）なしでは、生きられない！（第4話）琵琶湖博物館専門学芸員芳賀裕樹 / 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究 10月号 子供の科学 10月号 れいかる<秋号> vol. 54 マザーレイク 秋号 vol. 5 ナショナルジオグラフィック（日本版） 湖南地域！ええとこクイズラリー 理科教室 ポップリード vol. 20 ばどナビマガジン vol. 014 びいめーる vol. 70
11	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 レジャー施設夏休み・シルバーウィーク入込みデータ 琵琶湖博物館の催し物案内 楽しく、そして深く「琵琶湖」のことを知るなら「ココに決まり！」 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 / 企画展示案内 動物の赤ちゃん『ニッポンバラタナゴ』 琵琶湖博物館専門学芸員松田征也	滋賀プラス1（県広報誌） 11・12月号 vol. 122 博物館研究 11月号 子供の科学 11月号 全科協ニュース Vol. 39 No. 6 エンターメントビジネス 11月号別冊 No. 26 ばどナビマガジン vol. 016、017 琵琶湖ホテル LUNCH PLAN（旅行代理店向け「レストランガイド」） 2010春 関西文化の日 パンフレット 文部科学時報
12	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館特別講演会・セミナーの案内 琵琶湖の魚 前畑政善上席総括学芸員 琵琶湖（あなた）なしでは、生きられない！（第5話）琵琶湖博物館専門学芸員亀田佳代子 / 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	博物館研究 12月号 子供の科学 12月号 びいめーる vol. 71 ばどナビマガジン vol. 018 にゅーすもりやま No. 485 じゅげむ vol. 77 にじのはし（せいきょう子ども新聞） ポップリード vol. 21
1	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の案内	博物館研究 1月号 れいかる<冬号> vol. 55 ばどナビマガジン vol. 020、021 にゅーすもりやま No. 487 全国観光・運輸総合カタログ

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
2	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖（あなた）なしでは、生きられない！（第6話）琵琶湖博物館専門学芸員松田征也 / 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 ぶらっとおでかけ KANSAI 体験レポート 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館専門学芸員芳賀裕樹	博物館研究 2月号 子供の科学 2月号 ぱどナビマガジン vol. 023 ポップリード vol. 22 にゅーすもりやま No. 489 びいめーる vol. 72 RELATION（関西電力）
3	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 鼎談 博物館あれこれ 川那部浩哉琵琶湖博物館館長 行ってみよう科学探検 - 「湖と人間」をテーマに、体験しながらともに考え、成長する博物館 琵琶湖博物館専門学芸員山川千代美、飯住達也主任主事、大依久人主査 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1（県広報誌）3・4月号 vol. 124 博物館研究 3月号 子供の科学 3月号 人環フォーラム No. 26 理科教室 ぱどナビマガジン vol. 024

(5) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者	
4	1	(地デジ) お出かけ案内	ギャラリー展示 百年前の大震災、わくわく探検隊春の草花でしおりをつくろう、特別講演会、希望が丘自然観察会(植物)、里山体験教室、初夏の里山を歩こう	びわ湖放送	山川専門学芸員
4	11	おはよう朝日土曜日です	ピワマス	朝日放送	桑原専門学芸員
4	28	くらし Safty	特別講演会 地震を知って震災に備える	びわ湖放送	山川専門学芸員
4	29	ニュース	ギャラリー展示 百年前の大震災	びわ湖放送	里口専門学芸員
		スーパーJチャンネル	カワウの生態	テレビ朝日	亀田専門学芸員
5	6	DAILY!かわら版	ギャラリー展示 百年前の大震災	ZTV 大津	里口専門学芸員
5	7	おうみ発 610	ギャラリー展示 百年前の大震災	NHK 大津	里口専門学芸員
5	9 10	WEEKLY!かわら版	ギャラリー展示 百年前の大震災	ZTV 大津	里口専門学芸員
5	15	所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ!	水族、レストラン「にほのうみ」のバス天井	テレビ東京	
6	6	おはよう朝日土曜日です	イワトコナマズ	朝日放送	桑原専門学芸員
5	19	とっておき滋賀 545	ギャラリー展示 百年前の大震災	びわ湖放送	里口専門学芸員
5	30	持続可能な滋賀社会 どこにいった滋賀のメダカ	メダカ	びわ湖放送	松田専門学芸員
6	6	ときめき滋賀's	展示室、はしかけ、ディスカバイイベント	びわ湖放送	磯田主任技師、老学芸員、中島上席総括学芸員
6	6	自転車倶楽部	琵琶湖博物館紹介	BS 日テレ	磯田主任技師
6	12 ~ 18	吹田市広報番組 水源見学バスの旅	琵琶湖博物館紹介	吹田ケーブルテレビジョン	白井主査
6	28	マリコのちょっとお出かけ! 新・発・見	琵琶湖博物館紹介	ラジオ大阪	中島上席総括学芸員
7	6	がんばれ! 元気ッズ	草津市内の子どもたちが館内案内	朝日放送	山川専門学芸員
7	10	知っとこ滋賀	企画展示 骨の記憶	KBS ラジオ	高橋総括学芸員
7	13	人生が変わる 1 分間の深い話	フナの話 「ニゴロブナ」写真提供	日本テレビ	山川専門学芸員
7	15	ふるさと一番	はしかけ、フィールドレポーター、レストラン	NHK 大津	桑原専門学芸員
7	31	とくダネ!	企画展示 骨の記憶、ほねほねくらぶ 標本づくり	フジテレビ	高橋総括学芸員
7	31	マイ・エコロ・スタイル (ナナイロ)	博物館概要、企画展示 骨の記憶、関連イベント、テントウムシ調査	FM 滋賀	八尋専門学芸員
8	3	NEWS ゆう+	水族 ブラックバス、レストラン「バスパーガー」	朝日放送	前畑上席総括学芸員
8	5	ニュース	ピワコオオナマズ	関西テレビ	前畑上席総括学芸員
8	7	DAILY!かわら版	企画展示 骨の記憶	ZTV 大津	高橋総括学芸員
8	8 9	Weekly!かわら版	企画展示 骨の記憶	ZTV 大津	高橋総括学芸員
8	19	ちょっと変だぞ 日本の自然	カワウ	NHK 総合	亀田専門学芸員
8	29	持続可能な滋賀社会 2009	清流に暮らす生き物の現状と環境面での課題点	びわ湖放送	榊永主任学芸員
9		EBN TV ドキュメンタリーシリーズ「人と水と環境-日本編」	琵琶湖博物館について、琵琶湖の歴史と周辺環境	韓国 EBN TV	中島上席総括学芸員

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者
9	3	ニュース	中国科学院調印	NHK 大津	中島上席総括学芸員
9	5	ウェイクアッププラス	水草問題とバイオエタノール	読売テレビ	芳賀専門学芸員
9	27	素敵な宇宙船・地球号	アリゲーターガー、外来魚	テレビ朝日	中井主任学芸員
10	3	報道特別番組	外来カタツムリ、ヒメリンゴマイマイ	テレビ朝日	中井主任学芸員
10	21	おうみ発 610	イチモンジタナゴ	NHK 大津	磯田主任技師
10	30	滋賀プラスワンインフォメーション	はしかけ講座と交流会	FM 滋賀	中島上席総括学芸員
11	21	世界ふしぎ発見	コイの咽頭歯、朝日遺跡	TBS	中島上席総括学芸員
11	27	SAVE THE GREEN! エコネット	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」	FM 滋賀	前畑上席総括学芸員
11	27	サイエンスチャンネル「赤ちゃんがいっぱい」	ニゴロブナ	スカパー!	大塚主任学芸員
		MBC プライム“生命の水、八堂湖を守れ”		韓国文化放送 (MBCTV)	八尋専門学芸員
12	11	ニュースワイド キャッチ	瀬田橋の欄干	びわ湖放送	橋本主任学芸員
1	1	滋賀プラスワンインフォメーション	ギャラリー展示 古生物の復元ー科学と芸術が会うところー	FM 滋賀	高橋総括学芸員
1	12	おうみ発 610 QP ハートプラザ	新春よし笛コンサート	NHK 大津	八尋専門学芸員
1	22	おうみ発 610	ギャラリー展示 古生物の復元ー科学と芸術が会うところー	NHK 大津	山川専門学芸員
1		スーパーニュース アンカー	トピック展示トラ・虎・タイガー	関西テレビ	松田専門学芸員
1	15	ホンネの殿堂～紳助にはわかるまいっ～	ニゴイ、エビ、オオクチバス・オイカワ・カワムツの料理法	フジテレビ	松田専門学芸員
1	12	おうみ!かわら版 滋賀	ギャラリー展示 古生物の復元ー科学と芸術が会うところー トピック展示トラ・虎・タイガー	ZTV 滋賀	高橋総括学芸員 八尋専門学芸員
1	16 17	Weekly!かわら版 (滋賀)	ギャラリー展示 古生物の復元ー科学と芸術が会うところー トピック展示トラ・虎・タイガー	ZTV 滋賀	高橋総括学芸員 八尋専門学芸員
1	22	ニュース	近江ことばいまむかし調査	NHK 大津	中藤主任学芸員
1	24	ニュース	新春よし笛コンサート	びわ湖放送	八尋専門学芸員
2	10	ニュース	「生物多様性」シリーズにおける「外来鑑賞魚」	NHK 大津	中井主任学芸員
2	5	滋賀プラスワンインフォメーション	滋賀県博物館協議会講演会「博物館・美術館と地域社会」	FM 滋賀	戸田主任学芸員
2	8	おうみ!かわら版 滋賀	昔遊び	ZTV 滋賀	中藤主任学芸員
2	13 14 15	Weekly!かわら版 (滋賀)	昔遊び	ZTV 滋賀	中藤主任学芸員
2	17	平和堂マイデイリーライブ	はしかけ活動紹介	FM 滋賀	中藤主任学芸員

(5) 予算

2009年度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	148,956,904
財 産 収 入	880,850
諸 収 入	22,540,926
合 計	172,378,680

2009年度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費	262,548,668
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、 水族飼育	123,244,672
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	80,283,400
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	30,234,024
	合 計	496,310,764

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

- 開催日時 2009年8月27日（火） 13:30～16:00
 場 所 琵琶湖博物館セミナー室
 議 題 ①琵琶湖博物館の運営状況について
 ②中長期基本計画2009年度行動計画について

第7期委員

（任期：2008年9月1日～2010年8月31日）

氏 名	区分	現 職（2010年3月現在）
野村 喜代子	学校教育	草津市立志津小学校 校長
河上 哲昭	学校教育	守山市立明富中学校 校長
津屋 結唱子	社会教育	しが文化芸術学習支援センター トータルコーディネーター
青木 繁	社会教育	(有)グリーンウォーカークラブ・ネイチャーガイド研究所 代表取締役
伴 修平	学識者	滋賀県立大学環境科学部 教授
篠原 徹	学識者	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 理事
西 源二郎	学識者	東海大学海洋科学博物館 館長
村井 良子	学識者	(有)プランニング・ラボ 代表取締役
森田 輝夫	学識者	時事通信社 大津支局長
筒井 のり子	学識者	龍谷大学社会学部地域福祉学科 教授
伊達 仁美	学識者	京都造形芸術大学芸術学部 准教授
木上 秀保	学識者	滋賀県脊髄損傷者協会 副会長
劉 穎	学識者	翻訳者・中国語講師
中村 恵子	学識者	公募委員
坂田 久子	学識者	公募委員

(2) 企画・計画

1) 第二段階（2006年度～2010年度）活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。2009年度は計画の第二段階の最終年度であり、2007年9月に策定された中長期基本計画第二段階（2006年度～2010年度）活動計画に基づき、2009年度行動計画の実績・評価を踏まえて、2010年度の行動計画案を策定した。来年度は中長期基本計画第三段階（2011年度～2015年度）の活動計画の作成が必要になっている。

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

琵琶湖博物館の「利用されることで成長・発展する博物館」という博物館の理念は、一定の支持を集め、2009年度には700万人目の来館者を迎えることができた。2009年度は広報・経営基本戦略に基づき、2009年度の行動計画を策定した。新型インフルエンザ、大人の観覧料金の値上げなどの影響により来館者は388,040人であった。来年度は、2010年度の行動計画を策定するとともに、関西・東海地域を中心として、旅行雑誌等に企画展・ギャラリー展示の広告を掲載するなどして一般来館者を確保していきたい。

Ⅲ 2009 年度をふり返って

1 研究部

「琵琶湖博物館中長期基本計画」では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを研究の柱としてきた。特に、昨年度は琵琶湖博物館が行う研究課題の内容、位置づけ、方法等の指針を作成し、学芸職員全員の科学研究費申請も目標に掲げてきた。

前者は、「琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性」として2009年3月にとりまとめ、主に研究の領域、研究の体制、県の施策との関係、琵琶湖博物館での研究機能の4つの視点から検討を行ったところである。ただ、具体的な類例や方策が不十分であり、2009年度も引き続きその内容についての具体的検討を行い、2010年3月に「【参考】琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性（補足）」としてとりまとめた。

また、科学研究費については、20件の新規申請中7件が採択され、継続分を併せて15件となり、都道府県立の博物館としては全国トップクラスのものとなった。申請書類の内容精査を徹底的に行った結果であるが、一方で科研費の経理事務体制が問題となりつつある。今後とも全員申請と採択率の向上という目標に向かって努力するとともに、研究機関としての体制整備もさらに充実させていく必要があるし、間接経費等の支出ルール作りも求められるようになってきている。

研究発信は、学术论文21件、専門分野の著述28件、一般向けの著述57件、学会発表は40件であり、一般向けの著述を除いて前年を数では下回った。論文等による研究成果の発信数には依然として個人差があるが、少なくとも研究成果の公表や活用はあらゆる媒体や方法を使って行っていきたい。

また、本年度は、昨年度の「新琵琶湖学入門セミナー」に続き「新琵琶湖学専門セミナー」と題した一般向けの講座を開催した。博物館の閑散期にあたる12月から3月まで、計10日間にわたって、内部・外部の講師による講座で、毎回数十名の聴衆を集めた。今後、こうした人々が琵琶湖博物館を支える基礎単位となっていくと考えられ、さらに拡充していくため引き続き今後の研究成果公表等の企画が望まれる。

2 事業部

(1) 展示交流

第17回企画展示「骨の記憶—あなたにきざまれた5億年の時—」（7月18日～11月23日）は入場者数70,530人（入り口カウント）で、当館の企画展示の中では歴代2位となった。この入場者数の多さは、骨格標本を楽しむというシンプルかつ博物館らしい内容が共感を得た結果と思われる。はしかけグループのほねほねクラブが自身で作製した骨格標本を展示するなど、参加型の展示も話題となった。

ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」(4月25日～6月7日)は、滋賀県防災危機管理局との共同主催で、産業技術総合研究所地質調査総合センター、彦根地方气象台、湖南広域消防局の後援、イオンモールの協賛をいただくなど、幅広い協力体制の下に開催された。この展示は博物館で開催期間終了後に県内7箇所で開催された。防災という特殊な分野の展示だった点は考慮する必要があるが、博物館の展示が館内にとどまらず、県内各地に巡回したことは、今後の当館の展示活動のあり方のひとつの方向として重要である。

財政構造改革プログラムにより2008年度に削減した展示交流員については2009年は1ポストの復帰が認められ、日数は限定されるものの回転実験室の再開を果たすことができた。また、WWF・ブリジストンの支援により2009・2010年の2年限定ではあるが水族展示のふれあい体験室も再開した。これらは来館者が体験的に展示を楽しむコーナーであり、再開の反響は大きかった。ただし、今後の県の新たな財政構造改革プログラム次第ではこれらのコーナーは再び閉鎖を余儀なくされる可能性があり、いかにしてサービスを維持していくかは今後の大きな検討課題である。

(2) 資料の整備・活用

2009年度は、2008年度に引き続き県の財政構造改革プログラムと中長期基本計画に沿って、低経費の収蔵環境整備と資料の活用推進につとめた。

収蔵環境の整備としては、温湿度環境のきめ細かい把握を可能にする体制作りを進めたが、2009年度以降も引き続き体制の確立に向けた検討と試行が必要である。一方、収蔵空間ではカビの発生がみとめられ、高湿度環境がカビ発生の原因となっていることから、カビの除去とともにさまざまな湿度低下対策を実施した。かなり環境は改善したが、引き続き注意が必要である。燻蒸については、使用していた燻蒸薬剤の生産中止にともない、大型燻蒸庫の燻蒸剤変更工事を実施した。しかし、老朽化やサビの発生などにより資料への影響が懸念されるため、さらなる工事が必要となっている。このように、きめ細かい対応により収蔵環境は維持されているが、予算が少ない分職員の負担が増えており、焦点を絞った効率的な事業の実施が必要となっている。

資料の活用推進としては、データベースの新規公開（爬虫両生類）や公開点数の追加（民俗資料）、インターネットによる資料活用状況の公開分野追加（映像資料）などを行った。活用の成果もあがっているが、保存よりも活用を優先する「時限保存資料」の管理や活用体制、他機関等と資料を相互に利用できる環境整備や情報共有など、積極的な環境整備はまだ今後の課題である。

(3) 交流・サービス活動

学校サテライト博物館は、2009年度湖北町立朝日小学校から、高島市立青柳小学校へ、本事業を開始して最初の移転を行った。本事業は、学校の空き教室および企画展などで作成した展示資料の有効利用に加え、地域の人たちとの連携を強化することを目的に始められた。しかし、学習指導要領の改訂や学校自体による空き教室の利用が進み、開始当初とは学校の置かれている環境も大きく変化してきている。今後、移転先となる学校の選定の仕方や、学校以外での実施などについても検討していく必要がある。

「はしかけ」制度については、参加者は371名と前年度とほぼ同数であったが、新たなグループとして「からすま通信局」が活動を開始した。「フィールドレポーター」制度は、定期調査を広報して広く調査への参加を呼びかけることで、知名度を上げることはできた。ただ、登録者数は137名と、昨年度と比較して若干減少した。

観察会講座等では、地域で活動している機関・個人・団体、はしかけ、フィールドレポーターなどと連携・協働を意識して実施している。特に、観察会・見学会では協働実施率が92%と、かなり進んできた。ただ、全般に前年度までと比べて参加者数が少なくなっている。これは、財政構造改革プログラムによる予算の減少に伴って、うみんど・うみっこなどの広報媒体の発行ができなくなったことが大きな原因の一つと考えられた。今後、広報のやり方などを検討していく必要がある。

2009年度は、新型インフルエンザの流行により、来館学校団体が減少したり、いくつかの交流事業を中止せざるを得なくなったりと、大きな影響を受けた。今後、このような事態が発生したときの、対応などについても検討しておく必要があるかもしれない。

(4) 情報発信

昨年度の課題であった、端末機器群の運用が財政事情により困難になってきていること、発信情報と双方向情報交換との連携が巧くいっていないことの2点については、今年度も大きくは変わっていない。後者については、新規質問回答情報の入力作業を積極的に進めるなど、状況が許す限りの努力を続けているところである。発信情報自体については、案内情報の再整理などの作業を1つ1つ順を追って進めている。

3 総務部

(1) 来館者の状況

2009年度の来館者数は38万人台と過去最低を記録した。2008年と比べると、有料/無料の別では有料が減少し、個人/団体の別では特に団体で減少し、また未就学児/小中学生/高校・大学生/一般の別では、一般が特に減少していることがわかる。月別で見ると、特に5月の落ち込みが顕著だった。5月の来館者減少については、新型インフルエンザの流行により、臨時休館したことと、学校団体のキャンセルが相次いだことが原因であると考えられる。さらに景気悪化などの外的要因も原因の一端であると考えられる。有料の減少、一般の減少の原因としては、2009年4月1日から常設展示観覧料金の改定があり、小中学生が無料化し、一般が値上がりしたことの影響が考えられる。

琵琶湖博物館の来館者数は、開館以来減少傾向にあったが、2005・2006年度には琵琶湖博物館広報経営戦略に基づく広報活動の展開、開館10周年の記念イベントや黄色いナマズが相次いで捕獲されるなどの話題性もあり回復に転じることができた。しかし、2007年度に再び減少し、44万人台となった。2008年度においても、下半期には世界的な金融危機が日本経済や景気に暗い影を落とし、一般来館者の減少に結びついたと考えられ、過去最低の40万人台の来館者数となったが、2009年度については更に減少し、38万人台となった。

(2) 来館者アンケート

2009年度のアンケート調査では、3回行った調査で満足度の平均は82.1%と2008年度の85.2%にはおおよばなかったものの、良い評価を受けた。全体的傾向として「はじめて」来館された方は減少し、「4回以上」来られているリピーターの方は微増している。居住地をみると2009年3月の調査で滋賀県在住の方の比率が19.1%であったのに対し、2010年3月は57.9%と3倍以上も増加した。これは3月はじめに湖南地域に全戸配布したチラシの効果があつたものと推定される。このように今後も地域に根ざした広報活動が有効な手段だと考えられる。

(3) 広報・戦略

より効果的で効率的な博物館運営を目指すために、琵琶湖博物館広報・経営戦略会議に基づく2009年度の行動計画を策定して実行した。今年度は、9月末までに、新聞、雑誌に有料広告を8回掲載するほか、県内各市町校長会でのPRなど学校団体への働きかけ、大型集客施設での企画展示・常設展示の紹介展示の設置、湖周道路への看板追加設置、年間観覧券購入者への招待券の特典、非利用者の調査、閑散期のイベントとして新春よし笛コンサートを行った。新型インフルエンザ、大人料金の値上げなどの影響によって目標である425,000人の来館者数は達成できなかった。今後も効果的・効率的な運営と柔軟な財源の確保を図っていく必要がある。

(4) 施設整備

建築後10年以上が経過し、設備等の劣化が進行しており、空調設備や配管等の修繕等を行い、施設設備の維持管理に努めた。また、博物館全体の施設設備について、2005年度に実施した空調設備保全計画に基づき配管改修工事に着手した。

(5) 来館者サービスの向上

来館者サービスの向上の一環として2004年4月から1年間何回でも観覧できる年間観覧券（年間パスポート）の販売を始め2009年度は311人（対前年305人減、観覧料小中学生無料化に伴う小中学生用年間観覧券の廃止による）に購入いただき延べ1,369回の入館観覧をしていただいた。当館の来館者はリピーターの方が多く、利用者ニーズに応えることができるとともに顧客の定着化による利用促進が図れた。この効果を

さらに高めるため、11月より年間観覧券購入時に常設展観覧券1枚を進呈するサービスを始めた。また、2009年度は、旅行会社のパンフレットに組み込んでもらう形のクーポンにより7月～9月の間に655の方が来館された。

(6) 国際交流活動

JICAからの受託事業として「博物館学集中コース」研修を国立民族学博物館との共催で実施し、6カ国10名の研修生を受け入れた。帰国した研修員からは「はしかけ」や「フィールドレポーター」制度のような地域と博物館をつなぐ組織作りを計画しているとか、琵琶湖博物館で学んだことをベースに学校向けのプログラムを開発しているなどの報告を受けている。

IV 博物館利用のご案内

■開館時間 午前9時30分から午後5時まで（入館は、午後4時30分まで）

■休館日 毎週月曜日（月曜日が休日の場合は開館）
 年末年始（12月25日～1月2日）
 その他館長が定める日

■観覧料（常設展示） （2010年4月1日現在）

	個人	団体(20名以上)	年間観覧券	共通券(*)
高校生・大学生	400円	320円	1,600円	520円
大人	750円	600円	3,000円	850円

(*) 草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。団体は取り扱いません

※未就学児、小中学生、障害のある方、県内居住の65歳以上の方は常設展示の観覧は無料です。（詳細についてはご確認ください。）

※年間観覧券は、購入後1年間、常設展示、企画展示を何回でも観覧できます。

※企画展示はそのつど料金を定めます。（開催期間中）

■交通案内

- JR 新幹線「京都駅」「米原駅」から JR 琵琶湖線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。
 「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車、約25分。
 タクシーで約20分。
 「守山駅西口」からタクシーで約20分。
- 車では、名神高速道路「栗東 I.C」から国道1号線～栗東志那中線～湖周道路を経て約25分。
 または「瀬田西 I.C」から湖周道路を経て約30分
- 航路では、琵琶湖汽船シャトルボートで「大津港」、「琵琶湖大橋港」から「草津烏丸半島港」へ（不定期）
 *問い合わせ先：琵琶湖汽船 077-524-5000



■駐車料金（2010年4月1日現在）

大型バス	マイクロバス	普通車	二輪車
1,700円	1,100円	550円	200円

※博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

■問い合わせ

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地
 滋賀県立琵琶湖博物館
 TEL (077) 568-4811 FAX (077) 568-4850
 インターネットホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

琵琶湖博物館 年報 14号

2009年度

平成22年(2010年) 10月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県下物町1091番地

電話 077-568-4811